

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015

PARASOPHIA

この小冊子は無料です。

この小冊子は、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015にご来場いただいた皆様が、本展をより楽しくより深く体験していただくために製作された無料配布のガイドブックです。

全会場を記載した市街地図があります。

21カ国から40組の美術家などが参加する京都初の大規模な現代芸術の国際展PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015は、京都市美術館全館と京都府京都文化博物館別館を主会場に、京都芸術センター、堀川団地（上長者町棟）、鴨川デルタ（出町柳）、河原町塩小路周辺、大垣書店烏丸三条店、京都BALなど京都市内8カ所の会場で開催します。ガイドブックの巻頭近くに全ての会場を記載した市街図（p. 9）があります。

作家ページは展示の順番に並んでいます。

このガイドブックの作家ページは、PARASOPHIAで最も広い会場である京都市美術館の最初の部屋から始まり、理想的な展示ルートとして配列されています。鑑賞中に自分の位置がわからなくても、作家ページの小さな地図アイコンを参考に自分の位置を確認することができます。

どの会場からでも鑑賞を始められます。

ガイドブックの配列は市内の各会場を巡るひとつの目安ではありますが、いま自分が居る会場とガイドブックの目次を一致させれば、どの会場からでも、どの順番からでも自由に鑑賞を始められます。

写真撮影は一部の作品を除き自由です。

参加作家と所蔵者のご理解とご協力により、一部の作品を除き自由に写真撮影ができます。ただし、フラッシュや三脚は使用できません。

ガイドブックは解説パネルの役割を果たします。

作家ページは作品を理解するためのいわば携帯版解説パネルです。展示作品の解説だけでなく作家の活動全般もあわせて紹介しています。

会期中に開催するイベントカレンダーがあります。

会期中のレクチャーやフォーラム、ワークショップなど、さまざまなイベント情報（p. 69）とイベントカレンダー（p. 65）を収録しています。より詳しい最新情報は随時更新する公式ウェブサイト（www.parasophia.jp）から入手してください。

会期中に市内で開催される多数のイベント情報が収録されています。

PARASOPHIAの会期中、京都市内ではさまざまな芸術系の催しがあります。こうした関連情報や市内ギャラリーの展覧会情報なども収録しています。

このガイドブックは入門編です。

このガイドブックは現代芸術の鑑賞に馴染んできた方はもちろん、初めて現代芸術に出会う方々にも活用していただければ幸いです。もし気になる作家に出会えたら、名前にマークを付けたり、メモを書き込んだりして、たくさん使い込んでください。またPARASOPHIAの公式ウェブサイトからも、多くの作家のホームページにリンクしています。そしてさらなる興味を抱かれた方には、中級編としてPARASOPHIA 2015公式カタログをお勧めします。

This booklet is free

This freely-distributed guidebook has been produced in the hope of providing the attendees of *Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015* with a deeper and more enjoyable experience of the festival.

It contains a map of the city, on which all of our venues are marked

Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015 is Kyoto's first large-scale international exhibition of contemporary art, featuring about forty participating artists from twenty-one different countries. Its main venues are the Kyoto Municipal Museum of Art and the Annex Hall of the Museum of Kyoto; the festival's eight sites around Kyoto also include the Kyoto Art Center, the Horikawa Housing Complex (Kamichoja-machi Building), the Kamo River Delta (Demachiyanagi), the areas near the cross streets of Kawaramachi and Shiokoji Streets, Books Ogaki Karasuma Sanjo, and Kyoto BAL. There is a map of the city towards the front of the guidebook, on which all of these venues are marked.

The artists are arranged according to the order in which their works are exhibited

The pages in this guidebook introducing the artists are arranged according to a typical route through the exhibition, starting from the first room of Parasophia's largest venue, the Kyoto Municipal Museum of Art. If you happen to lose track of where you are while viewing the artworks, you can refer to the small map icons on the artists' pages.

You can begin your route from any venue

This guidebook starts from the exhibition at the Kyoto Municipal Museum of Art, but wherever you choose to begin your viewing, if you turn the page to your current location, you can proceed alongside the book without any difficulty. Although the arrangement of this guidebook provides one possible suggestion for how to navigate Parasophia, everyone is free to begin their viewing from any venue, and to proceed in any order.

With some exceptions, you are free to photograph the artworks

With the understanding of the participating artists and exhibitors, you are free to take photographs of the artworks, with some exceptions. Flash photography and tripods, however, are not permitted.

This guidebook serves as a substitute for exhibit labels

The artists' pages in this guidebook play the part of descriptive labels on the walls of an art museum. You could say that this guidebook provides a mobile version of these exhibit labels, with descriptions available at your fingertips. This guidebook also introduces a given artist's entire corpus of work in addition to describing their exhibited work.

This guidebook features a calendar of the various events occurring throughout the festival

Parasophia is preparing various different lectures, forums, workshops and other events for during the course of the festival. These are listed in the event calendar, alongside information about the events in question. For more details and up-to-date information, please check our website (www.parasophia.jp).
* Calendar in Japanese only. For information in English, see the list of events and our website.

Information about the many events happening around the city is included within

During Parasophia, there will be various events related to the arts happening all across Kyoto. We have included as much information as possible about these events, and the exhibitions that are being held in the city's galleries.

This guidebook is an introductory volume

This guidebook is meant not only for those who are accustomed to viewing contemporary art but also for people who are encountering contemporary art for the first time. This booklet is essentially disposable, but if you happen to encounter an artist who interests you, please mark their name and hold on to this guidebook. Many of the artists have their own websites, which are linked from Parasophia's website. You will find even more information if you search the artists' names online. We would also recommend that those who find their interest sufficiently piqued consider the official catalogue of Parasophia 2015, a more in-depth volume.

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015

会期：2015年3月7日(土)―5月10日(日)
会場：京都市美術館、京都府京都文化博物館、京都芸術センター、堀川団地（上長者町棟）、鴨川デルタ（出町柳）、河原町塩小路周辺、大垣書店烏丸三条店、京都BAL
休場日：月曜日（ただし、3/9、5/4は開場。京都府京都文化博物館のみ4/27は開場）
主催：京都国際現代芸術祭組織委員会、一般社団法人京都経済同友会、京都府、京都市

[会場案内]

京都市美術館

京都市左京区岡崎円勝寺町124（岡崎公園内） Tel 075-771-4107 www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma
開館時間：9:00-17:00（3/27-4/12、4/29-5/10は19:00まで開館。最終入館は30分前まで）
有料（京都府京都文化博物館別館との共通券）
アクセス：[電車] 市営地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩10分 [バス] 市バス46、5、100系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、市バス32系統「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩3分

京都府京都文化博物館 別館

京都市中京区三条高倉 Tel 075-222-0888 www.bunpaku.or.jp 開館時間：10:00-19:00（最終入館は30分前まで）
本館3階フィルムシアターは別途、PARASOPHIAシネマプログラムをご確認ください
有料（京都市美術館との共通券）
アクセス：[電車] 市営地下鉄烏丸線・東西線「烏丸御池」駅5番出口より東へ徒歩3分、京阪「三条」駅6番出口より西へ徒歩15分、阪急京都線「烏丸」駅16番出口より高倉通を北へ徒歩7分
[バス] 市バス15、51系統「堺町御池」下車徒歩2分、市バス3、5、32系統等「河原町三条」下車、西へ徒歩15分

京都芸術センター

京都市中京区室町通蛸薬師下ル山伏山町546-2 Tel 075-213-1000 www.kac.or.jp
作品公開時間：10:00-19:00（最終入場は30分前まで）
アクセス：[電車] 市営地下鉄烏丸線「四条」駅／阪急京都線「烏丸」駅22、24番出口より徒歩5分
[バス] 市バス3、5、201、203、207系統等「四条烏丸」下車徒歩5分

堀川団地（上長者町棟）

京都市上京区西堀川通上長者町上ル毘呂町 堀川団地上長者町棟1階
作品公開時間：10:00-19:00（最終入場は30分前まで）
アクセス：[バス] 市バス9、12、50、67系統「堀川下長者町」下車、北へ徒歩2分

鴨川デルタ（出町柳）

賀茂川・高野川合流部 作品公開時間：10:00-18:00
アクセス：[電車] 京阪「出町柳」駅3番出口すぐ [バス] 市バス3、4、102系統等「河原町今出川」下車すぐ

河原町塩小路周辺

京都市下京区下之町 作品公開時間：10:00-19:00
アクセス：[電車] JR「京都」駅より東へ徒歩10分 [バス] 市バス4、17、205、81系統等「塩小路高倉」下車徒歩5分

大垣書店烏丸三条店（ショーウィンドー）

京都市中京区烏丸通三条上ル御倉町85-1烏丸ビル1F
アクセス：[電車] 市営地下鉄烏丸線「烏丸御池」駅6番出口より南へ徒歩3分
[バス] 市バス15、51、65系統「烏丸御池」下車徒歩5分

京都BAL河原町通面

京都市中京区河原町通三条下ル山崎町251（8月末リニューアルオープン）
※4月20日まで。ただし工事の状況によって予定より早く展示を終了する場合があります
アクセス：[電車] 阪急「河原町」駅3番出口より北へ徒歩7分、市営地下鉄「京阪三条」／京阪「三条」駅6番出口より西へ徒歩8分 [バス] 市バス3、5、46、203系統等「四条河原町」下車徒歩5分

[会場内でのお願い]

- 会場内では一部の作品を除き、個人利用に限り撮影ができます。三脚・フラッシュの使用はご遠慮ください
- 会場内での飲食はご遠慮ください
- 会場内で筆記用具を使用する場合は鉛筆をご使用ください
- 作品にはお手を触れないようお願いします
- 会場内は禁煙です
- 会場内混雑により、入場を制限させていただくことがあります

随時情報が更新されます！

詳しくはこちら：
www.parasophia.jp

[公式カフェ、ブックショップ、コミュニティセンターほか]

参加する……………PARASOPHIAルーム

京都市美術館内の展示室の一角をPARASOPHIAのための自由な部屋として、レクチャーやワークショップなど、作品とは別の視点から体験する様々なイベントを行います。また、あらかじめ用意されたプログラムだけでなく、訪れる人が自分で考えたプログラムを実現する場として提供します。そのほか自主的な学習のための資料提供やサポートなど、活用次第で様々な可能性の広がるPARASOPHIAの重層的な空間となります。

- 日時：pp. 65-72もしくはウェブサイトのイベントカレンダーをご覧ください
- 場所：京都市美術館内 1階

話す……………PARA CAFE

京都市美術館東側入口にある特設カフェコーナー。「% ARABICA KYOTO」のコーヒーと「ROKUSISUI」のワインと軽食をご用意。美しい東山を望む庭を前に気持ちよいテラスもおおすすめです。一日中作品を鑑賞したあとカフェで感想を語らいながらお茶を楽しむことも国際展の醍醐味のひとつ。

- 営業時間：% ARABICA KYOTO：京都市美術館の開館時間に準ずる（ただし、4/17は休業）
ROKUSISUI：11:00-閉館（火曜休／ただし、3/10、3/31、4/28、5/5は営業）
- 場所：京都市美術館 東入口

知る……………SOPHIA BOOKSTORE by Books OGAKI

京都市美術館 大陳列室内にあるPARASOPHIA公式ブックショップ。公式カタログ、参加作家の関連書籍はもちろん、洋書・古書・美術の専門書から、京都のガイドブック、絵本などを取り扱います。PARASOPHIAオリジナルグッズも販売。

- 営業時間：9:00-17:00（3/27-4/12、4/29-5/10は19:00まで）
- 場所：京都市美術館 大陳列室内

共有する……………PARASOPHIAコミュニティセンター@KCUA

鑑賞途中の休憩場所として、情報交換の場所として、常時開かれたコミュニティースペース。会場間を手軽に移動するためにレンタサイクルも貸し出しています（数に限りがあります。無料 お問合せ：075-253-1509）。

- 開館時間：11:00-19:00（最終入場は18:30まで）
- 場所：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都市中京区御池通堀川東入ル押油小路町238-1）
- 休館日：月曜日（ただし、5/4は開館）、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAの開館日に準ずる

[バリアフリー情報]

- 多目的トイレ……………京都市美術館、京都府京都文化博物館本館、京都芸術センターにあります
- 車椅子対応エレベーター……京都市美術館、京都芸術センターにあります
- 車椅子貸出……………京都市美術館、京都府京都文化博物館本館、京都芸術センターにあります
- 身障者用駐車場……………京都市美術館、京都府京都文化博物館本館、京都芸術センターにあります
- コインロッカー……………京都市美術館、京都府京都文化博物館にてご利用いただけます（無料、100円返却式）

[PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015に関するお問合せ]

- 京都いつでもコール……Tel 075-661-3755 / 8:00-21:00 年中無休
- 京都国際現代芸術祭組織委員会事務局……Tel 075-257-1453

[PARASOPHIAインフォメーションセンター]

- PARASOPHIAの会場やイベントプログラムなどをご案内します
- 京都市美術館内……9:00-17:00（3/27-4/12、4/29-5/10は19:00まで）
- 堀川団地（上長者町棟）……10:00-19:00

Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015

Dates: Saturday, March 7–Sunday, May 10, 2015
Venues: Kyoto Municipal Museum of Art, The Museum of Kyoto, Kyoto Art Center, Horikawa Housing Complex (Kamichoja-machi Building), Kamo River Delta (Demachiyanagi), areas near the cross streets of Kawaramachi and Shiokoji Streets, Books Ogaki Karasuma Sanjo, Kyoto BAL
Closed: Mondays (exceptions: open on March 9 and May 4; Museum of Kyoto also open on April 27)
Presented by Kyoto International Festival of Contemporary Culture Organizing Committee, Kyoto Association of Corporate Executives (Kyoto Keizai Doyukai), Kyoto Prefecture, Kyoto City

[Information]

Kyoto Municipal Museum of Art

124 Okazaki Enshoji-cho (inside Okazaki Park), Sakyo-ku, Kyoto Phone: +81-(0)75-771-4107 www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma
Hours: 9:00 AM–5:00 PM Extended opening hours until 7:00 PM on March 27–April 12 and April 29–May 10
Last admission: 30 minutes before closing Admission: Ticket required
Directions: [By subway/train]●10 min. walk from Subway Tozai Line Higashiyama Station (T10)
[By bus]●Get off at Okazaki Koen/Bijutsukan, Heian Jingu-mae●3 min. walk from Okazaki Koen/ROHM Theatre Kyoto, Miyako Messe-mae

Annex, The Museum of Kyoto

Sanjo Takakura, Nakagyo-ku, Kyoto Phone: +81-(0)75-222-0888 www.bunpaku.or.jp
Hours: 10:00 AM–7:00 PM (last admission at 6:30 PM) Admission: Ticket required
Directions: [By subway/train]●3 min. walk east along Sanjo St. from Subway Karasuma Oike Station (Karasuma Line K08/Tozai Line T12) Exit 5●15 min. walk west along Sanjo St. from Keihan Line Sanjo Station Exit 6●7 min. walk north along Takakura St. from Hankyu Kyoto Line Karasuma Station Exit 16 [By bus]●2 min. walk from Sakaimachi Oike●15 min. walk west along Sanjo St. from Kawaramachi Sanjo

Kyoto Art Center

546-2 Yamabushiyama-cho, Nakagyo-ku, Kyoto Phone: +81-(0)75-213-1000 www.kac.or.jp
Hours: 10:00 AM–7:00 PM (last admission at 6:30 PM)
Directions: [By train/subway]●Subway Karasuma Line: 5 min. walk from Exit 22, Shijo Station (K09)●Hankyu Kyoto Line: 5 min. walk from Exit 22 or 24, Karasuma Station (HK-85) [By bus]●Kyoto City Bus nos. 3, 5, 201, 203, 207: 5 min. walk north from Shijo Karasuma

Horikawa Housing Complex (Kamichoja-machi Building)

1F Kamichoja-machi Building, Saikachi-cho, Kamigyo-ku, Kyoto
Hours: 10:00 AM–7:00 PM (last admission at 6:30 PM)
Directions: [By bus]●Kyoto City Bus nos. 9, 12, 50, 67: walk north from Horikawa Shimochoja-machi

Kamo River Delta (Demachiyanagi)

Confluence of Kamo and Takano Rivers Hours: 10:00 AM–6:00 PM
Directions: [By train]●Keihan Kyoto Line: Near Exit 3, Demachiyanagi Station (KH42) [By bus]●Kyoto City Bus nos. 3, 4, 102, etc.: Near Kawaramachi Imadegawa

Areas near the cross streets of Kawaramachi and Shiokoji Streets

Shimono-cho, Shimogyo-ku, Kyoto Hours: 10:00 AM–7:00 PM
Directions: [By train]●JR Line: 10 min. walk from Kyoto Station [By bus]●Kyoto City Bus nos. 4, 17, 205, 81, etc.: 5 min. walk from Shiokoji Takakura

Display window at Books Ogaki Karasuma Sanjo

Display window facing Karasuma Street. 1F Karasuma Building, 85-1 Mikura-cho, Nakagyo-ku, Kyoto
Directions: [By subway]●3 min. walk south from Exit 6, Subway Karasuma Oike Station (K08/T13) [By bus]●Kyoto City Bus nos.15, 51, 65: 5 min. walk from Shiokoji Takakura

Kyoto BAL

251 Yamazakicho, Nakagyo-ku, Kyoto 604-8032 (scheduled to reopen at the end of August 2015)
Until April 20. Exhibit may be removed earlier in accordance with construction schedule.
Directions: [By subway/train]●7 min. walk north from Keihan Line Sanjo Station Exit 6●8 min. walk north from Hankyu Kyoto Line Kawaramachi Station Exit 3 [By bus]●Kyoto City Bus nos. 3, 5, 46, 203, etc.: 5 min. walk from Shijo Kawaramachi

[Requests for Visitors]

- Photography is permitted for private use, with the exception of certain exhibits. Please refrain from using tripods or flashes.
- Please refrain from eating or drinking inside the venues.
- Please write only with pencils.
- Please do not touch exhibits.
- Smoking is not allowed in the venues.
- When venues are crowded, admission may be restricted.

Visit website for the latest updates
www.parasophia.jp/en

[Official Café, Bookstore, Community Center, etc.]

Participate.....Parasophia Room

Located inside an exhibition room at the Kyoto Municipal Museum of Art, this is Parasophia's free space for lectures, workshops and other events offering visitors more ways to experience the artworks in the festival. In addition to pre-planned programs, the space will even allow visitors to create their own events. Visitors can also browse materials to learn more about the art featured in Parasophia.
●Dates: See pp. 65–72 or visit the event calendar on the official website
●Venue: 1F Kyoto Municipal Museum of Art

Talk.....PARA CAFE

This is a special café at the east entrance to Kyoto Municipal Museum of Art. Visitors can order coffee from % ARABICA KYOTO, as well as wine and snacks prepared by the restaurant ROKUSISUI. A terrace offers fine views of the garden and the Higashiyama mountains. An ideal spot for enjoying some food and drink while sharing impressions of the day's art.
●Hours: % ARABICA KYOTO: Same as Kyoto Municipal Museum of Art (expection: closed on April 17); ROKUSISUI: 11:00 AM to closing (closed on Tuesdays, except for March 10, March 31, April 28, and May 5)
●Venue: East Entrance, Kyoto Municipal Museum of Art

Learn.....SOPHIA BOOKSTORE by Books OGAKI

This special Parasophia bookstore is located inside the Kyoto Municipal Museum of Art. Visitors can purchase a range of publications related to the festival, including the official catalog, books related to the participating artists in the festival, specialist books about art and more, as well as guidebooks about Kyoto and picture books. Official Parasophia merchandise is also on sale.
●Hours: 11:00 AM–5:00 PM (until 7:00 PM on March 10, March 31, April 28–May 10)
●Venue: Kyoto Municipal Museum of Art

Share.....Parasophia Community Center @KCUA

This community space is always open, operating as both a place to rest between viewing the exhibits and also as a place to exchange information. Free bicycle rental is also available so visitors can travel between the venues more easily.
●Hours: 11:00 AM–7:00 PM (last admission: 6:30 PM)
●Venue: Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA (238-1 Oshiburanokoji, Nakagyo-ku, Kyoto)
●Closed: Mondays (open on May 4), other Kyoto City University of Arts Art Gallery closure days

[Barrier-Free Access]

- Multipurpose RestroomsKyoto Municipal Museum of Art, the Museum of Kyoto (Main Building), and Kyoto Art Center.
- Elevators for Wheelchair UsersKyoto Municipal Museum of Art and Kyoto Art Center.
- Wheelchair RentalKyoto Municipal Museum of Art, the Museum of Kyoto (Main Building), and Kyoto Art Center.
- Disabled ParkingKyoto Municipal Museum of Art, the Museum of Kyoto (Main Building), and Kyoto Art Center.
- LockersKyoto Municipal Museum of Art and the Museum of Kyoto (¥100 coin-return type).

Inquiries about Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015

●Phone: +81-(0)75-661-3755 8:00 AM–9:00 PM (open all year round) * In Japanese only

Parasophia Information Center

Guidance available on Parasophia venues and events.
●Kyoto Municipal Museum of Art 9:00 AM–5:00 PM (until 7:00 PM on March 27–April 12 and April 29–May 10)
●Horikawa Housing (Kamichoja-machi Building) 10:00 AM–7:00 PM

目次

1	ガイドブックの手引き	42	ラグナル・キャルタンソン
3	会場案内	43	ハルーン・ファロッキ
9	京都市街図	44	アラン・セクーラ
		45	ヘフナー / ザックス
		46	やなぎみわ
		47	スーザン・フィリップス
	[京都市美術館]		
13	蔡 國強(ツァイ・グオチャン)		[鴨川デルタ]
14	ジャン＝リュック・ヴィルムート	52	スーザン・フィリップス
15	ウィリアム・ケントリッジ		[京都 BAL]
16	フロリアン・ブムヘスル	53	ルーズ・ローラー
17	徐 坦(シュエ・タン)		[京都府京都文化博物館]
18	美術館の誕生	54	森村泰昌
19	アン・リスレゴー	55	ドミニク・ゴンザレス＝フォルステル
20	スタン・ダグラス	56	アレクサンダー・ザルテン
21	サイモン・フジワラ		[大塚書店鳥丸三条店]
22	ブランド・ジュンソー	57	リサ・アン・アワーバック
23	ヘトヴィヒ・フーベン		[京都芸術センター]
24	ヤン・ヴォー	58	アーノウト・ミック
25	高嶺 格		[堀川団地]
26	グシュタヴォ・シュペリジョン	60	ビビロッティ・リスト
27	アリン・ルンジャー	61	ブランド・ジュンソー
28	リサ・アン・アワーバック	62	笹本 晃
29	ドミニク・ゴンザレス＝フォルステル		[河原町塩小路]
30	アナ・トーフ	64	ヘフナー / ザックス
31	ヨースト・コナイン	65	PARASOPHIA カレンダー
32	王 虹凱(ワン・ホンカイ)	69	PARASOPHIA イベント
33	笠原恵実子	73	PARASOPHIA シネマプログラム
34	アフメド・マータル	85	作家リスト
35	倉智敬子＋高橋 悟		
36	眞島竜男		
37	石橋義正		
38	ナイリー・バグラミアン		
39	ローズマリー・トロツケル		
40	田中功起		
41	ルーズ・ローラー		

Table of Contents

2	How to Use This Guidebook	42	Ragnar Kjartansson
5	Information	43	Harun Farocki
9	Kyoto City Map	44	Allan Sekula
		45	Hoefner/Sachs
		46	Miwa Yanagi
		47	Susan Philipsz
	[Kyoto Municipal Museum of Art]		
13	Cai Guo-Qiang		[Kamo River Delta]
14	Jean-Luc Vilmouth	52	Susan Philipsz
15	William Kentridge		[Kyoto BAL]
16	Florian Pumhösl	53	Louise Lawler
17	Xu Tan		[The Museum of Kyoto]
18	Birth of an Art Museum	54	Yasumasa Morimura
19	Ann Lislegaard	55	Dominique Gonzalez-Foerster
20	Stan Douglas	56	Alexander Zahltten
21	Simon Fujiwara		[Books Ogaki Karasuma Sanjo]
22	Brandt Junceau	57	Lisa Anne Auerbach
23	Hedwig Houben		[Kyoto Art Center]
24	Danh Vo	58	Aernout Mik
25	Tadasu Takamine		[Horikawa Housing Complex]
26	Gustavo Speridião	60	Pipilotti Rist
27	Arin Rungjang	61	Brandt Junceau
28	Lisa Anne Auerbach	62	Aki Sasamoto
29	Dominique Gonzalez-Foerster		[Kawaramachi Shiokoji]
30	Ana Torfs	64	Hoefner/Sachs
31	Joost Conijn		
32	Hong-Kai Wang		
33	Emiko Kasahara		
34	Ahmed Mater		
35	Keiko Kurachi & Satoru Takahashi		
36	Tatsuo Majima		
37	Yoshimasa Ishibashi	65	Parasophia Calender
38	Nairy Baghramian	71	Parasophia Events
39	Rosemarie Trockel	74	Parasophia Cinema Program
40	Koki Tanaka	85	List of Artists
41	Louise Lawler		

堀川団地(上長者町様)
Horikawa Housing
Complex
(Kamichoja-machi Building)

鴨川デルタ(出町柳)
Kamo River Delta
(Demachiyanagi)

PARASOPHIA

京都市美術館
Kyoto Municipal Museum of Art

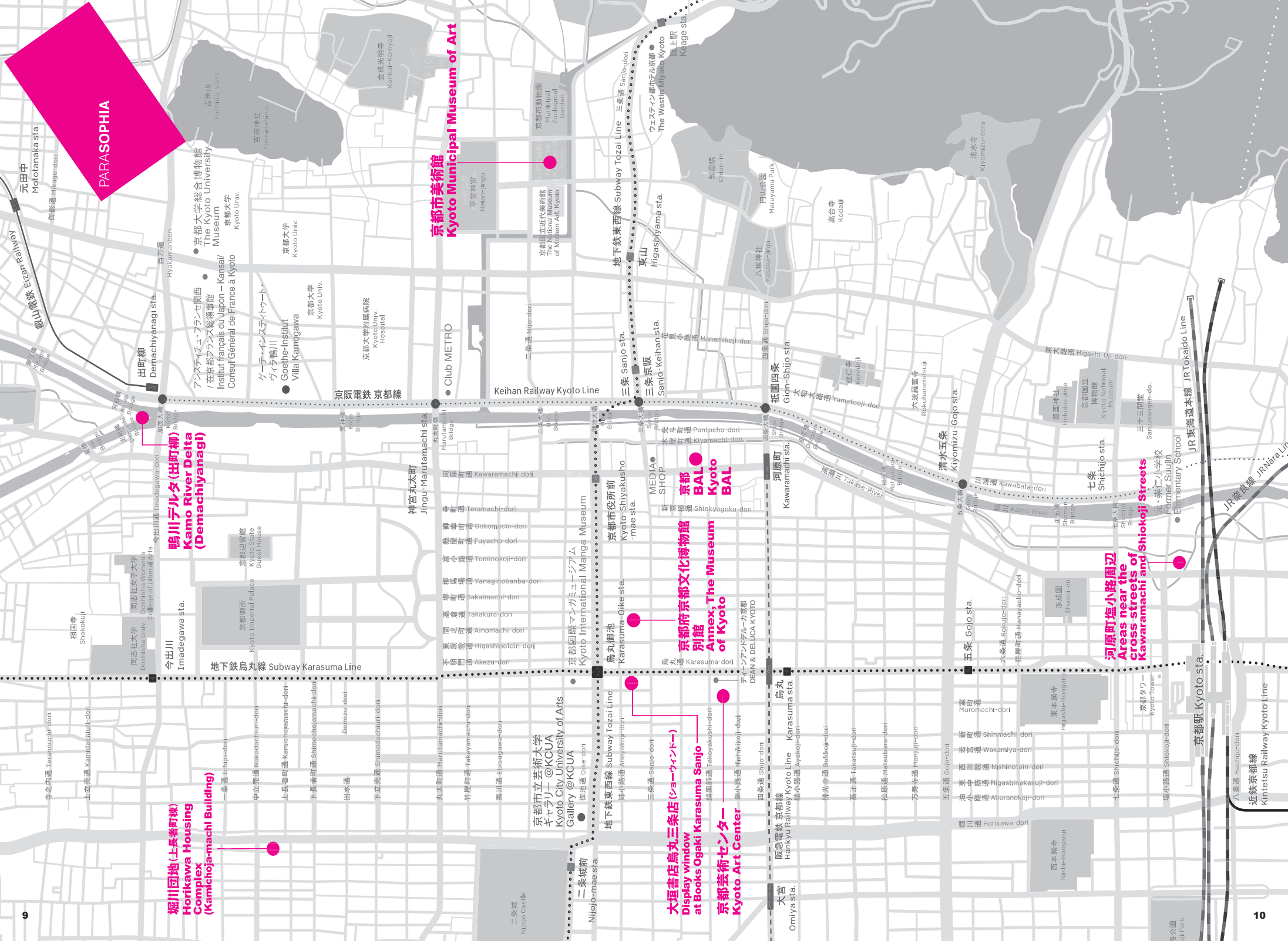
大垣書店鳥丸三条店(ジョーウィンドー)
Display window
at Books Ogaki Karasuma Sanjo

京都芸術センター
Kyoto Art Center

京都府京都文化博物館
Annex, The Museum
of Kyoto

京都 BAL
Kyoto
BAL

河原町塩小路周辺
Areas near the
cross streets of
Kawaramachi and Shiokoji Streets



丸太町通 Marutamachi-dori

平安神宮
Heian-Jingu Shrine

[電車] 京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩10分 [バス] ●市バス46・5-10系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」より●市バス33系統「岡崎公園 ロームシアター京都」まで「みやこめっせ前」より徒歩3分
 [By subway/train] 10 min. walk from Kyoto Municipal Subway Tozai Line Higashiyama Station (Station T10) [By bus] ●Get off at Okazaki Kōen/Bijutsukan, Heian Jingu-mae ●3 min. walk from Okazaki Kōen/ROHM Theatre Kyoto, Miyako Messe-mae

京都市美術館
Kyoto Municipal Museum of Art

京都市美術館別館 ●
Annex, Kyoto Municipal
Museum of Art

ロームシアター京都(改修中)
ROHM Theatre Kyoto

みやこめっせ ● 
Miyako Messe
Kyoto International Exhibition Hall

京都府立図書館
Kyoto
Prefectural Library

京都国立近代美術館 ● 
The National Museum of
Modern Art, Kyoto

京都市動物園
Kyoto Municipal Zoo

東山駅
Higashiyama sta.

蹴上駅
Keage sta.

ウェスティン都ホテル京都
The Westin Miyako Kyoto

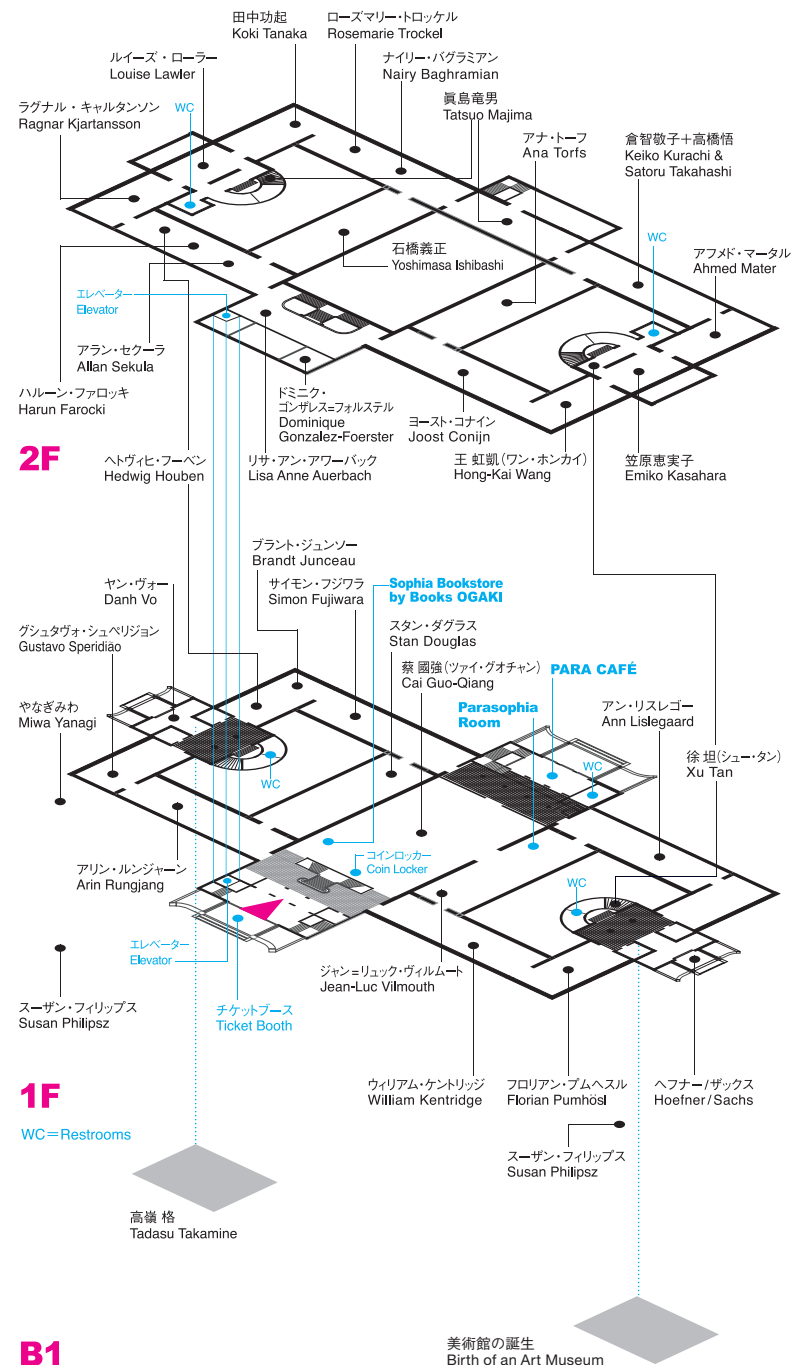
神宮道 Jingu-michi

地下鉄東西線
Subway Tozai Line

三条通
Sanjo-dori

11

京都市美術館
Kyoto Municipal Museum of Art



美術館の誕生
Birth of an Art Museum

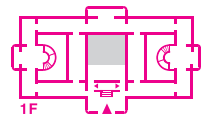
B1

北京オリンピック開会式の花火の演出、火薬で描く「火薬絵画」などのダイナミックな作品制作や奇抜なプロジェクトで世界的に知られる。漢方薬や風水など、中国の伝統文化を題材に彼独自の批判精神を加えて現代美術の言語に置き換える作品を制作。彼は十年近くの時間をかけて、中国各地の農民が知的好奇心と製作衝動によって日常の身近な材料だけで自作した、ロボットや潜水艦、飛行機などを収集する「農民ダ・ヴィンチ」のプロジェクトを続けてきた。PARASOPHIAでは、会場の中央に組み上げられた六角形七段の塔(パゴダ)を中心に、「農民ダ・ヴィンチ」の記録映像や農民の一人である呉玉録が製作したロボットたちが周りを囲む。これは平安京が都市計画においてモデルにした長安(現・西安)の大雁塔を踏まえている。さらに、派生プロジェクト「子どもダ・ヴィンチ」で身の回りにある材料で子どもたちが自由に制作した作品がパゴダに飾られる。これら複数のプロジェクトが渾然一体となり、その全体が「京都ダ・ヴィンチ」として作品化される。

蔡國強 (ツァイ・グオチャン) Cai Guo-Qiang

1957年中国福建省泉州生まれ、ニューヨークを拠点に活動
b. 1957 in Quanzhou, Fujian Province, China; based in New York

Chinese culture with his own unique spirit of criticism. Cai has spent nearly a decade on the *Peasant Da Vincis* project, during which time he has collected robots, submarines, and airplanes made by amateur inventors using materials found in their everyday lives. At *Parasophia*, robots are displayed around a seven-story pagoda. This installation is inspired by the Giant Wild Goose Pagoda in Chang'an, the Tang Dynasty capital that Heian-kyo (now Kyoto) was modeled on. Works created in the *Children da Vincis* workshops will be incorporated into the installation as decorations for the pagoda. The exhibited works: film, pagoda, and Wu Yulu's *Robot Factory* will blend harmoniously into one installation entitled *Kyoto Da Vincis*.



京都ダ・ヴィンチ 2015
Kyoto Da Vincis, 2015



「アクション・ペインティングをするジャクソン・ポロック」、「しゃがんでいるジャクソン・ポロック」ロボットと蔡國強 2013
Cai Guo-Qiang with robots *Paint-Splashing Jackson Pollock and Kneeling Jackson Pollock*, 2013
Photo by Joana França

Cai Guo-Qiang is internationally renowned for his dynamic style, characterized by his signature gunpowder drawings and explosion events. He has continued to create works based on aspects of traditional

公共空間や日常的な場所での作品制作、特に作品の介入により変化する人と事物との関係、環境の変容に注目した作品を数多く制作し、その表現方法はインスタレーションやパフォーマンス、映像作品など多岐にわたる。《カフェ・リトル・ボーイ》は、原爆投下で大きな被害を受けた広島市立袋町小学校西校舎の外壁に残された被爆者のメッセージから着想された作品である。爆心地から460mに位置した袋町小学校校舎は、鉄筋コンクリート製の外郭のみを残して消失した。残された外壁周辺では被爆直後に救護所が置かれ、その黒く焼け残った壁には家族や教え子へ宛てた伝言が書き連ねられた。《カフェ・リトル・ボーイ》はこの設定を引き継ぐもので、作品空間に入った鑑賞者は壁面や机にメッセージを書き込むことが求められる。鑑賞者の関与が作品の一部となり、また誰かの書き込みに応えてさらにメッセージが書き重ねられ、最終的には判別不能なテキストの海へと変化していく。

Jean-Luc Vilmoth has produced art in public or in everyday spaces, particularly focusing on interventions in the works that transform environments and alter relationships between people and surrounding objects. *Café Little Boy* was inspired by messages written on the wall of an elementary school in Hiroshima after the bombing. The school was eradicated except for the reinforced concrete outer wall. This shell of a building was used as an aid station immediately after the bombing, and the surviving blackened wall was heavily inscribed with messages to family members or pupils at the school. This work replicates this scene in the present, with viewers asked to write messages on the walls or table. Their involvement becomes part of the work, and messages are written in response to others, forming exchanges, eventually overlapping one another until they become an illegible sea of text.

Jean-Luc Vilmoth ジャン=リュック・ヴィルムート

1952年 フランス・クレウツヴァルド生まれ、パリ在住
b. 1952 in Creutzwald, France; based in Paris

カフェ・リトル・ボーイ 2002/2015 ポンピドゥー・センター パリ国立近代美術館/産業創造センター蔵 (2005年購入)

Café Little Boy, 2002/2015. Collection of Centre Pompidou, MNAM/CCI, Paris (purchased in 2005)

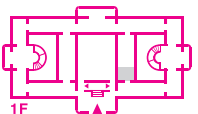


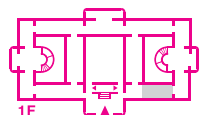
Photo by Jean-Luc Vilmoth

「動くドローイング」とも呼ばれる素描をコマ撮りした手描きアニメーション・フィルムで世界的に知られた美術家。ヨーロッパ近代の知と技術史を手掛かりに、身体感覚を伴う堅実な歩みで人間の普遍的な問題を検証し、視覚的な表現へと昇華している。2014年にビデオインスタレーション《時間の抵抗》をPARASOPHIAのイベントとして展示。今回は映像作品《セカンドハンド・リーディング》と、それに関連する一連のドローイングを出品。800ページにもおよぶフリップブック(パラパラ漫画の手法で制作され、同様の方法で鑑賞する本)は一冊の辞典のページに直接描かれたドローイングで構成されており、素材として、そして題材としての「本」の「セカンドハンド(二次的／中古)」の読み方を提示するとともに、ケントリッジが長年考え続けている言葉、記憶、そして人の意識はどう機能しているのかといった問題も扱っている。始まりと終わりがあるという意味で物語の構造についての作品であり、同時に、反復、不一致や矛盾、そして不合理性をも許容している。

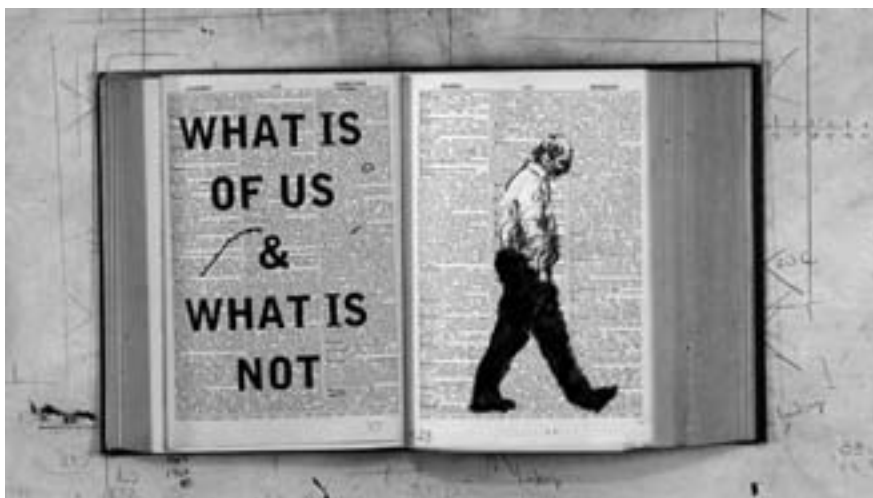
William Kentridge | ウィリアム・ケントリッジ

1955年南アフリカ共和国・ヨハネスブルグ生まれ、同市を拠点に活動
b. 1955 in Johannesburg, South Africa; based in Johannesburg

William Kentridge has won recognition around the world with his “drawings in motion,” or hand-drawn animated films made by photographing drawings frame by frame. With the knowledge and technical history of modern Europe as his guide, Kentridge examines universal problems faced by mankind and transforms them into visual art. At *Parasophia*, Kentridge presents *Second-hand Reading*, a flip book film made from the successive filming of drawings on pages from a dictionary, accompanied by a suite of drawings made in the process of creating the work. The film presents a “second-hand reading” of the book both as a medium and as a subject, representing his thoughts on words, memory, and how the mind functions. The work is about narrative, in that it starts at the beginning and eventually gets to the end, but it also acknowledges repetition, inconsistency, and illogicality as part of its material.



セカンドハンド・リーディング 2013 7分
Second-hand Reading, 2013. 7 min.
《セカンドハンド・リーディング》のためのドローイング 2013
Drawings for Second-hand Reading, 2013



《セカンドハンド・リーディング》 2013 Second-hand Reading, 2013

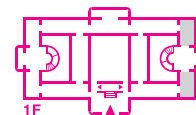
近代の前衛的な美術・グラフィックデザイン・タイポグラフィ・建築などの特定の作品や作家についての入念な調査に基づき、時にはその調査や分析を視覚化する絵画作品や映像作品、インスタレーションを制作している。この調査ではブムヘスルの美術家としての視点が特徴的であり、美術史家のように作品の視覚的要素の起源を辿るのではなく、調査対象の視覚言語とその変遷に焦点を当てた関わりを持つ。2014年春、大正・昭和初期に活躍した日本の前衛美術家について調査を行うために東京、和歌山、京都を来訪。左翼演劇の劇団「メザマシ隊」の俳優が改名後の劇団名を一字ずつ示した看板を各々掲げる有名な場面の写真が、今回の一連の新作の主要なインスピレーションとなった。これらの絵画は京都の職人が作った漆喰のパネルが支持体となっており、和紙の寸法や尺貫法を基準としている。PARASOPHIAでは、ブムヘスルは自らの新作を、村山知義の《あるユダヤ人の少女像》(1922)と東京左翼劇場の緞帳との間に展示する。

Florian Pumhösl's works are not only based on thorough research of specific examples of modern avant-garde art, graphic design, typography, and architecture, but in certain cases also visualize his research and analysis. His research is characterized by his perspective as an artist, rather than a historian, with his focus on his involvement with his subjects' visual language and their transition rather than tracing back their origins. In 2014, Pumhösl visited Japan to perform research on Japanese avant-garde artists active in the 1920s–30s. A photograph of an agitprop troupe is Pumhösl's primary inspiration for his paintings, which are done on plaster panels made by an artisan in Kyoto based on traditional Japanese measurements. The artist will place his own abstract paintings based on this scene between *A Portrait of a Jewish Girl* (1922) by Tomoyoshi Murayama and a banner of the Tokyo Sayoku Gekijō (Tokyo Left-Wing Theater).

Florian Pumhösl | フロリアン・ブムヘスル

1971年オーストリア・ウィーン生まれ、同市を拠点に活動
b. 1971 in Vienna, Austria; based in Vienna

フロリアン・ブムヘスル メザマシ隊 2014/2015 Florian Pumhösl, *Mezamashi-tai*, 2014/2015
作者不詳 左翼劇場幕 制作年不詳 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館蔵
Artist unknown, Tokyo Sayoku Gekijō banner, date unknown. Collection of the Tsubouchi Memorial Theatre Museum, Waseda University
村山知義 あるユダヤ人の少女像 1922 東京国立近代美術館蔵
Tomoyoshi Murayama, *A Portrait of a Jewish Girl*, 1922. Collection of The National Museum of Modern Art, Tokyo



《メザマシ隊》舞台写真 撮影年不詳 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館蔵
Photograph of Mezamashi-tai onstage, date unknown. Collection of the Tsubouchi Memorial Theatre Museum, Waseda University

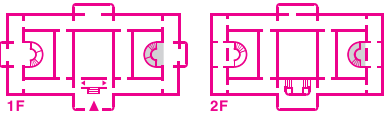
広州の急激な都会化に伴う問題を中心的に取り上げた作家集団「大尾象工作組」に1993年から参加。詳細な調査と深い思考を重ねる一貫した作品実践によって、社会理論学の領域にまで踏み込む作家として世界的に認知されている。2012年に「社会植物学プロジェクト」を開始。香港の屋上菜園や広州の水上生活者の畑など、都市住民と植物との関係性についての調査を続けており、農家や官僚、美術関係者など、珠江デルタを中心に50人以上のインタビューを行い分析、その調査内容からは三つの傾向が浮上している。PARASOPHIAに出品する《社会植物学——種と血筋》はそのうち「農業としての植え付け」の傾向に当てはまる。キーワードは「辛抱」(捱)、「動物的自由」(動物性自由)、「種」(種)、「種子」(種子)、「エウデモニア」(eudemonia)、「血筋」(血脉)、「不朽」、「親孝行にまつわる不安」(孝的焦虑)など。京都での調査内容と併せて、ビデオとテキストなどの素材を組み合わせた「読書空間」として展開する。

徐 坦 (シュー・タン)

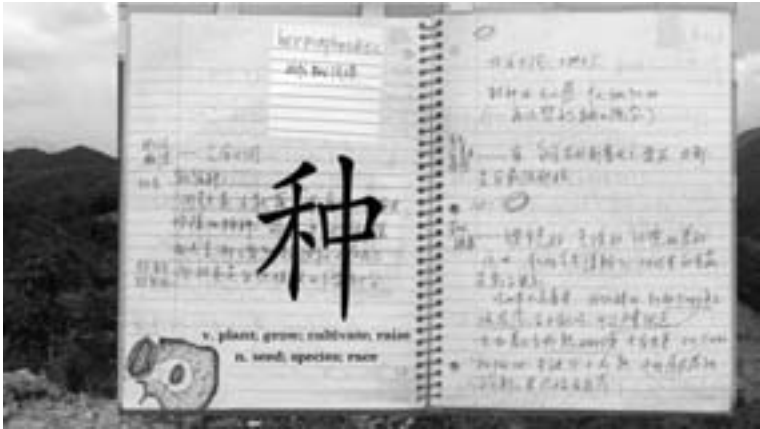
Xu Tan

1957年中国・湖北省武漢生まれ、広州とニューヨークを拠点に活動
b. 1957 in Wuhan, Hubei Province, China; based in Guangzhou and New York

Xu Tan was a member of Da Wei Xiang (Big Tail Elephant Group), a group that actively addressed the problems that were arising from the rapid urbanization of Guangzhou. Today, he is recognized worldwide as an artist whose practice reaches into the realm of social theory. Xu began his ongoing *Social Botany Project* in 2012. He has interviewed more than 50 individuals working in all aspects of botany for this project, from farmers to government officials to artistic workers. Of the three key contexts that his analysis presents, his work for *Parasophia* belongs to the context of “agricultural planting,” with “endurance,” “animalistic freedom,” “seed,” “blood line,” “eudemonia,” and “anxiety about filial piety” among its keywords. Xu will create “reading spaces” which combine video with text and other materials that have arisen from this project, including the results of his research in Kyoto.



社会植物学——種と血筋 2012-15
Social Botany: Zhòng/Zhǒng (Plant/Seeds/Semen) and Consanguinity, 2012-15



「社会植物学」2013- 《種》からのビデオスチル “Social Botany” project, 2013-. Video still from *Plant*

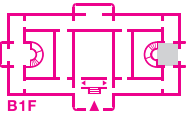
京都市美術館は、昭和天皇即位の奉祝事業の一つとして、昭和8(1933)年、大礼記念京都美術館として開館した。「日本趣味を基調とすること」という設計競技基準に則した建築様式は、現在「帝冠様式」と称される昭和初期建築の典型を成している。第二次大戦後、昭和21(1946)年3月より、美術館本館は米軍に接収され、第58通信大隊が駐留した。その間、所蔵作品や展示ケースは恩賜京都博物館(現京都国立博物館)に保管されていた。接収時の痕跡は今も館の内外に見出せる。昭和27(1952)年5月、接収は解除され、同年7月に京都市美術館と改称して再出発した。美術館は戦前より、所蔵品展示を「現代美術常設陳列」と呼称し、同時代美術の展示を主たる活動に位置付けていたが、昭和32(1957)年から平成3(1991)年まで開催された主催展「京都アンデパンダン展」や、その間三度開催された「京都ビエンナーレ」は、その活動を端的に示す事例である。美術館は現在、この歴史を踏まえた「再整備基本計画」を検討し、新たな出発に向けた準備を進めている。

The Kyoto Municipal Museum of Art was first opened in 1933 as the Kyoto Enthronement Memorial Museum of Art in celebration of the accession of Emperor Hirohito, and was designed in what is now known as the Imperial Crown Style. After WWII, the main hall was requisitioned by the US Army and served as a garrison for the 58th Signal Battalion from March 1946. During this time, the exhibits and display cases were stored in the Imperial Gift Museum of Kyoto (Kyoto National Museum). Traces of the building's requisition are still visible today. The building was returned in May 1952, and relaunched as the Kyoto Municipal Museum of Art in July. The museum has placed a priority on exhibitions of contemporary art since the pre-war era, and has hosted the Kyoto Independent Exhibition in 1957-91 and the Kyoto Biennale three times during that period. Today, the museum is preparing for a new departure, as it considers a redevelopment plan based in its history.

美術館の誕生

Birth of an Art Museum

スライドショー「大礼記念京都美術館の誕生」、「接収期から京都市美術館の誕生まで」、「現代美術と京都市美術館」
靴磨き看板 その他
Slideshow 1: Birth of the “Kyoto Enthronement Memorial Museum of Art,” 2: From the US Occupation to the birth of the “Kyoto Municipal Museum of Art,” 3: Contemporary Art and the Kyoto Municipal Museum of Art; “Shoe Shine Service” sign; etc.



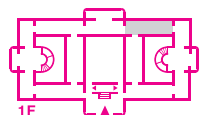
南地下室の扉に今も残る接収時の「靴磨き」の看板
“Shoe Shine Service” sign left behind from the museum's requisition, on the door to the south basement

SF小説から着想した3Dアニメーションや音響・光のインスタレーションの作品で知られる。彼女はSF小説の中に、言語や物語、性別役割分担やセクシュアリティ、そして未来のコンセプトなどへの別のアプローチを見出す。フィリップ K. ディックの『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』を題材にした近作《神託、フクロウ……ある動物は眠らない》(2012–14)では、CGアニメーションのフクロウが、格言や、『易経』の予言と一人のフェミニストの弁論から引用した曖昧な断片を独白している。それは時として威嚇的ではあるが滑稽でもあり、その滑稽さは複製、再複製されることでさらに強調される。新作《ドウバド、ドウバド》(2014–15)では、川又千秋のSF小説『幻詩狩り』(1984)が題材としてとりあげられ、歴史と政治、言葉、翻訳といった問題が扱われるその作品世界で鍵となる麻薬的な文字列【幻詩】は、時空の渦巻き状態を暗示するアニメーション映像として幻視されることになるだろう。

Ann Lislegaard | アン・リスレゴー

1962年ノルウェー・トンスベルグ生まれ、コペンハーゲンとニューヨークを拠点に活動
b. 1962 in Tønsberg, Norway; based in Copenhagen and New York

Ann Lislegaard is known for 3D film animations and sound-light installations often departing from ideas found in science fiction novels. She finds in science fiction an alternative approach to language, narration, gender roles, sexuality, and concepts of the future. At *Parasophia*, Lislegaard will be presenting *Oracles, Owls... Some Animals Never Sleep* (2012–14), which draws on Philip K. Dick's *Do Androids Dream of Electric Sheep?*, a computer-animated owl delivers a monologue of aphorisms and latent fragments that consist of prophecies from *I Ching* and a feminist speaking in tongues. Her new work *Dobaded Dobaded* (2014–15) focuses on Chiaki Kawamata's 1984 science fiction novel *Death Sentences*. Lislegaard's piece features an animated portrayal, reminiscent of a space-time vortex, of the hallucinatory poetic text that forms the crux of the novel's surreal landscape of history, politics, translation, and language.



神託、フクロウ……ある動物は眠らない 2012–14 10分34秒
Oracles, Owls... Some Animals Never Sleep, 2012–14. 10 min. 34 sec.
ドウバド、ドウバド 2014–15 6分
Dobaded Dobaded, 2014–15. 6 min.



《神託、フクロウ……ある動物は眠らない》 2012–14
Oracles, Owls... Some Animals Never Sleep, 2012–14

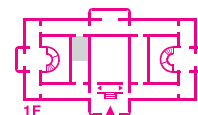
1980年代中頃から、特定の場所で発生した事件や出来事を調査し、あまり知られていない忘却された歴史を再考する写真やビデオ、映像作品を制作。彼はドキュメンタリーとフィクションの狭間で、美術の手法において挑戦的で開かれた作品を制作している。PARASOPHIA出品作《ルアンダ=キンシャサ》(2013)は、「教会(The Church)」と呼ばれたコロンビア・レコードの伝説的なニューヨーク30番街スタジオ(1949–81)を再現し舞台としている。本作の舞台となる1974年は、ポルトガルがアンゴラ(ルアンダ)といったアフリカの植民地から撤退し始めた年であり、当時のザイル(キンシャサ)でボクサーのモハメド・アリがジョージ・フォアマンに挑み「キンシャサの奇跡」と呼ばれる逆転勝利を果たした年でもある。本作に登場する10人のミュージシャンは、マイルス・デイヴィスのアルバム『On the Corner』(1972)と当時のアフロビートが融合した音楽をつくり出している。

Since the mid-1980s, Stan Douglas has researched actual incidents and events occurring in specific places, in order to create photographs, videos, and films that reconsider minor and forgotten histories. Douglas treads the line between documentary and fiction, creating provocative and open-ended works that manifest themselves in ways that artistic intention. At *Parasophia* is Douglas's video installation, *Luanda-Kinshasa* (2013), set in a reconstruction of Columbia Records' legendary New York 30th Street studio (1949–81) nicknamed "The Church." The work is set in 1974, the year that Portugal began to extricate from its African colonies such as Angola (Luanda) and Muhammad Ali and George Foreman had their Rumble in the Jungle in Zaire (Kinshasa). Ten musicians create music that is a synthesis of Miles Davis's 1972 album *On the Corner* and Afrobeat of the era.

Stan Douglas | スタン・ダグラス

1960年カナダ・バンクーバー生まれ、同市を拠点に活動
b. 1960 in Vancouver, BC, Canada; based in Vancouver

ルアンダ=キンシャサ 2013 6時間1分(ループ) 機材協力: パナソニック株式会社
Luanda-Kinshasa, 2013. 6 hr. 1 min. (looped). Equipment provided with the cooperation of Panasonic Corporation



《ルアンダ=キンシャサ》 2013 *Luanda-Kinshasa*, 2013

2005年ケンブリッジ大学卒。建築を専攻。フランクフルト造形美術大学でサイモン・スターリングのもとで美術を学ぶ。自身の出自や家族の歴史を出発点に、綿密な調査に基づく事実とフィクションを融合させた彼の私的な物語は、作品の形をとることで無数の他者の物語と緩やかに結び付き、少しずつ変化しながら彼の外側へと広がっていく。PARASOPHIAでは、近作と新作で構成するインスタレーション《キングコング・コンプレックス》を展開。解体直前の旧・帝国ホテル本館での両親の出会いを題材とし、フランク・ロイド・ライトの設計による同館の断片的な再現で構成されるインスタレーション作品《インペリアル・バーへようこそ。1968年、時刻は8時、お飲物はマウント・フジでございます。お楽しみください、すべては儚いものですから…》(2013)の一部や、《スタジオ・ピエタ(キングコング・コンプレックス)》(2013)の映像などを取り入れ、アイデンティティとセクシュアリティについてのより普遍的な「インデックス」となる作品に挑戦する。

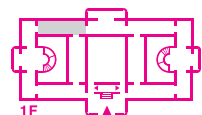
Simon Fujiwara

サイモン・フジワラ

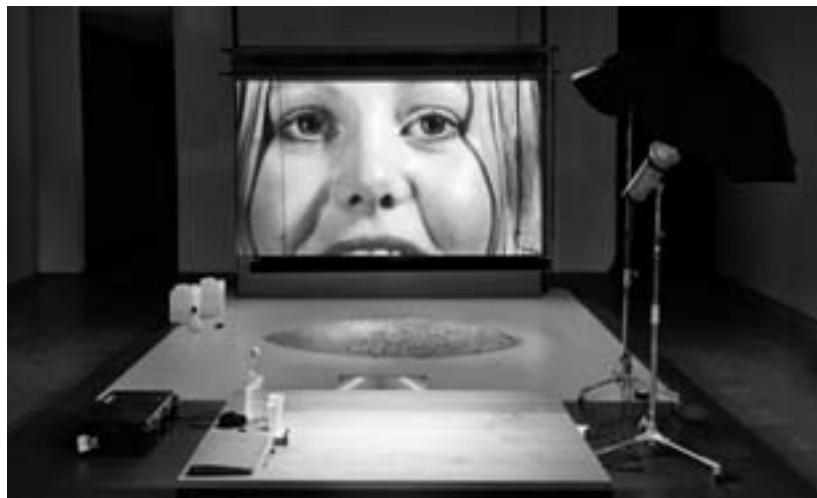
1982年イギリス・ロンドン生まれ、ベルリンを拠点に活動
b. 1982 in London, England, UK; based in Berlin

Simon Fujiwara is especially known for installations with rich narratives based on his personal autobiography and his family's history, indistinguishably blurring the lines between meticulously

researched fact and fiction. By taking on the form of artworks, his personal narratives become loosely connected with the narratives of countless other individuals, and gradually transform as they reach out beyond the artist himself. At *Parasophia*, Fujiwara will be presenting *King Kong Komplex* (2015), an installation composed of a series of existing and new works, including elements from *Welcome to the Imperial Bar. The Year is 1968, the Time is 8 O'clock, the Drink is Mount Fuji. Please Enjoy Because Soon This Will All Be Gone...* (2013) and the video portion of *Studio Pietà* (*King Kong Komplex*) (2013). The installation as a whole will present a more universal "index" of the themes of identity and sexuality.



キングコング・コンプレックス 2015 ビデオ: 20分30秒
King Kong Komplex, 2015. Video: 20 min. 30 sec.



《スタジオ・ピエタ(キングコング・コンプレックス)》2013
Studio Pietà (King Kong Komplex), 2013. Photo by Lance Brewer

1981年バード大学を卒業後、彫刻やドローイング作品の発表を始める。石膏による鑄造・成型という従来
の手法で彫刻を制作する一方、先史時代から用いられてきたテラコッタの手法で、彼の空想世界に介入して
くる形態を探求し、その制作を繰り返し試みている。時間に対する精神分析的な関心や考古学遺物への興味
から、近年の展示では作品の形態変化を通じて制作過程を見せる構成をとっている。PARASOPHIAのた
めの新作は、会場下見のために訪れた京都市美術館で彼の目にとまった巨大な展示ケースから出発する。
収蔵品展示のために1933年に作られたケースの金属枠にはめ込まれたガラスの内と外に、彼は空間と時
間の隔たりを直感的に感じたという。一対の人体像をそれぞれケースに入れ、あえて二体が同時に視界に
入ることのない場所に展示することで、鑑賞者は意識的に一方を記憶に留め、曖昧な比較を通してのみ浮
かび上がる自身の心象風景に気づくこととなる。

Brandt Junceau frequently
employs the traditional
sculptural methods of
plaster moldmaking and
casting in use since pre-
history, exploring forms that impose on his imagination and are sustained in repeated studies from them.

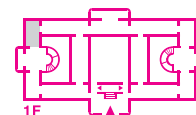
Recent exhibitions revealed that working process as a reflection of his interests in memory and decay in Clas-
sical Psychoanalysis and in historical archaeology. For *Parasophia*, Junceau's work at the Museum started
from a pair of massive display cases built in 1933 to house museum exhibits. He placed a human figure in each
of the glass cases, deliberately positioning them so they cannot both be viewed at one time. Viewers must
intentionally hold one or the other one in memory, thus becoming aware of emotional aspects of absence and
imagination that could only be brought to light through this ambiguous process of comparison.

Brandt Junceau

ブランド・ジュンソー

1959年アメリカ・ニューヨーク州ポグキープシー生まれ、ベルリンとニューヨークを拠点に活動
b. 1959 in Poughkeepsie, NY, USA; based in Berlin and New York

Liebespaar (Lovers) 2015
Liebespaar (Lovers), 2015



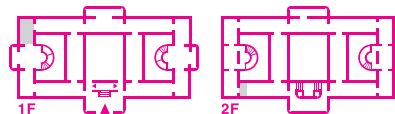
制作中の《Liebespaar》2015 *Liebespaar*, figures in progress, 2015

フーベンがレクチャー/パフォーマンスという表現スタイルを戦略的に用いながら、美術作品(特に彫刻)に関わる慣習(主体と客体、作者と作品制作の思考プロセス、作品についての議論と鑑賞者の視線)などの関係性を分析的に解体していくプロセス自体を作品化する。出品作《手と目、そしてIt》(2013)のレクチャー/パフォーマンスでは、彫刻になる以前の不定形なオブジェ「It(それ)」と、作者、作者の視線と手、作品についての語りといった美術作品を成立させる諸要素との間を、粘土で作った作家自身の手の複製が媒介し関係づける役割を演じている。最新作の《好いもの、悪いもの、幸福なもの、悲しいもの》(2014)は、「Good」と「Bad」という制作途上の二つの粘土彫刻が、作者を介して対話する映像作品。事物が作者の手から離れて作品となる瞬間を探ろうとする試みと言える。意見が異なる二つの彫刻の精神分析的観点をふまえた機知に富んだ対話は、作品の自律性、作品、作者、鑑賞者との関係についての優れた分析となっている。

Hedwig Houben | ヘトヴィヒ・フーベン

1983年オランダ・ボクステル生まれ、ベルギーを拠点に活動
b. 1983 in Boxtel, The Netherlands; based in Brussels

While strategically employing a style of expression that incorporates lecture and performance, Hedwig Houben transforms the process of deconstructing (particularly sculptural) artistic conventions (subject and object, the artist and the creative process, discussion of works of art, and the viewer's gaze), and the relationships among them, into art in its own right. Houben's lecture/performance *The Hand, the Eye, and It* (2013), assigns a clay model of the artist's own hand the role of intermediating among, and interrelating, various elements: the indeterminate, proto-sculptural object "It," the artist, her gaze and hands, and a spoken explanation of the work. Her most recent piece, *The Good, the Bad, the Happy, the Sad* (2014), is a video in which two clay sculptures in progress, designated as Good and Bad, are placed on a living room carpet and converse with one another, mediated by the artist. The witty, psychoanalytically informed repartee between the two sculptures, whose opinions clash, offers an incisive analysis of the relationships among the autonomy of works of art, the works themselves, the artist, and the viewer.



手と目、そしてIt 2013 20分

The Hand, the Eye and It, 2013. 20 min.

好いもの、悪いもの、幸福なもの、悲しいもの 2014 20分

The Good, the Bad, the Happy, the Sad, 2014. 20 min.



《手と目、そしてIt》 2013 *The Hand, the Eye and It*, 2013.

デンマーク育ち。デンマーク王立芸術アカデミー卒、フランクフルト造形美術大学卒。2012年、ヒューゴ・ボス賞受賞。2014年にはイギリス・ノッティンガム、ニューヨーク、北京で個展を開催しており、2006年以降、欧米を中心として個展を多数開催している。また、ヨーロッパではフェリックス・ゴンザレス=トレスの個展(2010)など、いくつかの展覧会のキュレーションも行っている。マニフェスタ7(2008)、横浜トリエンナーレ(2008・2014)、ベルリン・ビエンナーレ(2010・2014)、2010年の光州ビエンナーレ、2011年のシンガポール・ビエンナーレ、2013年のヴェネツィア・ビエンナーレなど、多くの国際展に参加。その作品は世界各国の美術館などに収蔵されている。2015年のヴェネツィア・ビエンナーレにデンマーク代表作家として参加する。PARASOPHIAでは、1世紀から2世紀頃のアポロの大理石像のトルソをアンティークの木箱に収めた立体作品と父、フン・ヴォーの文字による2点の平面作品を、通常は閉鎖されている京都市美術館の北玄関で展示する。

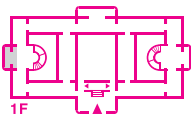
Grew up in Denmark. Studied at the Royal Academy of Fine Arts in Copenhagen and the Städelschule in Frankfurt. Danh Vo was awarded the Hugo Boss Prize in 2012. He has had many solo exhibitions throughout Europe and the USA since 2006. He has also curated several exhibitions in Europe, including a solo exhibition for Felix Gonzalez-Torres (2010). Vo has participated in many international exhibitions, including Manifesta 7 (2008), the Yokohama Triennale (2008 and 2014), the Berlin Biennale (2010 and 2014), the 2010 Gwangju Biennale, the 2011 Singapore Biennale, and the 2013 Venice Biennale. This year, he will be representing Denmark at the Venice Biennale. At *Parasophia*, Vo presents a three-dimensional piece with the torso of a marble statue of Apollo from the 1st–2nd century cradled in a vintage Carnation Milk crate and two works with writing by his father, Phung Vo in the northern entrance of Kyoto Municipal Museum of Art, an area that is usually closed to the public.

Danh Vo | ヤン・ヴォー

1975年ベトナム・バリア生まれ
b. 1975 in Bà Rịa, Vietnam

無題 2015

Untitled, 2015



《グスタフの翼》(制作プロセス) 2013 *Gustav's Wing* (in process), 2013. Photo by Danh Vo

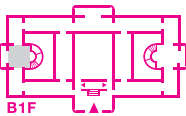
京都市立芸術大学卒業後、ダムタイプのバフォーマーとして『S/N』など3作品に参加。作品は、映像や音響を用いたインスタレーション、写真、映像、造形物、自ら出演／演出するパフォーマンスなど多様な表現の形をとる。在日韓国人の恋人との関係を出発点に、朝鮮人強制労働の歴史を遺す丹波マンガン記念館内坑道跡で生活し制作した《在日の恋人》(2003)。土や廃材を敷き詰めた空間とそこに投影された鹿児島弁とエスペラント語のテキストで構成するインスタレーション《鹿児島エスペラント》(2005)。千人の鑑賞者を巻き込み京都市役所前を熱狂的なダンスフロアに変えた《ジャパン・シンドローム〜ベルリン編》(2013)のパフォーマンスなど、知的な批評／皮肉とユーモアが交錯するそれらの作品は常に自らの身体や生身の人間を基点としており、共同体の中で共有しながら言語化されない、私たちと禁忌との共犯関係をあぶりだす。PARASOPHIAでは、京都市美術館の地下室で音を使用したインスタレーションを発表する。

高嶺 格

Tadasu Takamine

1968年鹿児島生まれ、秋田を拠点に活動
b. 1968 in Kagoshima, Japan; based in Akita, Japan

Currently he works in diverse media such as installations incorporating video and audio, photography, video, sculpture, and self-directed performances in which he appears. In *Japan Syndrome – Berlin Version* (2013), he transformed an area in front of Kyoto City Hall into a pulsating dance floor, with 1,000 viewers participating. These and other pieces blend incisive social critique with physicality and humor, with Takamine consistently investing his own physical presence and humanity's flesh-and-blood nature in works that lay bare shared but unspoken taboos and our complicity in them. At *Parasophia*, Takamine presents a sound-based installation in the basement of the Kyoto Municipal Museum of Art.



地球の凸凹 2015 9分
The Bumps on the Earth, 2015. 9 min.



「てさぐる」展の展示風景 2014 秋田県立美術館 写真：鈴木竜典
Installation view of "Tesaguru" exhibition at Akita Museum of Art, 2014. Photo by Tatsunori Suzuki

Tadasu Takamine began working with multimedia/performance collective Dumb Type while still a student at Kyoto City University of Arts, and took part in three performance pieces including *S/N*. Cur-

写真や映像作品のほか、既存のメディアに言葉や絵を上書きしたドローイングやコラージュなどを制作、PARASOPHIAでの展示が、アジアで初めての発表の機会となる。出品作《素晴らしき美術史》は、アメリカのグラフィック誌『LIFE』が1936年創刊時から20世紀後半に掲載した写真のアーカイブとして出版した608ページにおよぶ膨大な記念写真集『The Great LIFE Photographers』に、落書きのような言葉や絵を上書きして作られた私家版の美術史書といえる。20世紀の象徴となった歴史的一場面や誰もが知る有名な写真を、一目でわかるブラックジョークや複雑な読み込みを可能にする落書きによって変換させ、別の「素晴らしき」美術史というフィクションを積み上げる。それは大文字の美術史や美術の形式への、あるいは政治や社会への皮肉だけでなく写真を読む作法に対する批判でもあり、そこには様々な既存概念を飛び越える小気味よさがある。本作は、英語、ポルトガル語、フランス語版に加え、PARASOPHIAにおいて新たに日本語版が制作される。

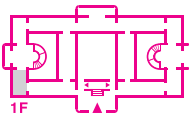
Gustavo Speridião works in a wide range of media including photography, film, and collages and drawings with words and pictures atop existing media, which playfully intervene in the appropriated imagery. At *Parasophia*, he presents *The Great Art History*, which is made by scrawling words and images on top of *The Great LIFE Photographers*, a compendium of photographs from *LIFE* magazine. Through additions ranging from simple visual jokes to doodles inviting complex interpretations, Speridião transforms the iconic 20th-century scenes into a separate, fictional "great" history of art. This is not only an ironic take on capital-lettered History and Art, or on politics and society, but also a critique of the way we interpret photographs, one that piquantly dismantles all sorts of calcified clichés. A Japanese-language edition has been produced for *Parasophia* in addition to the English, Portuguese, and French editions.

Gustavo Speridião

グシュタヴォ・シュペリジオン

1978年ブラジル・リオデジャネイロ生まれ、同市を拠点に活動
b. 1978 in Rio de Janeiro, Brazil; based in Rio de Janeiro

素晴らしき美術史 2005–15
The Great Art History, 2005–15



《素晴らしき美術史》より 2005–2015 From *The Great Art History*, 2005–15

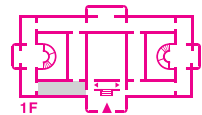
2013年ヴェネツィア・ビエンナーレに真鍮の「涙滴」による精緻な彫刻インスタレーションとビデオとで構成される作品《Golden Teardrop》を出品。本作では卵黄を使ったタイの伝統的な砂糖菓子「トーン・ヨー（金の滴）」を出発点として、15世紀から21世紀までのタイ・ギリシャ・ポルトガル・日本のある特定の人々の個別の物語と砂糖の交易史を緩やかに丁寧に重ね合わせ、広義の歴史や記憶、その編纂や生成について再考している。2014年6月にビデオと彫刻のインスタレーション《骨、本、光、蛍》の撮影のために京都を訪問。本作では作家自身の祖母の遺「骨」、オランダ人の商人による17世紀タイについての「本」、作家の祖母の記憶と彫刻インスタレーションにおける「光」、そしてそれぞれの物語に現れ、特に一人の昆虫学者によって語られる「蛍」を通して個人の記憶と歴史を紡ぎあわせていく。今回はこの新作と併せて、ヴェネツィア以降も進化を遂げた《Golden Teardrop》を日本で初めて展示する。

Arin Rungjang | アリン・ルンジャー

1975年タイ・バンコク生まれ、同市を拠点に活動
b. 1975 in Bangkok, Thailand; based in Bangkok

and personal narratives of individuals with different cultural backgrounds in different eras are layered together with the traditional Thai dessert *thong yod* as the starting point, presenting a reexamination of collective histories and memories and their formation. In 2014, Rungjang visited Kyoto to start shooting for *Bones, Books, Artificial Lights, and Fireflies*, which brings together personal memories and histories through bones (from the artist's grandmother's funeral pyre), books (by a 17th-century Dutch merchant), artificial lights (in his grandmother's memories and in the installation), and fireflies (present throughout the different narratives, and featuring an entomologist).

Arin Rungjang first showed *Golden Teardrop*, a work composed of a video and an intricate sculptural installation with teardrop-shaped brass, at the 2013 Venice Biennale. Loosely but carefully, the history of the sugar trade



Golden Teardrop 2013 32分
Golden Teardrop, 2013. 32 min.

骨、本、光、蛍 2015 38分 機材協力：パナソニック株式会社
Bones, Books, Artificial Lights, and Fireflies, 2015. 38 min. Equipment provided with the cooperation of Panasonic Corporation



《Golden Teardrop》2013 タイ王国文化省現代芸術文化事務局（OCAC）蔵
Golden Teardrop, 2013. Collection of the Office of Contemporary Art and Culture (OCAC), Ministry of Culture, Thailand. Photo by Kornkrit Jianpinidnan

元々写真を学んでいたが、2004年のアメリカ合衆国大統領選挙のときにメッセージを編み込んだニットを制作し、それ以降、同様のニット作品を数多く発表。2013年には、カリフォルニアやアリゾナなどに点在する巨大教会の写真を掲載した約150×100cmの『アメリカン・メガジン#1』を制作。2号はホイットニー・ビエンナーレ2014に出品された。彼女はフェミニズムやパンク、手作りの同人誌などのムーブメントに知的に共感し、その理想を肌触りのよい日常着のニットに織りこんでいる。自分自身の日常から生まれたシンプルな発想を起点に、個人が入手可能な既存の素材やメディアを駆使し、自分の手で制作することにこだわりながら生み出される作品は、日常の中に非日常が交錯する、遊び心のある批評性に満ちている。2014年10月に初来日して京都でリサーチを行った。今回京都市美術館で展示される巨大な「アメリカン・メガジン」シリーズは、定期的に二人がかりでページがめくられる。

In 2013, Lisa Anne Auerbach produced the five-foot-tall (approximately 1.5 meters) ultra-large-format *American Magazine* #1, containing photographs of the characteristic architecture of megachurches in California and Arizona. The second issue, which featured photographs of psychics, was exhibited at the 2014 Whitney Biennial. Auerbach sympathizes intellectually with movements such as feminism, punk, and homemade zines, and incorporates their ideals into the tactile fabric of day-to-day life. Starting with simple inspirations from her daily life, she employs readymade materials and media available to individuals and insists on working with her own hands, producing works rich in playful critique that tread the borderline between ordinary and extraordinary. The *American Magazine* series will be presented at the Kyoto Municipal Museum of Art with periodic page turnings that require two sets of hands.

Lisa Anne Auerbach | リサ・アン・アワーバック

1967年アメリカ・ミシガン州アナーバー生まれ、ロサンゼルスを拠点に活動
b. 1967 in Ann Arbor, MI, USA; based in Los Angeles

アメリカン・メガジン#1 2013
American Magazine #1, 2013
アメリカン・メガジン#2 2014
American Magazine #2, 2014

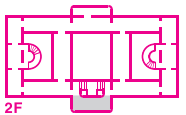


Photo by Lisa Anne Auerbach

ゴンザレス=フォルステルはその作品において、状況的作品を生み出す過程で生じる物理的・心理的構成要素の関係性、特に制作過程での人々の関与を重視している。近年はシネマ、テキスト、本、言語から発生するイメージとフィクション(物語)の、織物にも似た複雑な関係を、様々なメディアを使いながら深く静かに考察する作品を制作している。2012年より、小説や映画の登場人物など、様々な人物に扮して、テキストと音楽を用いる「製作中のオペラ」のシリーズ「M.2062」を開始。PARASOPHIA主催の《M.2062(Scarlett)》はその5作目として2013年9月に上演。今回は2点の新作ビデオインスタレーション《ベルリンのローラ・モンテス》(2015)と《オテロ1887》(2015)を2カ所で展示。京都市美術館で展示する《ベルリンのローラ・モンテス》は2014年にベルリンのサーカス・カブヴァーツィ・クロイツベルクで演じられた同名の作品「M.2062」が基となっている。

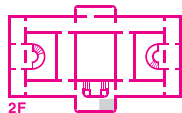
Dominique Gonzalez-Foerster

ドミニク・ゴンザレス=フォルステル

1965年フランス・ストラスブール生まれ、パリとリオデジャネイロを拠点に活動
b. 1965 in Strasbourg, France; based in Paris and Rio de Janeiro

Important aspects of Dominique Gonzalez-Foerster's work include the relationship between the physical and psychological elements that result from the process of cre-

ating situational works, as well as the participation of others in these situational works themselves. In 2012, she began working on *M.2062*, her "opera under construction," where the artist appears as different characters and personas and delivers lecture/performances using text and music. *M.2062 (Scarlett)*, presented by *Parasophia* in September 2013, was the fifth version. For the exhibition, she will be presenting two new video installations: *Lola Montez in Berlin* (2015), which is based on the eponymous version of *M.2062* presented at Circus Cabuwazi in Berlin in 2014, at the Kyoto Municipal Museum of Art, and *Otello 1887* (2015) at the Annex of the Museum of Kyoto.



ベルリンのローラ・モンテス 2015 4分
Lola Montez in Berlin, 2015. 4 min.



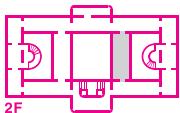
ビデオ、写真、版画、音、タペストリーなど様々なメディアを用いる。作品においてはテキスト/言語とイメージとの関係性が中心となり、表象、解釈、翻訳といった関連行為も重要な役割を担っている。今回出品する《ファミリー・プロット》は、彼女が選んださまざまな先人たちの歴史を50点の版画によって提示する。中心人物は現在も使われている植物の学名命名システムを確立したスウェーデンの自然学者カール・リンネ。植民地時代には、この命名法によって外国の植物はその発見者—たいていはヨーロッパ人であったが—にちなんで名づけられた。植物学名に魅力を感じたトーフは、その名前の由来となった大航海時代と帝国主義時代の25人の後援者たちの「世界」を探求し、単一の歴史観からは理解不能な軸に沿って発展する文化史を露わにする。鑑賞者は綿密に調査され、美しく配置された作品の前に立ち、世界史の暗部についてのきわめて個人的な見方を示す「世界の絵地図」を経験するのである。

Ana Torfs works in a wide range of media, including video, photography, prints, sound, and tapestries. Her *Family Plot* proposes a selective gallery of forefathers in 50 framed prints. The central figure is the Swedish naturalist Carl Linnaeus, who introduced a formal system for the naming of plants that is still in use now. In the era of colonization, this nomenclature often entailed the dedication of exotic plants to their—usually European—discoverers. With her fascination with the names of plants as a starting point, Torfs explores the "worlds" of the 25 selected name patrons from the era of European exploration and imperialism, and lays bare a cultural history progressing along an axis that cannot be comprehended from a single historical perspective. The viewer, standing before the thoroughly researched and beautifully arranged work, experiences a pictorial atlas that proposes a very personal view of the dark hours of world history.

Ana Torfs アナ・トーフ

1963年ベルギー・モルツェル生まれ、ブリュッセルを拠点に活動
b. 1963 in Mortsels, Belgium; based in Brussels

ファミリー・プロット 2009–10
Family Plot, 2009–10



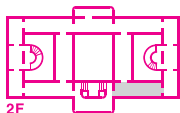
《ファミリー・プロット》より 2009–10 From *Family Plot*, 2009–10

「飛びたい」という衝動から、手製の飛行機による飛行をサハラ砂漠で試みた《飛行機》2000）。木炭ガスのエンジンを搭載した木製自動車でヨーロッパ15カ国を走行《木製自動車》2002）、さらに近年はアルミと木製の飛行機でアフリカ中央部を航行した《善と悪のパイロット》2012）。これら旅の記録は、映像や写真、書籍など様々な媒体へと展開され、作品として発表されている。PARASOPHIAでは、これらの映像を通して彼の活動を概観できる展示となる。自分の好奇心や衝動を、既成の交通手段ではなく手作りの乗り物で実現し、事前の計画に固執せず成り行きにまかせて国や文化の境界線を自由に往来する彼の態度は、既存の諸システムに依存する現代について再考を促す、まさにパラ位置の知性と言えるだろう。

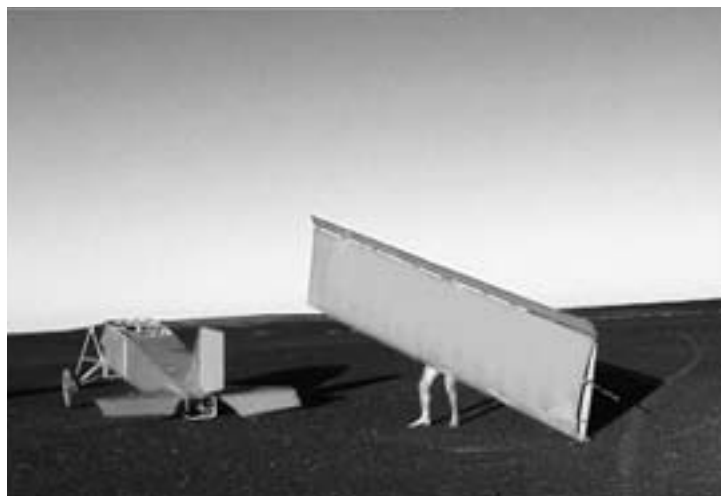
Joost Conijn ヨースト・コナイン

1971年オランダ・アムステルダム生まれ、同市を拠点に活動
b. 1971 in Amsterdam, The Netherlands; based in Amsterdam

Seized by an urge to fly, Joost Conijn made efforts to fly in the Sahara Desert in an aircraft he built by hand. He journeyed through 15 European countries in a wooden car equipped with a charcoal-burning engine. In 2012 he flew from Europe to central Africa in a plane built of wood and aluminum. Conijn documents these journeys in film, photo, and text form and presents them as creative works. At *Parasophia*, these documentary film works are presented as a comprehensive overview of his projects thus far. Conijn answers the call of his curiosity and impulses by creating hand-made modes of transport as alternatives to readymade infrastructure, and freely crosses national and cultural borders, ending up where he ends up rather than adhering to rigid travel plans. This approach, which exemplifies "Parasophia," invites us to reconsider our contemporary mode of total dependence on existing systems.



飛行機 2000 29分 *Vliegtuig* [Airplane], 2000. 29 min.
これは門である 1997 20分 *C'est une Hek* [This is a gate], 1997. 20 min.
屋根の上の車 1996 2分 *Auto op dak* [Car on roof], 1996. 2 min.
木製自動車 2002 31分 *Hout Auto* [Wood car], 2002. 31 min.
Siddieqa, Firdaus, Abdallah, Soelayman, Moestafa, Hawwa and Dzoel-kifi 2004 42分
Siddieqa, Firdaus, Abdallah, Soelayman, Moestafa, Hawwa and Dzoel-kifi, 2004. 42 min.



《飛行機》2000 *Vliegtuig* [Airplane], 2000

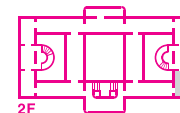
美術家・研究者。現在、ウィーン美術アカデミーで博士課程に在籍。王の作品は、公共空間の生成と力学について、文化社会学的な記憶の生成と保存／上書きについて分析し考察するものであり、音響や映像、パフォーマンス、ワークショップ、テキストなどを用いて美術作品の形で提示する、社会政治学的に優れた報告書とも言える。PARASOPHIAでは、日本の台湾統治時代に製糖産業で栄えた虎尾市に今も残る台湾糖業会社の元・労働者とその家族を対象に、日々の労働の音を彼ら自身で収集するワークショップシリーズを基に制作した《勤労歌》（2011）に加え、新プロジェクト《百万人の踊り手》（2015）も展示する。これは《勤労歌》の日本での展示にあたり、その歴史背景に関連する調査資料を来場者に提供するための場であり、1920–30年代の日本と台湾における農民運動に関する資料などが加えられる。このプロジェクトを通じて、台湾と日本のあいだに内在化した地政学的関係と人々の社会的記憶とを再構築することを試みる。

Hong-Kai Wang is an artist and researcher. She is currently a PhD-in-Practice candidate at the Academy of Fine Arts Vienna. Her works, built on patient, persistent collaborative efforts and conversations with other people, analyze and examine the organization of social relations and construction of sociocultural memory. For *Parasophia* Wang presents *Music While We Work* (2011), based on audio recordings of everyday labor collected by retired workers and their spouses at a sugar factory in Wang's hometown of Huwei, part of Taiwan's once-thriving sugar industry built during Japanese rule. In addition, she exhibits her new research project *Dancers of the Millions* (2015), which presents viewers with an ongoing discursive study of the historical context in *Music While We Work* as a means of reconstructing the interwoven geopolitical relationship and collective social memories of Taiwan and Japan.

王虹凱 (ワン・ホンカイ) Hong-Kai Wang

1971年台湾・虎尾生まれ、ウィーンと台北を拠点に活動
b. 1971 in Huwei, Yunlin County, Taiwan; based in Vienna and Taipei

勤労歌 2011 39分17秒
Music While We Work, 2011. 39 min. 17 sec.
百万人の踊り手 2015
Dancers of the Millions, 2015



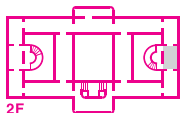
《勤労歌》2011 *Music While We Work*, 2011. Photo by Chen You-Wei

大理石やシリコン、人工毛髪といった無機質でありながら女性的な質感も連想させる素材を用いて、冷静かつ繊細に世界を捉えた作品を制作。西洋を起源とする制度や二元的思想への疑問から、その状況を象徴する人工遺物を収集、提示、そして変化させる行為を試み、その継続的な実践を通じて異なる解釈や提案を生み出す可能性を追求している。PARASOPHIAでは京都市美術館の帝冠様式の建築と第二次世界大戦中に製造された陶製手榴弾の遺物からインスピレーションを得た作品と、近代化における越境をテーマにした新作2点を発表する。この新作の背景を別の形で補足するものとして、笠原が選んだ戦中の日本と旧満洲の映画、抑留日本兵が見たかもしれないソビエト連邦の映画を上映するシネマプログラム「trigonometry」が、京都府京都文化博物館フィルムシアターで行われる。

笠原恵実子 Emiko Kasahara

1963年東京生まれ、神奈川県藤沢市を拠点に活動
b. 1963 in Tokyo, Japan; based in Fujisawa, Kanagawa Prefecture, Japan

Working with materials that are simultaneously inorganic and evocative of feminine textures, Emiko Kasahara creates works that capture the world with a sober yet sensitive eye. Attempting to collect, display, and engage in acts that might alter artifacts rooted in Western systems and dualistic thought, she explores the potential of various interpretations and propositions that arise from this sustained practice. At *Parasophia*, she presents a work that draws inspiration from the "Imperial crown style" architecture of the prewar Kyoto Municipal Museum of Art and from ceramic hand-grenades produced in Japan during World War II, and another that deals with the themes of transborder of modernization. At the Museum of Kyoto, the cinema program *Trigonometry* will address the historical background behind this work in a different fashion, screening films selected by Kasahara from wartime Japan and Manchuria, and Soviet films.



TSR 14 2015
TSR 14, 2015
K1001X 2015
K1001X, 2015

京都府京都文化博物館 本館
3F フィルムセンター/PP.73-74参照
Film Theatre, Main Building,
The Museum of Kyoto



《TSR 14》2014 展示風景(部分) 写真: 大高隆
TSR 14, 2014. Installation view (detail). Photo by Takashi Otaka

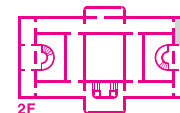
医師でもあるマータルの美術家としての活動は作品制作だけにとどまらない。彼はサウジアラビアの若手芸術家集団「イブン・アシール」を率いるリーダーでもあり、中東と西洋の世界をつなぐ現代美術のプラットフォームとしての非営利組織「エッジ・オブ・アラビア」(2003-)の創設者の1人でもある。近年は、急増する巡礼者と観光産業、グローバル化の流れてめぐるしい変貌を遂げるイスラム教の聖地・メッカ周辺を“非公式な歴史”として記録する《デザート・オブ・ファラン》というシリーズを制作し、イスラム世界における未来への展望と可能性を複合的視点で探っている。今回の出品作《四季を通して葉は落ちる》は、メッカ周辺の大規模な再開発工事の模様を、現場の移民労働者たちが携帯電話で撮影した動画やネット上で流通する動画を寄せ集めて作品化したものである。結果として作品は、イスラム世界の聖地メッカが物理的・文化的に変貌する姿を、移民建設労働者の視点で撮影した、公式には語られることのないメッカ近代化の別のリアリティーの記録となっている。

Ahmed Mater works as both a doctor and an artist. In the field of art, he is also the leader of the Saudi Arabian young artists' collective Ibn Aseer, and a co-founder of the nonprofit Edge of Arabia (2003-). In recent years he has worked on the ongoing project *Desert of Pharan*, which documents the rapid development of Makkah, adopting multiple perspectives on the future outlook and possibilities of the Muslim world. He presents *Leaves Fall in All Seasons*, a film made up of mobile phone footage shot by immigrant workers on building sites in and around Makkah, which was transferred to the artist's phone and uploaded to the Internet. The footage records the physical and cultural transformation of the holy city from these men's perspective, revealing behind-the-scenes realities of Makkah's modernization that are omitted from the official narrative.

Ahmed Mater アフメド・マータル

1979年サウジアラビア・タブーク生まれ、アブハ、ジッダおよびメッカを中心に活動
b. 1979 in Tabuk, Saudi Arabia; based in Abha, Jeddah, and Makkah

四季を通して葉は落ちる 2013 20分
Leaves Fall in All Seasons, 2013. 20 min.



《四季を通して葉は落ちる》2013 *Leaves Fall in All Seasons*, 2013

「生存の技法(私たちが生きてゆく為の創造的な技術)」という視点から身体・知覚・言語の関係を再配置し、医療・生命・環境や制度を包括する芸術の研究・制作のプロジェクトを国内外の研究機関や研究者らとともに展開している。PARASOPHIAでは、関係性と意味が解体され漂白された法廷と監獄の白い構造体、庭石、白い海図が配置されたパラボキシカルな空間(コトバの迷路)が広がるプロジェクト《装飾と犯罪—Sense/Common》を発表する。展示室の正面に張られた鏡の裏側に回ると、歴史の外部で変貌してゆくであろう京都の崇仁地域の映像が投影される。不均一なこの展示空間は、鑑賞者の視点を流動化させ、区画・領域・権力・言語などについて自問し、思考と検証を繰り返す場所となる。彼らの一連の実践は、絶えず観測点を移動させるサイト・アルケオロジーであり、同時に、美術におけるハイ・アンド・ローを曖昧にすることで生まれる余白に、批評の可能性を探ろうとする真摯な遊戯とも言える。

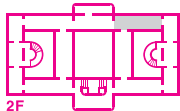
倉智敬子+高橋悟

Keiko Kurachi & Satoru Takahashi

1957年大阪生まれ、大阪を拠点に活動
1958年京都生まれ、大阪を拠点に活動

b. 1957 in Osaka, Japan; based in Osaka
b. 1958 in Kyoto, Japan; based in Osaka

In Keiko Kurachi and Satoru Takahashi's ongoing project, *The Art of Survival*, they focus on the creative techniques human beings employ in order to stay alive, reconfiguring physical, intellectual, and linguistic relationships in a research and production project. At *Parasophia* they present the project *Ornament and Crime: Sense/Common*, featuring a paradoxical space (a labyrinth of language) containing a white structure signifying a courtroom and prison, garden stones, and white nautical maps, from which relationships and meanings have been dismantled and bleached away to nothingness. On the other side of the mirror is a projected film of Suujin district of Kyoto, which has and will continue to develop apart from the main stream of history. This heterogeneous exhibition space causes the viewer to adopt a fluid perspective and to question concepts of division, field, authority, and language, continuously reiterating processes of thought and inspection.



装飾と犯罪—Sense/Common 2015
Ornament and Crime: Sense/Common, 2015



Temporary Foundation 《法と星座・Turn Coat/Turn Court》2014 写真：来田猛
Temporary Foundation, *Turn Coat/Turn Court: constitution—constellation*, 2014. Photo by Takeru Koroda

緻密な資料調査を踏まえ、九割の事実に一割の虚構を織り込みながら、美術家の視点から近代日本美術史における定説のいくつかを再考察する作品を発表してきた。戦後美術の原点の一つとして専門家の間で評価の高い河原温の『浴室』シリーズ(1953–54)は、実は戦前との決別ではなく、アジアの地平線を求めた近代日本美術の拡大妄想が「折りたたまれた」だけだとする眞島の解釈は、研究者たちが真剣に検証すべき示唆に満ちている。PARASOPHIAでは開催前に行った全4回にわたる連続レクチャーを経て、日本近現代美術に関するダイアグラムを様々な形で出品。複数のダイアグラムと、昨日と今日が日々重なりながら書き換えられていく連続レクチャーの映像は、眞島が一貫して考え続けている「日本近現代」に共時的な態度を重ねた美術作品であり、一連のレクチャーも含めて、それは一種のパフォーマンスといえる。また、会場内の階段の一角にも、数時間にわたり形を変えながら作り上げられた粘土による経験としての立体的ダイアグラムが現れる。

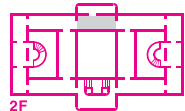
Tatsuo Majima weaves ten percent fiction into ninety percent facts (verified through intensive research) in many of his works, deconstructing accepted notions of Japanese modern art history from an artist's perspective. His four-part lecture series for *Parasophia*, held over the course of six months, has resulted in an exploration of modern and contemporary Japanese art history through diagrams in a wide range of formats. The multiple diagrams and video footage of the lecture series describing the ways in which the past and present overlap and overwrite one another are works of art in and of themselves, conveying the synchronous nature of the Japanese modern and contemporary history on which Majima has consistently focused. A three-dimensional, experiential clay diagram, which took various shapes over the course of several hours, will also appear in one corner of the staircase in the venue.

眞島竜男

Tatsuo Majima

1970年東京生まれ、神奈川県川崎および大分県別府を拠点に活動
b. 1970 in Tokyo, Japan; based in Kawasaki, Kanagawa Prefecture, Japan and Beppu, Oita Prefecture, Japan

二つのコンテンツラリー：15分(ずつ)のレクチャー・ビデオ 2015
Contemporary and Contemporary: Two 15-minute Lecture Videos, 2015
ダイアグラム(紙)10点 2015
Ten diagrams (paper), 2015
ダイアグラム(粘土)3点 2015 ビデオ：2時間42分、59分
Three diagrams (clay), 2015. Videos: 2 hr. 42 min., 59 min.



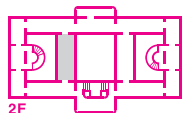
『満洲レスリング』のためのダイアグラム(粘土) 2015 *Diagram (clay) for "Manchuria Wrestling," 2015.*

16ミリ映画『狂わせたいの』(1997)が日本映画プロフェッショナル大賞新人監督賞を受賞、「上質なB級映画」として高い評価を受けた。また、美術、音楽、映像が融合するグループ「キュービキュービ」を主宰し、作品制作やパフォーマンスを行っている。その領域横断的で過激な娯楽性に満ちた作品は、世界各地の美術館や国際展に招待されている。PARASOPHIAでは、新作《憧れのボディ/bodhi》を発表。鑑賞者は展示空間を移動しながら、悪夢、幸福、身体、欲望といった様々な関係性の中で翻弄されるある女性の人生を映画的に体験していく。複数の映像と音響、立体物などで構成された展示空間の中を鑑賞者は絶えず前方へ誘導され、その移動は映画のシークエンスの連鎖のような物語的体験を鑑賞者に抱かせる。本作品は鑑賞者が展示空間(映画装置)を身体的に移動して作品を読み進める短編映画であると同時に、映画装置の空間的展開(インスタレーション)であり鑑賞者の錯誤やストーリーの恣意的な解釈をも許容する、映画についての別の思考を促す実験装置でもある。

石橋義正 | Yoshimasa Ishibashi

1968年京都生まれ、同市を拠点に活動
b. 1968 in Kyoto, Japan; based in Kyoto

and video in their artworks and performances. At *Parasophia*, Ishibashi will present his new work *Longing of Bodhi*. In this interactive video piece, the viewer moves through the gallery and cinematically experiences the travails of a woman flung hither and thither between nightmare and joy, corporeality and desire. The work is simultaneously a short film that the viewer inputs by physically moving through the exhibition space (which acts as a motion picture apparatus), an installation (a spatial deployment of a motion picture apparatus), and an experimental mechanism that permits erroneous or arbitrary interpretation by the viewer and elicits thought about the nature of film itself.



憧れのボディ/bodhi 2015 約20分から1時間
Longing of Bodhi, 2015. Approx. 20min.-1 hr.



Photo by Masaaki Tanaka
© Ishibashi Production

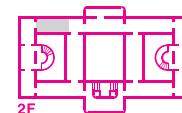
1985年にベルリンに移住。バグラミアンの異なる素材を組み合わせた彫刻実践は、旧来のモダニズムやミニマリズムそしてデザインに対する深い理解と、素材や技巧および制作過程への興味とを伴う。彼女の様式的、概念のおよび批評的な関心によって導き出されたものである。その作品は展覧会を創る様々なアプローチにおいて立ち現れる、矛盾し対立する複数の歴史に対し繊細な感覚を備えている。PARASOPHIAでは《枕の形を整える》(2012)の一部の新規制作を含む再構成を予定。特定の道具や工具、特に航海に関係するものを基点とする抽象的な立体物によるインスタレーションを通して、「彫刻的」であること概念を再考すると同時に、交易、工業、そして労働と工芸の性差的な意味合いについての考察を展開する。また、本作を発表したクンストハレ・マンハイムでの個展のために制作された、上流階級向けの航海雑誌の様相を呈したカタログ『ボート・マガジン』もひとつの作品としてPARASOPHIAの展覧会カタログの紙面上に「展示」する。

Nairy Baghramian's formal, conceptual, and critical concerns, together with a deep understanding of the legacies of Modernism, Minimalism, design, and an interest in materials, craft, and the process of making, lead to a heterogeneous sculptural practice, one that is sensitive to the reality of contradictory or competing histories manifested in a variety of approaches to exhibition-making. At *Parasophia*, Baghramian will be presenting a new configuration of her work *Fluffing the Pillows* (2012). Through abstract forms based on specific utilitarian and maritime objects, the artist investigates the notion of the "sculptural" as well as trade, industry, and gendered notions of labor and craft. The catalogue for her initial presentation of the work at Kunsthalle Mannheim, which was disguised as an upscale boating magazine, is also presented as a work in itself on the pages of *Parasophia's* exhibition catalogue.

Nairy Baghramian | ナイリー・バグラミアン

1971年イラン・エスファハーン生まれ、ベルリンを拠点に活動
b. 1971 in Isfahan, Iran; based in Berlin

枕の形を整える：日本編(ムアリング、ガーニー、サイロ、モップ) 2015
Fluffing the Pillows / Japan (Mooring, Gurney, Silos and Mop), 2015



《枕の形を整える》2012 *Fluffing the Pillows*, 2012

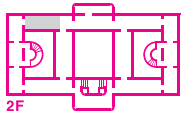
ケルンの美術学校で学び、陶磁やブロンズを使ったオブジェ、写真や映像によるコラージュ、身体に描かれたドローイングなど様々なメディアや手法で制作を行う。1980年代後半には機械編みニットを用いて既知のロゴマークをパターン化した「絵画」で国際的な評価を受け、1999年のヴェネツィア・ビエンナーレにドイツ館初の女性代表作家として参加。自然史や動物学、植物学、鉱物学からも学び、表現へと昇華させるプロセスを重要視している。PARASOPHIAでは、彼女が初期から取り組んできた代名詞的シリーズのニット・ペインティング3点が出品される。遠目では単色に塗られたカンヴァスのように見えるが、近づくるとガーター編みによる無数の織り目が観る者の思考を誘う。一本の毛糸で織り上げられた作品には、機械織りを可能にした時代とそれに携わってきた人々の歴史に対する彼女の思いが編み込まれている。

Rosemarie Trockel | ローズマリー・トロッケル

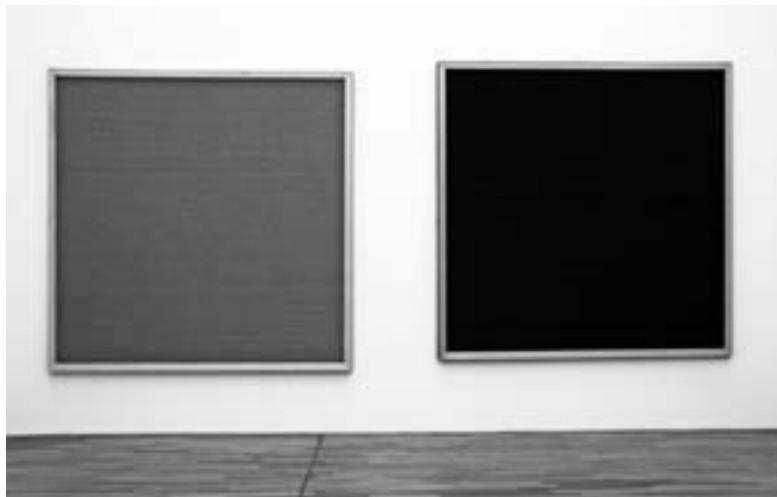
1952年ドイツ・シュヴェアテ生まれ、ケルンを拠点に活動
b. 1952 in Schwerte, Germany; based in Cologne

1980s, she gained international prominence for machine-knitted wool “paintings” that appropriated and made repeated patterns out of existing logos and trademarks. In 1999, Trockel became the first female artist to represent Germany at the Venice Biennale. At *Parasophia*, she will exhibit three from her signature series of knitted paintings, begun early in her career. These works look from a distance like monochromatic painted canvases, but on closer examination reveal countless nubs of garter-stitched wool. Woven into the paintings, created from a single strand of yarn, are Trockel’s own thoughts and feelings towards the history lying beneath our current era of mechanical weaving, and the stories of the people that made it possible.

Rosemarie Trockel has worked extensively in a wide range of media including art objects made of ceramic and bronze, photo collage, video montage, and drawing on the body. In the late



ランバー 2007 何炬星美術財団コレクション
Lumber, 2007. He Juxing Art Foundation Collection
スクエア・エネミー 2006 個人蔵
Square Enemy, 2006. Private collection
カモフラージュ 2006 何炬星美術財団コレクション
Camouflage, 2006. He Juxing Art Foundation Collection



グループ展「The Luminous West」ボン美術館（ドイツ）での展示風景、2010
Installation view of Trockel's works in the group exhibition *The Luminous West*, Kunstmuseum Bonn, Germany, 2010

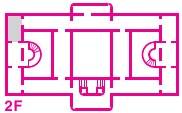
出来事を実際に体験することとその記録映像を通して体験することとの差異や、映像の編集過程で生まれる元の出来事とのズレなど、プロジェクトを記録し編集したビデオ作品を通じて、記録と記憶をめぐるさまざまな問題の考察を続けている。PARASOPHIAでは田中が新たに取り組むローカルな歴史と集団性についての1作目、映像を使ったインスタレーション《一時的なスタディ:ワークショップ#1「1946年～52年占領期と1970年人間と物質」》を発表する。会場となる京都市美術館が第二次世界大戦後アメリカの駐留軍に接収され、また1970年の展覧会「人間と物質」の会場となった歴史に注目し、4名のファシリテーターと8名の高校生を参加者としてワークショップを2014年12月に開催した。途中から撮影班と運用班も加わり、テキストの読み直し・状況の再現・構築・対話が試みられ、事前に行われたオリエンテーションで共有された参加意識によって、ワークショップが方向づけられていった。

Koki Tanaka records and edits documentary footage of his projects to create video works that express his ongoing contemplation of various issues of memory and documentation, such as the difference between actually experiencing an event and seeing it on video, or the gap between an event and its documentation that emerges from the process of editing. For *Parasophia*, Tanaka will present a new video/installation dealing with the themes of local history and collectivity. At a workshop with four facilitators and eight high school students, focusing on the history of Kyoto Municipal Museum of Art, the film crew and technical crew join in partway through, engaging in re-readings of the text, re-enactments of situations, constructions, and dialogues. A preliminary orientation was an opportunity for participants to share and affirm the common goal of “participation,” and this shared perception shaped the progress of the workshop.

田中功起 | Koki Tanaka

1975年栃木県益子生まれ、ロサンゼルスに活動
b. 1975 in Mashiko, Tochigi Prefecture, Japan; based in Los Angeles

一時的なスタディ:ワークショップ#1「1946年～52年占領期と1970年人間と物質」 2015
Provisional Studies: Workshop #1 “1946–52 Occupation Era, and 1970 Between Man and Matter,” 2015



写真：鯨かほる Photo by Kahoru Tachi

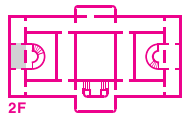
他の美術家による作品、特にモダニズムの古典とされるような作品が置かれる様々な文脈を捉えた写真作品で知られる。それらの写真は、公の場や個人の自宅で展示され、今まさに展示され、保管され、売買されるといった、美術作品が置かれうるあらゆる状況を表している。ローラーの作品は美術についての批評的な思考と作品が置かれるさまざまな文脈や見せ方の法則を提示している。2014年に初めて来日し、PARASOPHIAのオープンリサーチプログラムの一環として京都国立近代美術館でレクチャーを行った。本展では「鑑賞者の視線」への彼女の興味を示す「トレース」の近作から7点を京都市美術館に展示。これらの作品の一部は美術館の展示空間を超えて、河原町通の工事中の京都BALの仮囲い上でも展示する（京都府京都文化博物館の地図を参照／4月20日まで）。

Louise Lawler ルーズ・ローラー

1947年アメリカ・ニューヨーク州ブロンクスビル生まれ、ニューヨークを拠点に活動
b. 1947 in Bronxville, NY, USA; based in New York

they are placed, including artworks installed for public or private viewing, artworks in the process of being installed, artworks in storage, artworks for sale, and more. Her works encourage and represent a critical discourse on art and the various contexts and principles of their presentation. In 2014, Lawler delivered a lecture as part of Parasophia's Open Research Program. For the exhibition, she presents seven works from her series of "tracings." These works will reach out beyond Kyoto Municipal Museum of Art to also be seen in a different environment at Kyoto BAL (see map for The Museum of Kyoto; until April 20).

Louise Lawler is known for works based on her photographs of works by other artists, especially works of Classic Modernism, showing the contexts in which



接着ビニールにプリントされたトレース作品 7点
Seven traced images printed on self-adhesive vinyl

その他の展示場所：京都BAL (p. 53)
4月20日まで展示
Works also on view at Kyoto BAL (p. 53)
until April 20



《無題（トレース）》 2006/2013 Untitled (traced), 2006/2013

ラグナル・キヤルタンソンの活動は、絵画、ドローイング、ビデオ作品、パフォーマンスといった多様なメディアにわたる。2009年ヴェネツィア・ビエンナーレ、アイスランド代表。1999年に結成されたアメリカのバンド、ザ・ナショナルは、ヴォーカルのマット・バーニング、アーロンとブライスのデスナー兄弟、スコットとブライアンのデヴェンドーフ兄弟で構成されている。PARASOPHIAでは、キヤルタンソンとザ・ナショナルは《たくさんの悲哀》(2013-14)を出品。本作は、キヤルタンソンによって構想され、ザ・ナショナルによって演じられた。この6時間以上にわたるビデオは、2013年にMoMA PS1で行われたパフォーマンスを映像に収めたものである。このイベントにおいて、ザ・ナショナルは3分25秒の曲「悲哀」を絶え間なく反復しつつ、6時間にわたって行った。反復が起こるたび、バンドと観衆は互いのエネルギーを自らの内に取り込むが、多様なカメラアングルによって鑑賞者は、様々な視点からこれを眺めることになる。

For *Parasophia*, Ragnar Kjartansson and The National present *A Lot of Sorrow* (2013-14). Kjartansson is an Icelandic artist who has had solo shows at institutions worldwide, and

has participated in two Venice Biennales, representing Iceland in the 2009 iteration. The National, a highly praised American band formed in 1999, consists of musicians Matt Berninger, Aaron and Bryce Dessner, and Scott and Bryan Devendorf. *A Lot of Sorrow*, conceived by Kjartansson and executed by The National, is an over six-hour video, which was filmed during a performance at MoMA PS1 in 2013. For the event, The National played their three minute, twenty-five second song "Sorrow" live on stage, repeatedly and continuously, for six hours. Multiple camera angles grant the viewer access to several perspectives as the band and the crowd feed off each other's energy with every repetition.

Ragnar Kjartansson ラグナル・キヤルタンソン

1976年アイスランド・レイキャビク生まれ、同市を拠点に活動
b. 1976, Reykjavík, Iceland; lives and works in Reykjavík

ラグナル・キヤルタンソンとザ・ナショナル《たくさんの悲哀》 2013-14 6時間9分35秒
Ragnar Kjartansson and The National, *A Lot of Sorrow*, 2013-14. 6 hr. 9 min. 35 sec.

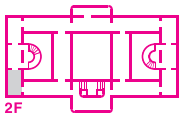


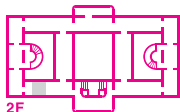
Photo by Elisabet Davidsdottir, courtesy of the artists, Luhning Augustine, New York, and i8 Gallery, Reykjavik.
© Ragnar Kjartansson and The National

これまでに100本以上のテレビ番組や映画を手がけ、90年代中盤以降は美術館やギャラリーでインスタレーション作品も数多く発表。マスメディアや監視カメラ、プロパガンダフィルムなど多岐にわたる映像を素材に、徹底した調査・分析の視点を通して現代社会の構造に迫る実験的なドキュメンタリー映像を制作してきた。ドクメンタ12(2007)では、前年に行われたFIFAワールドカップドイツ大会決勝イタリア対フランス戦を、実写やCGを用い多面的に記録したインスタレーション作品《Deep Play》を発表。PARASOPHIAでの出品作《トランスミッション》(2007)では、ワシントンD.C.のベトナム戦争戦没者慰霊碑をはじめ、世界各地の記念碑や聖地を訪れた人々の儀式化された身体の動きがクローズアップで映し出される。石碑に寄せられる頬や唇、刻まれた死者の名前をなぞる指先など、信仰や目的に応じて様々な形を取るそれらの行為を通して、記念碑が巡礼者から観光客まで多くの人々の想いを受け止め、崇拜の対象とされている様を考察している。

Harun Farocki | ハルーン・ファロッキ

1944年ドイツ併合下のチェコスロバキア生まれ、2014年ベルリンにて没
b. 1944 in German-occupied Czechoslovakia; d. 2014 in Berlin, Germany

Harun Farocki was a prolific film-maker, working on over 100 television programs and films, and from the mid-1990s onward presented numerous media installations at museums and galleries. Working with a wide range of footage from sources such as the mass media, surveillance cameras, and propaganda films, he produced experimental documentaries that incorporate intensive research and analysis into structural critiques of contemporary society. In *Transmission* (2007), shown at *Parasophia*, Farocki focuses on the ritualized behaviors of people visiting memorials and sacred sites around the world, including the Vietnam Veterans Memorial in Washington, D.C. By examining the diverse range of actions of people of differing faiths and relationships to the sites in question, the film explores the way in which memorials draw in endless streams of people from pilgrims to tourists, and are transformed into objects of worship.



トランスミッション 2007 43分
Transmission, 2007. 43 min.



© Harun Farocki GbR

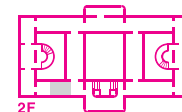
1970年代後期からセクーラは写真とテキストによる作品及び理論的著作を通じて、多くの美術家や研究者に影響を与え続けてきた。「写真の意味の創出について」(1975)などの論考は、写真史や写真理論という枠組みを超えて幅広い層に読まれてきた。セクーラの実践の中でも、とりわけ「フィッシュ・ストーリー」(1989-95)は、貿易や物流、労働、その意味や役割といった事柄を横断的に探求・提示してみせることで、政治的矛盾や労働問題の新しい外見を浮かび上がらせた。またセクーラは1999年秋にシアトルで開催された第3回世界貿易機関閣僚会議に対する抗議運動を撮影した。そのスライド写真81枚と短いテキストとで構成される《催涙ガスを待ちながら》(1999-2000)がPARASOPHIAでは出品される。いわゆるジャーナリズム的な撮影方法を拒否して撮られた写真のシークエンスは、立場や役割が定まっているはずの抗議運動という形において、それでもなおゆっくりと流れる不確実な時間を、スライドが切り替わる音とともに呼び起こしている。

From the late 1970s onward, Allan Sekula influenced many artists and researchers with his combined photo and text works and theoretical writing. In autumn 1999, protests were being staged against the 3rd World Trade Organization Ministerial Conference also taking place in Seattle. Sekula photographed these protests and produced *Waiting for Tear Gas* (1999-2000), consisting of 81 slides and a short text, which will be shown at *Parasophia*. The photographic sequence, which rejects a journalistic photographic approach, is presented with an evocative sound accompanying each change of slide, capturing the slow and uncertain flow of time even within the framework of a protest with ostensibly clearly determined roles and positions.

Allan Sekula | アラン・セクーラ

1951年アメリカ・ペンシルベニア州エリー生まれ、2013年ロサンゼルスにて没
b. 1951 in Erie, PA, USA; d. 2013 in Los Angeles, CA, USA

催涙ガスを待ちながら 1999-2000 ヴィンタートゥーア写真美術館蔵
Waiting for Tear Gas, 1999-2000. Collection Fotomuseum Winterthur

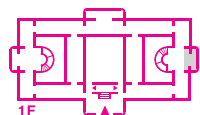


フランツ・ヘフナーとハリー・ザックスの二人組。ベルリンを拠点に活動するユニットで、都市環境下の建築と居住の問題を過激なユーモアを盛り込んだ美術的手法を使い、プロジェクト、パフォーマンスとして作品化している。その一例である2006年の《Honey Neustadt》プロジェクトでは、旧東ドイツ・ハレの化学プラント労働者のベッドタウン、ハレ=ノイシュタットで1960年代から1980年代後半にかけて建てられたプレハブ住宅を模し、発泡スチロール製の巣枠を積み上げてミニ住宅を作り、当時大量発生していた100万匹のミツバチのために住宅としての巣を設置した。PARASOPHIAでは、京都での滞在をもとに京都市美術館と京都駅の東側に位置する崇仁地域でプロジェクトを行う。京都市美術館での展示《Museum Casino》では、出入口のひとつに過去の展覧会で使われた資材を再利用して構成し、来館者が出入り自由な小さな空間(=カジノ)を出現させる。

Hoefner / Sachs | ヘフナー / ザックス

フランツ・ヘフナー：1970年ドイツ・シュタルンベルク生まれ、ベルリンを拠点に活動
 Franz Hoefner; b. 1970 in Starnberg, Germany; based in Berlin
 ハリー・ザックス：1974年ドイツ・シュトゥットガルト生まれ、ベルリンを拠点に活動
 Harry Sachs; b. 1974 in Stuttgart, Germany; based in Berlin

means imbued with a sharp, crazy sense of humor. One example is their *Honey Neustadt* project from 2006, where the artists made miniature housing units out of Styrofoam beehive frames, modeled after the prefabricated working-class housing developments found in a commuter town for chemical plant workers built to the west of Halle in the former East Germany in the 1960s–80s. The artists built a bee colony out of these Styrofoam tower block models as a home for the swarm of a million honeybees that emerged in Berlin at that time. At the museum they present *Museum Casino*, in which they reuse and reconfigure materials used in past exhibitions to create a space (a “casino”) at one of the museum’s entrances, where museumgoers and passersby can stop in.



Museum Casino 2015
 Museum Casino, 2015



《Museum Casino》のためのスケッチ 2015 Sketch for *Museum Casino*, 2015

Hoefner/Sachs is Franz Hoefner and Harry Sachs, an artist duo from Berlin that turns issues related to urban architecture and housing into projects and performances through artistic

制服姿のエレベーターガールの写真シリーズなど、現代社会に生きる女性を扱った作品で90年代半ばから注目を集める。近年は劇作家・演出家として舞台作品を発表。ヨコハマトリエンナーレ2014では中上健次の小説『日輪の翼』を上演するための移動舞台車を発表。PARASOPHIAでは『日輪の翼』を演劇化するプロセスのすべてを、「ステージ・トレーラー・プロジェクト」として展開する。この舞台車は、路上でカラオケ大会や選挙演説などに使われる貸し舞台車が 대중文化として定着している台湾で製作され、横浜、大阪を経て、京都市美術館の敷地内に移動した。舞台車の内部に描かれた中上の小説に登場する架空の植物[夏芙蓉]を背景に、『日輪の翼』上演に向けたダンサーによるパフォーマンス、コスチュームショー、上映会、いとうせいこうによる朗読などが会期を通して行われる。大型冷凍トレーラーに乗り込んだ7人の老女たちによる目的地のない巡礼の旅のように、舞台車は会期終了後も移動を続け、2016年夏より全国での旅公演が計画されている。

Miwa Yanagi wrote and directed a theater work that toured five cities in the United States and Canada in January and February 2015. The Elevator Girls, who were models for her earlier photographic works, appear as subsidiary characters playing a role like that of a Greek chorus. At the 2014 Yokohama Triennale, she presented a mobile stage trailer for her play *Nichirin no tsubasa* (Wings of the Sun), which is based on the novel of the same name by Kenji Nakagami. For *Parasophia*, she presents the process of turning the novel into a play as the “Stage Trailer Project.” The mobile stage for the project was made in Taiwan, where such vehicles rented for street karaoke events, political campaign speeches, and so forth are an integral part of popular culture. A variety of performances will be staged on the trailer, including a dance performance, a costume show, and a reading by Seiko Ito.

やなぎみわ | Miwa Yanagi

1967年神戸生まれ、京都を拠点に活動
 b. 1967 in Kobe, Japan; based in Kyoto

『日輪の翼』上演のための移動舞台車 2014
 Stage trailer for *Nichirin no tsubasa*, 2014



《『日輪の翼』上演のための移動舞台車》 2014 写真：沈昭良
 Stage trailer for *Nichirin no tsubasa*, 2014. Photo by Shen Chao-Liang

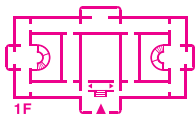
初期の作品は彼女の歌唱を唯一の音源として使い、民謡やポップスを歌う彼女の声を、スピーカーを用いて作品化する。作品は美術館やギャラリーではなく、バス停や高架下、スーパーマーケットなどの日常的な騒音が混在する場所に置かれることが多い。設置場所に応じて選ばれる歌は、しばしば政治的、社会的な意味を持っているが、フィリップスの優しい歌声は、歌詞が伝えるメッセージだけではなく、鑑賞者自身の個人的な記憶や感情を強く喚起し、聞く者に今いる場所の記憶を再認識させる。彼女の作品はサウンドインスタレーションとして分類されることが多いが、音を素材に時間と空間を分節する彫刻であるともいえる。今回は、京都市美術館の前に《インターナショナル》(1999)を設置すると共に、鴨川デルタで新作《三つの歌》(2015)を発表する。《インターナショナル》は作家自身がアカペラで歌う同名の革命歌で構成される。ある人にとっては扇動的に、ある人にとっては過ぎ去りし日の儚い夢を思い起こさせる痛ましい作品ともなりうる。

Susan Philipsz | スーザン・フィリップス

1965年イギリス・グラスゴー生まれ、ベルリンを拠点に活動
b. 1965 in Glasgow, Scotland, UK; based in Berlin

Susan Philipsz's early works use her own voice, singing folk songs and pop songs, as their only source of sound, coming from a simple composition of speakers. The songs selected according to the

location of the works frequently embody specific sociopolitical messages, but Philipsz's gentle voice does not only convey the message of the songs' lyrics but also strongly evokes the audience's own personal memories and emotions, and brings forth recognition of the memories of the place where they are listening to each work. At *Parasophia*, Philipsz presents *The Internationale* (1999) in front of Kyoto Municipal Museum of Art and *The Three Songs* (2015) at the so-called Kamo River Delta. *The Internationale* features Philipsz's a cappella solo rendition of the left-wing anthem of the same name. For some, it represents a rallying call, and for others, it is a heart-wrenching reminder of broken dreams.



インターナショナル 1999 サウンドインスタレーション (2分) 9:00-17:00 10分ごとに再生
The Internationale, 1999. Sound installation, 2 min. Plays every ten minutes, 9:00 AM to 5:00 PM



Photo by Eoghan McTigue

SOPHIA BOOKSTORE by Books OGAKI

営業時間：9:00-17:00 (3/27-4/12、4/29-5/10は19:00まで)

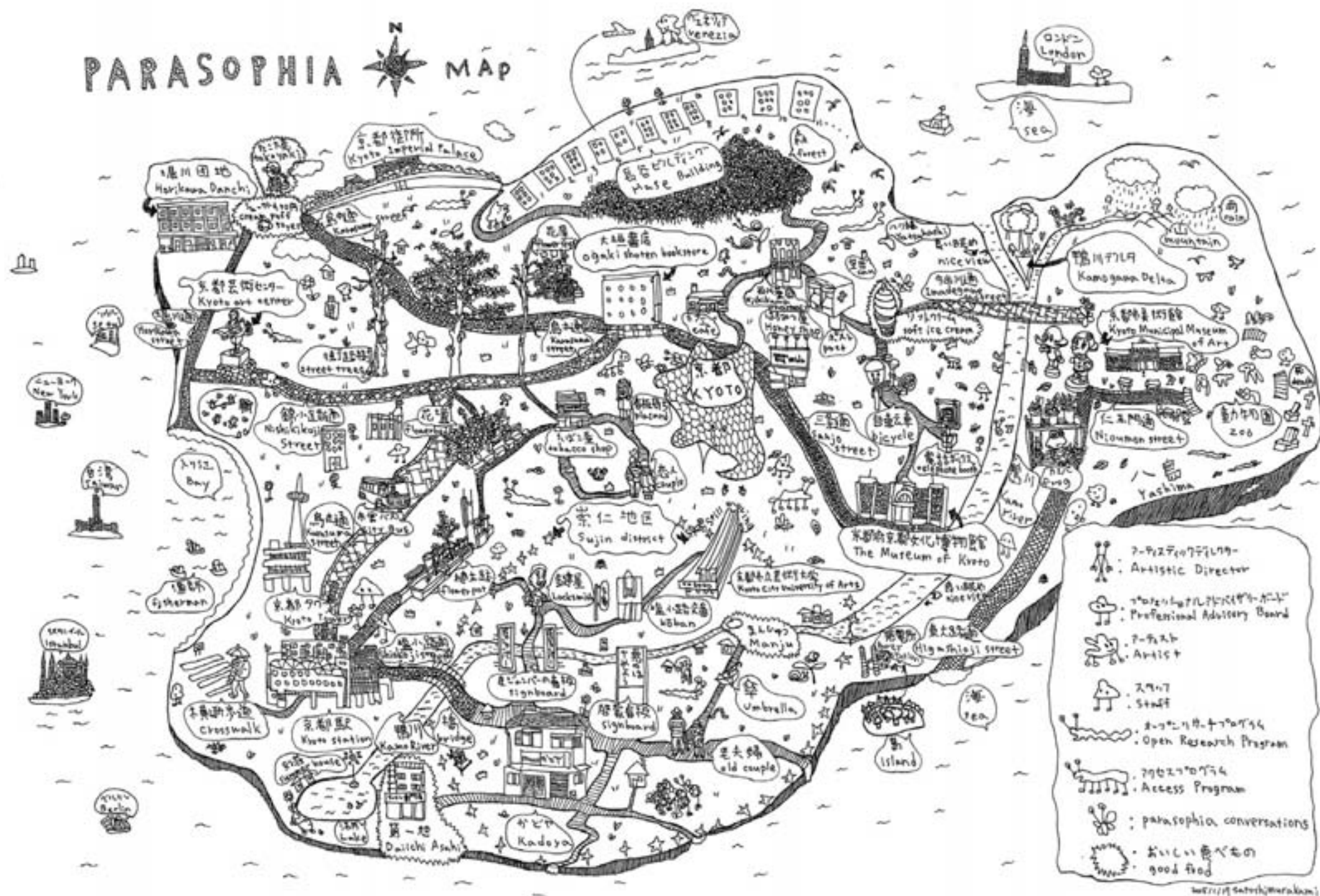
場所：京都市美術館 大陳列室内

Hours: 9:00 AM-5:00 PM (Extended hours on March 27-April 12 and April 29-May 10; open until 7:00 PM)

Main gallery,
Kyoto Municipal Museum of Art

リサ・アン・アワーバック「本棚」(部分) 2012
Detail from Lisa Anne Auerbach, *Bookshelf* (back cover), 2012

PARASOPHIA MAP



鴨川デルタ(出町柳)
Kamo River Delta
(Demachiyanagi)

[電車] 京阪「出町柳」駅下車 3 番出口すぐ
 [バス] 市バス 3・4・102 系統等「河原町今出川」下車すぐ
 [By train] Keihan Kyoto Line: Near Exit 3, Demachiyanagi Sta. (KH42)
 [By bus] Kyoto City Bus nos. 3・4・102, etc.: Near Kawaramachi Imadegawa

今出川通 Imadegawa-dori

京都御苑
 Kyoto Gyoen
 National Garden

寺町通 Teramachi-dori

河原町通 Kawaramachi-dori

京阪電鉄京阪線 Keihan Railway Kyoto Line

川端通 Kawabata-dori

東大路通 Higashioji-dori

神宮丸太町駅
 Jingu-Marutamachi sta.

京都大学総合博物館
 The Kyoto University
 Museum

アンスティチュ・フランセ関西
 / 在京都フランス総領事館
 Institut français du Japon – Kansai/
 Consul Général de France à Kyoto

ゲーテ・インスティトゥート・
 ヴィラ鴨川
 Goethe-Institut
 Villa Kamogawa

鴨川 Kamo River

上鴨神社
 Shimogamo
 Shrine

鴨田三 Takano River

鴨田三 Eizan Railway's Eizan Line

上鴨長瀬 Shimogamo-hondori

初期の作品は彼女の歌唱を唯一の音源として使い、民謡やポップスを歌う彼女の声を、スピーカーを用いて作品化する。設置場所に応じて選ばれる歌は、しばしば政治的、社会的な意味を持っているが、フィリップスの優しい歌声は、歌詞が伝えるメッセージだけではなく、鑑賞者自身の個人的な記憶や感情を強く喚起し、聞者者に今いる場所の記憶を再認識させる。彼女の作品はサウンドインсталレーションとして分類されることが多いが、音を素材に時間と空間を分節する彫刻であるともいえる。今回は、京都市美術館の前に《インターナショナル》(1999)を設置すると共に、鴨川デルタで新作《三つの歌》(2015)を発表する。《三つの歌》は2014年4月と7月に京都で行った調査に基づき、賀茂川と高野川が合流する鴨川デルタで展開する。本作は歌舞伎の原点とされる出雲阿国の四条河原での上演を振り返り、トマス・レイヴンズクロフト『パメラリア』(1609)に収録されている同時代のイングランドの舞曲や民謡で構成される。

Susan Philipsz's works that use her own singing voice as their only source of sound feature songs selected according to the location of the works. Her gentle voice does not only convey the message of the songs' lyrics but also strongly evokes the audience's own personal memories and emotions, and brings forth recognition of the memories of the place where they are listening to each work. At *Parasophia*, Philipsz presents *The Internationale* (1999) in front of Kyoto Municipal Museum of Art and *The Three Songs* (2015) at the so-called Kamo River Delta. *The Three Songs* is based on Philipsz's research in Kyoto. It will be installed where Kamo River (賀茂川) and Takano River flow together to form the famous Kamo River (鴨川). The work harks back to the origins of *kabuki* theater, which began on the dry riverbed of this iconic river, with songs from Thomas Ravenscroft's *Pammelia* (1609), from around the same era.

Susan Philipsz | スーザン・フィリップス

1965年イギリス・グラスゴー生まれ、ベルリンを拠点に活動
 b. 1965 in Glasgow, Scotland, UK; based in Berlin

三つの歌 2015 サウンドインсталレーション (3分) 10:00-18:00 毎時00分と30分より再生 (月曜休/ただし、3/9、5/4を除く)
The Three Songs, 2015. Sound installation, 3 min. Plays every hour and half-hour, 10:00 AM to 6:00 PM. Closed on Mondays (except March 9 and May 4)



鴨川デルタ(出町柳) Kamo River Delta (Demachiyanagi). Photo by Eoghan McTigue

Throughout Yasumasa Morimura's career, he has produced photographic self-portraits in which he transforms himself into iconic subjects. These works reflect his distinctive interpretations of the history of art and history in general, and as privately conceived fictions that subvert received value systems and historical narratives, convey the sense that our everyday, commonsense world is itself a colossal fiction. At *Parasophia*, Morimura presents "Las Meninas renacen de noche" (The Maids of Honor Reborn in the Night), which was photographed in the Museo Nacional del Prado, home to Velázquez's cryptic masterpiece *Las Meninas*, and "Hermitage 1941–2014," which depicts the Hermitage Museum, from which the art was evacuated during World War II, leaving only empty frames. Both are simultaneously soliloquies by Morimura and compelling fictions narrated by the artist as individual.

「侍女たちは夜に甦る」シリーズより8点 2013
8 works from the *Las Meninas renacen de noche* series, 2013
「Hermitage 1941-2014」シリーズより3点 2014
3 works from the *Hermitage 1941-2014* series, 2014

京都府京都文化博物館 別館
Annex, The Museum of Kyoto



《侍女たちは夜に甦るV：遠くの光に導かれ闇に目覚めよ》 2013
Las Meninas renacen de noche V: Drawn by a distant light, awoken to the darkness, 2013

80年代後半から自身が「ルーム」と呼ぶ一連の部屋のインスタレーションを制作する。映像、光、音、家具などが組み合わされるその作品は、知覚を通じて鑑賞者の記憶を刺激し、作品である室内を物語に満ちた本であるかのような空間に変容させる。彼女の作品は、作品状況を生み出す過程で生じる物理的・心理的構成要素の間の関係性、特に制作過程での人々の関与を重視している。近年はシネマ、テキスト、本、言語から発生するイメージとフィクション（物語）の、織物にも似た複雑な関係を、様々なメディアを使いながら深く静かに考察する作品を制作している。PARASOPHIAでは2点の新作ビデオインスタレーション《ベルリンのローラ・モンテス》（2015）と《オテロ1887》（2015）を2カ所で展示。京都府京都文化博物館別館で展示する《オテロ1887》はマドリードのパラシオ・デ・クリスタルでの個展「**SPLENDIDE HOTEL**」の会場内で撮影された映像を用いており、ヴェルディのオペラ『オテロ』を基に構想されている。

Dominique Gonzalez-Foerster

ドミニク・ゴンザレス=フォルステル

1965年フランス・ストラスブール生まれ、パリとリオデジャネイロを拠点に活動
b. 1965 in Strasbourg, France; based in Paris and Rio de Janeiro

In the late 1980s, Dominique Gonzalez-Foerster began creating a series of installations that combine elements such as video, light, sound, and fur-

niture to stimulate the viewer's memories through their senses, and transform rooms into spaces with rich narratives that can almost be described as books in room form. More recently, Gonzalez-Foerster has been creating works that present deep, tranquil contemplations of the complexly interwoven relationship between images and fiction in cinema, text, books, and language. At *Parasophia*, she will be presenting two new video installations: *Lola Montez in Berlin* (2015) at the Kyoto Municipal Museum of Art, and *Otello 1887* (2015), which was filmed at the Palacio de Cristal in Madrid during Gonzalez-Foerster's exhibition *SPLENDIDE HOTEL* and is based on Verdi's *Otello*, at the Annex of the Museum of Kyoto.

オテロ1887 2015 25分
Otello 1887, 2015. 25 min.

京都府京都文化博物館 別館
Annex, The Museum of Kyoto



ハーバード大学東アジア言語・文明学部准教授。フランクフルトで開催されている世界最大の日本映画祭「ニッポン・コネクション」の立ち上げに関わり、2002年から2010年までプログラムディレクターを務める。1960年代以降の東アジア、特に日本の映画や視覚文化について、歴史的・政治的なさまざまな視点から幅広く考察している。今回は京都府京都文化博物館フィルムシアターを会場としたシネマプログラムにおいて、1960年代から近年までの日本の映画を中心に取り上げ「日本映画におけるアジア」に焦点を当てる。娯楽映画、ドキュメンタリー、実験映画など11作の上映を通じて、日本映画において自国と他国を表象しようとした跡を読み直す。このシネマプログラムは、当事者が客観的に語るには複雑過ぎる「東アジアの近代」の物語を、非当事者であるザルテンが選んだ映画の連鎖が紡ぎ出すメタ物語として、当事者である私たちが再読する試みである。

Alexander Zahlten is an Assistant Professor of East Asian Languages and Civilizations at Harvard University. His research on film and audiovisual culture in East Asia and especially Japan from the 1960s onward examines the topics from a wide range of historical, political and other perspectives. For *Parasophia*, he has curated a selection of Japanese and other films from the 1960s through the present day as part of the screening program at the Museum of Kyoto Film Theatre, with a focus on "East Asia as seen in Japanese cinema." This program re-interprets traces of how Japan has attempted to represent themselves and other countries in cinema by referencing entertainment movies, documentaries, and experimental films, and offers an opportunity for the people of these countries, for whom the modern East Asian narrative is too complex and close to home to be discussed objectively, to re-examine it as a meta-narrative woven by the films that Zahlten selects as an outside, yet deeply informed and insightful, observer.

Alexander Zahlten

アレクサンダー・ザルテン

1973年アメリカ・ウィスコンシン州マディソン生まれ、ボストンと京都を拠点に活動
b. 1973 in Madison, WI, USA; based in Boston and Kyoto

PARASOPHIAシネマプログラム「アジアを照らさないミラーボール。日本映画のアジア」
Parasophia Cinema Program "Mirrorball on Asia"

京都府京都文化博物館 本館
3F フィルムセンター/PP.73-74参照
Film Theatre, Main Building,
The Museum of Kyoto



京都府京都文化博物館フィルムシアター Film Theatre, The Museum of Kyoto

元々写真を学んでいたが、2004年のアメリカ合衆国大統領選挙のときにメッセージを編み込んだニットを制作し、それ以降、同様のニット作品を数多く発表。自分自身の日常から生まれたシンプルな発想を起点に、個人が入手可能な既存の素材やメディアを駆使し、自分の手で制作することにこだわりながら生み出される作品は、日常の中に非日常が交錯する、遊び心のある批評性に満ちている。大垣書店烏丸三条店のショーウィンドーには《この織機を持って失せろ》(2009)を展示。本作は、産業革命で機械化が進む18世紀のイギリスにおいて、手仕事の機会を失うことを恐れた労働者たちが起こした織機破壊運動(ラッドライト運動)と、富の再分配を行ったロビン・フッドの物語との融合によって生まれた。作家自身が着ているニットに編み込まれたスローガンには痛烈なユーモアが含まれており、見る者の目を奪う。軽やかな外見の背後に潜む彼女の鋭いメッセージが、京都のビジネス街の中心地に立ち現れる。

Lisa Anne Auerbach | リサ・アン・アワーバック

1967年アメリカ・ミシガン州アナーバー生まれ、ロサンゼルスを拠点に活動
b. 1967 in Ann Arbor, MI, USA; based in Los Angeles

life, she employs readymade materials and media available to individuals and insists on working with her own hands, producing works rich in playful critique that tread the borderline between ordinary and extraordinary. Her photomural and knitwear from *Take This Knitting Machine and Shove It*, which will be shown in the display window of Books Ogaki Karasuma Sanjo, is based on a conflation of the 18th-century Luddite uprising, in which British textile artisans destroyed newly invented machinery in protest against the Industrial Revolution, with the legend of the heroic wealth-redistributing outlaw Robin Hood. The artist herself wears eye-catching knit sweaters of her own creation, emblazoned with caustically humorous slogans.

Lisa Anne Auerbach originally studied photography, but began to produce knit works during the 2004 United States presidential election. Starting with simple inspirations from her daily

この織機を持って失せろ 2009
Take This Knitting Machine and Shove It, 2009

大垣書店烏丸三条店(ショーウィンドー)
Display window at
Books Ogaki Karasuma Sanjo



Photo by Lisa Anne Auerbach

ミックの作品の多くは、無音のマルチチャンネルのビデオを、彫刻ともいえる建築的空間に投影したビデオインスタレーションの形式をとっている。PARASOPHIAでは、元小学校の講堂で、彼の最新作の一つである大規模な映像インスタレーション《異言》を展示する。本作は、大企業の社内行事と現代の宗教儀式とをバラレルに見せることにより、国境を越えた新たな宗教運動の出現について探究する。300人の俳優を使って撮影された映像は、はじめ企業の株主総会や社員研修のような様相を呈しながら、宗教的なモチーフや集団的な儀式が見え隠れし、やがて集団が生み出す熱狂を伴った異様で劇的なシーンへと変容する。京都での展示が過去のミック作品と異なるのは、作品に使われる映像が、演じられたフィクションだけでなく、ブラジルで実際の宗教儀式を撮影したドキュメンタリー映像も組み合わせている点にある。企業の自己啓発セミナーも個人の世俗的な富をも約束する現代の宗教儀式も、高揚の中で理解しがたい「異言」を話し始める展開によって、その差異が判別不能なものへと変容していく。

Aernout Mik's works often consist of silent multi-channel videos that resemble documentaries, but actually feature actors performing scenarios based on real social issues, and are projected in temporary architectural settings with sculptural qualities.

At *Parasophia*, Mik presents one of his latest large-scale video installations, *Speaking in Tongues*, which draws parallels between religious rites and ritualistic practices at large corporations, pointing to the rise of a new, borderless, quasi-religious movement. The 300-actor film begins with corporate settings but increasingly shows hints of religious motifs and ceremonies, eventually evolving into a dramatic ritual that reaches a frenzied climax. This installation differs from Mik's past work in that the staged fiction is juxtaposed with documentary footage from Pentecostal churches in places like Brazil. At both corporate self-actualization seminars and contemporary religious rituals that promise secular wealth, people begin "speaking in tongues," chaos escalates, and the line separating the two dissolves into ambiguity.

異言 2013
Speaking in Tongues, 2013

Aernout Mik | アーノウト・ミック

1962年オランダ・フローニンゲン生まれ、アムステルダムを拠点に活動
b. 1962 in Groningen, The Netherlands; based in Amsterdam



Photo by Florian Braun, courtesy of the artist and carlier | gebauer



ウィーンの工芸学校、バーゼルのスクール・オブ・デザインで学ぶ。音楽グループのステージデザイナーからメディアアートに進み、1980年代半ば以降、ビデオ作品で知られるようになった。男性社会が女性に投げかけるクリシェを巧みに逆用しその偏見を暴露するとともに、否定的に語られてきた「女性らしさ」を肯定し、女性達を励ます作品を制作。近年の作品は複数のチャンネルを用いて、家具や日用品などを取り込む大型のビデオインスタレーションが多いが、抽象的かつ装飾的な表現を通じた視覚原理への興味と、豊かな色彩へのこだわりはより先鋭化している。彼女は質問に答える形で何度も、「私はただ[色]を世界に取り戻し、現実になつこうとしているのです」と語っている。寝転がりながら、あるいは巨大なハンモックに揺られ、リラックスした気分で鑑賞する場を提供するなど、鑑賞者にアプローチすることも彼女の作品の特徴である。堀川団地の一室を使った新作では、彼女のみずみずしく美しい映像世界が扉を開き、私達の深層にある記憶や私的な時間感覚との対話が待っている。

Pipilotti Rist entered the field of media art after studying at the Institute of Applied Arts in Vienna and the Basel School of Design and working in stage design for music groups. Especially in her earlier works, Rist uses the clichés imposed on women to expose their stereotypes and to affirm the negative aspects of femininity, creating works that provide strong encouragement for women. Many of her recent works include furniture and daily objects as actual components, and her interest in exploring the principle of visual perception through abstract and decorative means and her focus on rich colors have grown sharper than ever over the years. In her new installation in one room of the Horikawa Housing Complex, the enchantingly beautiful imagery of her video projections opens the door to a world where we are invited to engage in dialogues with our own buried memories and personal sense of time.

Pipilotti Rist | ビピロッティ・リスト

1962年スイス・グラース生まれ、チューリヒを拠点に活動
b. 1962 in Grabs, Switzerland; based in Zurich

進化的トレーニング (堀川一不安は消滅する) 2014/15 3分37秒・12分20秒 (共にループ)
Evolutionary Training (Horikawa Worry Will Vanish), 2014/15. 3 min. 37 sec. and 12 min. 20 sec. (both looped)



《巨大な西洋梨の記録》 2014 Gigantic Pear Log, 2014

1981年バード大学を卒業後、彫刻やドローイング作品の発表を始める。石膏による鑄造・成型という従来の手法で彫刻を制作する一方、先史時代から用いられてきたテラコッタの手法で、彼の空想世界に介入してくる形態を探求し、その制作を繰り返し試みている。時間に対する精神分析的な関心や考古学的遺物への興味から、近年の展示では作品の形態変化を通じて制作過程を見せる構成をとっている。今回の出品作品は居住者の去った堀川団地の一室という、廃棄された空間との遭遇体験から生まれた。二つの仮面の断片から成る《ミューズ》は、互いに共鳴しあい、物質的な実在感と虚像、創造的インスピレーションと妄想の間の葛藤など、彫刻制作を続けてきた作家ならではの複雑な心境が込められている。

Brandt Junceau | ブラント・ジュンソー

1959年アメリカ・ニューヨーク州ポグブシー生まれ、ベルリンとニューヨークを拠点に活動
b. 1959 in Poughkeepsie, NY, USA; based in Berlin and New York

terra cotta, he frequently employs the traditional sculptural methods of moldmaking and casting in use since prehistory times, exploring forms that impose on his imagination and are sustained almost obsessively through repeated studies. Recent exhibitions revealed his working process as a reflection of his interests in memory and decay in Classical Psychoanalysis and in historical archaeology. This work was inspired by Junceau's encounter with a vacant apartment in the Horikawa Housing Complex. *Muse* consists of two mask fragments, each echoing the other, face to face. The work as a whole conveys the complex mindframe of the veteran sculptor at work, immersed in dilemmas of reality versus fiction and creative inspiration against delusion.

ミューズ 2015
Muse, 2015



After graduating from Bard College in 1981, Brandt Junceau began exhibiting sculptures and drawings. While he works directly in

イギリスとアメリカの大学や大学院にて数学、ダンス、美術、彫刻などを学ぶ。コロンビア大学大学院美術課程修了。空間を彫刻的に分節し、その環境の中で自らの身体によるダンス、言葉、モノを用いて即興的なパフォーマンスを行う作品を数多く発表している。日常的な出来事や行為から着想された即興的な展開に見える彼女の作品は、実は緻密に構成されたもので、インスタレーションの静止空間と動的パフォーマンスとが複雑に交差する迷宮的物語世界となっている。PARASOPHIAでは、ニューヨークで発表したばかりのインスタレーション/パフォーマンス《誤りハッピーアワー》に基づく映像インスタレーション、会期中に行われるパフォーマンス「ラストコール、誤りハッピーアワー」、パフォーマンス後の追加展示による3部構成で発表を行う。作品ごとに独自の解釈方法と手段で自分の領域を更新しつづけている笹本が短期間にみせる異化効果によって、私たちは自分たちの美術の見方を拡げることが可能となる。

Aki Sasamoto creates many works that involve the interplay between performances and installations, with performances in sculpturally defined spaces using her own body movements and dance, words, objects, and more. Although her works are ostensibly improvisational, they are in fact very carefully constructed, weaving together the stillness of installations and the motion of performance to create complex spatial narratives. At *Parasophia*, she presents a three-part work consisting of a video installation based on the installation/performance *Wrong Happy Hour*, which she just finished showing in New York; the performance *Last Call, Wrong Happy Hour*; and a follow-up to the performance. Sasamoto continually expands her own territory with singular interpretations and methods that change with each new work, efficiently creating a sense of alienation that enables us, the viewers, to broaden our own perceptions of art as well.

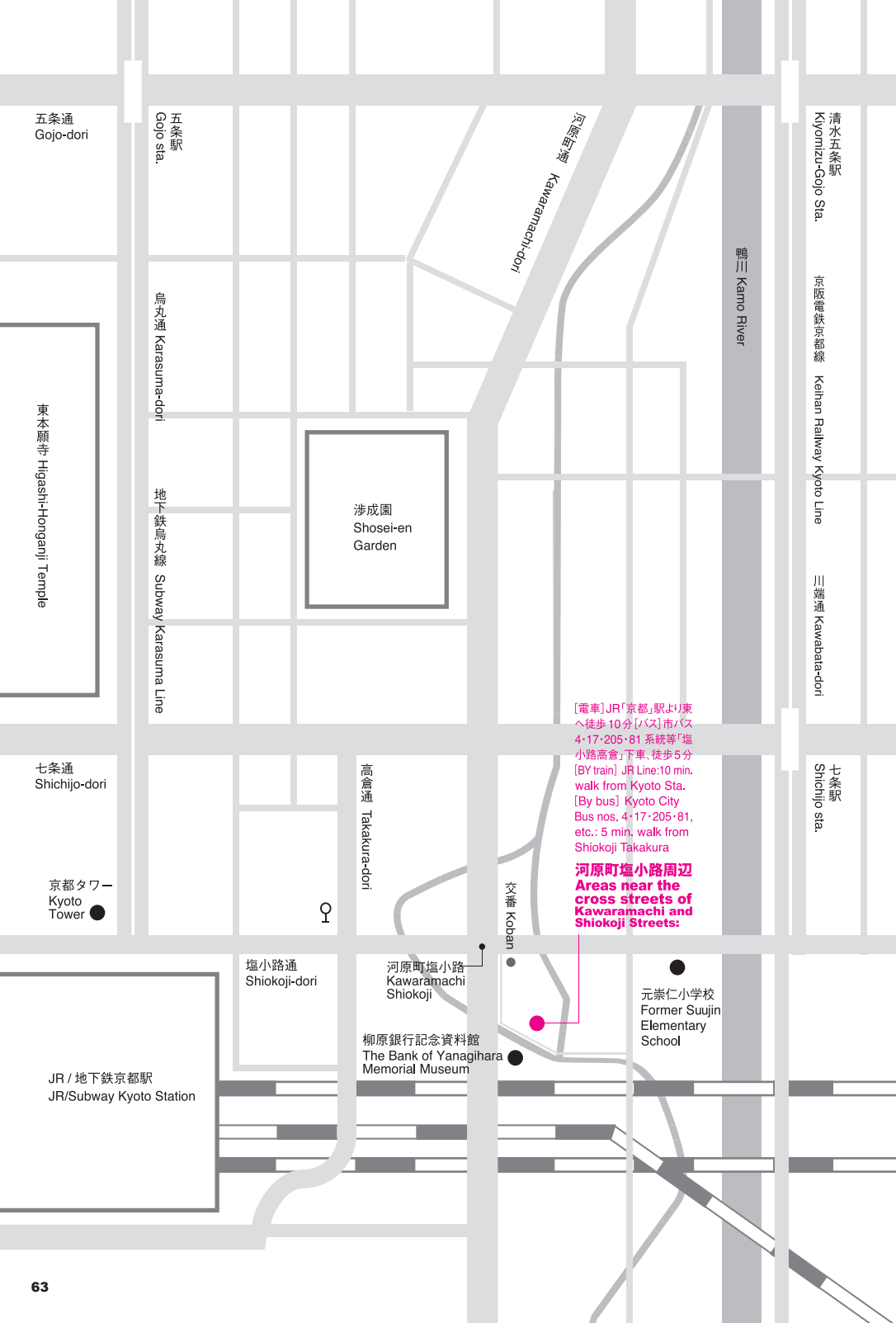
《ラストコール、誤りハッピーアワー》 2015
The Last Call, Wrong Happy Hour, 2015

笹本 晃 | Aki Sasamoto

1980年横浜生まれ、ニューヨークを拠点に活動
b. 1980 in Yokohama, Japan; based in New York



《誤りハッピーアワー》パフォーマンス 2014年11月2日
Wrong Happy Hour, performance, November 2, 2014
Photo by Ben Hagari, courtesy of JTT, New York and Take Ninagawa, Tokyo



フランツ・ヘフナーとハリー・ザックスの二人組。ベルリンを拠点に活動するユニットで、都市環境下の建築と居住の問題を過激なユーモアを盛り込んだ美術的手法を使い、プロジェクト、パフォーマンスとして作品化している。彼らの作品には、単なるシェルターとしての「住宅」と長く生活する空間としての「住居」との建築的境界線を問いかけるものが多い。《Suujin Park》は、崇仁地域の再開発プランによって生まれた多数のフェンスで囲われた空き地に、地域内に放置された建築資材や廃棄物を集めた構築物を制作、異邦人の視点で、長く差別を受けてきたコミュニティが培ってきた即興的な創造性への賛歌を一時的なモニュメントとして視覚化するプロジェクトである。世界各地の都市が抱える事柄に注目し、部外者としてあるいは異物としてそこに介入し、その場にある材料で作品を構築し、別の何かに変容させ都市に介入する彼らのブリコラージュ的手法は1950年代の知性を継承するものだが、未だ有効な対話法として真剣に議論されていくだろう。

Hoefner/Sachs is Franz Hoefner and Harry Sachs, an artist duo from Berlin. Many of their works call the architectural border between “housing units” as mere shelters and “homes” for long-term inhabitation into question. In *Suujin Park*, they create constructions from leftover building materials and scraps in the vacant lots surrounded by fences that have cropped up with the redevelopment of Suujin, as temporary monuments celebrating, from a non-Japanese perspective, the spontaneous creativity of a community that has long been the target of discrimination. The artists focus their attention on issues common to cities around the world and act as outside agents or “foreign bodies,” creating bricolage works that use materials found at the sites in a transformative and interventionary manner. Hoefner/Sachs’s approach carries on the legacy of the 1950s while remaining a fresh and valid mode of dialogue worthy of serious scrutiny.

Hoefner/Sachs | ヘフナー / ザックス

フランツ・ヘフナー：1970年ドイツ・シュタルンベルク生まれ、ベルリンを拠点に活動
 Franz Hoefner: b. 1970 in Starnberg, Germany; based in Berlin
 ハリー・ザックス：1974年ドイツ・シュトゥットガルト生まれ、ベルリンを拠点に活動
 Harry Sachs: b. 1974 in Stuttgart, Germany; based in Berlin

Suujin Park 2015
Suujin Park, 2015



《Suujin Park》のためのスケッチ 2015 Sketch for *Suujin Park*, 2015

[illegible]

【PARASOPHIAイベント】

*ここに掲載しているのは現段階で決定しているイベントです。最新の情報や申込方法の詳細はPARASOPHIAの公式ウェブサイト(www.parasophia.jp)もしくは会場にてご確認ください。

PARASOPHIA COUNTDOWN

***①-⑥の詳細は公式ウェブサイト参照**

① [レクチャー]
サイモン・フジワラ
3月7日(土) 11:00-12:00
会場: PARASOPHIAルーム
言語: 英語 (同時通訳あり)
定員: 80名

② [ワークショップ]
泰國強「花火嵐を上げる」
3月7日(土) 13:00-14:30
会場: 京都府立植物園(京都市左京区下鴨半木町)

③ [レクチャー] 倉智敬子+高橋梧 Case of A/Being
下條信輔「イリュージョン:認知と身体のリアリティ」
3月7日(土) 14:00-16:00
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: 下條信輔(カリフォルニア工科大学教授)、高橋梧
定員: 80名

④ [トークイベント] 展覧会ドラフト2015関連企画
対談① 王虹凱×川村麻純
3月7日(土) 16:00-
会場: 京都芸術センター ミーティングルーム2
登壇: 王虹凱、川村麻純
言語: 日本語、英語 (逐次通訳あり)
定員: 40名 主催: 京都芸術センター

⑤ [ツアー]
ヘプナー/ザックスによる崇仁ガイドツアー
3月7日(土) 17:00-18:30
会場: 河原町堀小路周辺 言語: ドイツ語 (通訳あり)
定員: 20名(要事前申込) 共催: 京都市立芸術大学

⑥ Curatorial Studies 07
『マヴォ』とフロリアン・ブムヘル
Part 1: ラウンドテーブル
3月8日(日) 13:00-14:30
会場: 京国国立近代美術館 講堂(京都市左京区岡崎円勝寺町)
登壇: フロリアン・ブムヘル、森下明彦
言語: 日本語、英語 (通訳あり)
定員: 80名 主催: 京国国立近代美術館

⑦ [シンポジウム] Parasophia Conversations 03
「美術展を超える展覧会は可能か」
PARASOPHIA+Goethe-Institut Villa Kamogawa共同プロジェクト
3月8日(日) 15:00-17:00
会場: ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川(京都市左京区吉田河原町19-3)
参加者: アンドレアス・バイティン(ZKM現代美術館館長)、ロジャー M. ビュルゲル(ヨハン・ヤコブ博物館館長、PABメンバー)、高橋梧、河本信治/進行:
神谷幸江(広島市現代美術館学芸担当課長、PABメンバー)
言語: 日本語、ドイツ語(日独同時通訳あり)
定員: 100名 共催: ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

⑧ [ワークショップ] Parasophia Conversations 04
王虹凱「百万人の踊り手」
3月9日(日) 10:00-13:30
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: 王虹凱ほか
言語: 日本語、英語 (逐次通訳あり) 定員: 15名(要事前申込)

⑨ [対談]
やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト
3月9日(日) 15:00-16:30
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: 沈昭良(写真家)、やなぎみわ
定員: 80名
台湾の舞台車のドキュメンタリー映像上映
主催: やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト

⑩ [トークイベント] Parasophia Conversations 05
眞島竜男×キュレーター
PARASOPHIA+国際交流基金 共同プロジェクト
3月9日(日) 18:00-19:30
会場: 京都芸術センター ミーティングルーム2
登壇: 眞島竜男ほか モデレーター: 遠藤水城(インディペンデント・キュレーター)
言語: 日本語、英語 (逐次通訳あり)
定員: 40名 共催: 国際交流基金

⑪ [レクチャー&ギャラリートーク]
プラント・ジュン「アーティストトーク」
3月13日(金) 14:00-15:30
会場: 京都市美術館
言語: 英語 (逐次通訳あり)

⑫ [トークイベント] 展覧会ドラフト2015関連企画
対談② やなぎみわ×川村麻純
3月14日(土) 16:00-
会場: 京都芸術センター ミーティングルーム2
登壇: やなぎみわ、川村麻純 定員: 40名 主催: 京都芸術センター

⑬ [シネマプログラム]
笠原恵実子×森脇清隆 トーク
3月14日(土) 19:40-20:40
会場: 京都府京都文化博物館 フィルムシアター
登壇: 笠原恵実子、森脇清隆(京都府京都文化博物館学芸課映像・情報室長、PABメンバー) 定員: 174名(要鑑賞券)

⑭ [パフォーマンス]
笹本晃「ラストコール、誤りハッピーアワー」
3月19日(木)・20日(金)・21日(土)・22日(日) 各日18:00-19:00
会場: 堀川団地 上長者町棟 出演: 笹本晃 定員: 各回30名(要事前申込)

⑮ [レクチャー]
笹本晃「アーティストトーク」
3月21日(土)・祝日: 13:00-14:30
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(京都市中京区押油小路町238-1)
定員: 70名 共催: 京都市立芸術大学

⑯ [レクチャー]
眞島竜男「一つのコンテンツポリシー／一つのコンプライシティー (共犯)」
3月29日(日)・4月4日(土)・4月5日(日) 各日13:00-13:15
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: 眞島竜男 定員: 80名

⑰ [シネマプログラム]
韓燕麗×アレクサンダー・ザルテン トーク
4月5日(日) 19:00-20:00
会場: 京都府京都文化博物館 フィルムシアター
登壇: 韓燕麗(中国語映画研究・関西学院大学准教授)、アレクサンダー・ザルテン 定員: 174名(要鑑賞券)

⑱ [ギャラリートーク]
アクセスプログラム「植物分類学」萩栗樹徳
4月10日(金) 17:00-18:30
会場: 京都市美術館 アナ・トーフ「ファミリー・プロット」展示室内
登壇: 萩栗樹徳(ナチュラリスト)／聞き手: 椿昇(京都造形芸術大学教授、PABメンバー)、牧口千夏(京国国立近代美術館主任研究員、PABメンバー)
定員: 50名(要当日有効鑑賞券)

⑲ [レクチャー]
笠原恵実子
「制度の中の美学/美学の中の制度ー近代京都からの考察」
4月11日(土) 16:00-17:30
会場: PARASOPHIAルーム 定員: 80名

⑳ [レクチャー] 倉智敬子+高橋梧 Case of A/Being
上野千鶴子「おまかせ民主主義からの脱却」
4月12日(日)(第1部) 13:00-14:30 (第2部) 14:45-16:00
(第1部) 上野千鶴子 講演
会場: PARASOPHIAルーム 定員: 120名
(第2部) オープンディスカッション「上野千鶴子＋一般参加の方々」(進行:
倉智敬子+高橋梧)
会場: 京都市美術館《装飾と犯罪ーSense/Common》展示室内
定員: 100名(要当日有効鑑賞券)
*当日10:00よりインフォメーションカウンターにて整理券配布

㉑ [野外上映会]
やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト
タデウシュ・カントル生誕100周年記念レクチャー&シンポジウムおよび野外上映
4月12日(日)(第1部) 15:00-16:30 (第2部) 17:00-19:30
(第1部) レクチャー「タデウシュ・カントルの宇宙におけるオブジェ、マネキン、俳優たち」
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: マウゴジャータ・ジェヴルスカ(演劇評論) 定員: 80名
(第2部) シンポジウムと「死の教室」上映会
会場: 京都市美術館 前庭 *会場・時間を変更することがあります。
パネリスト: 山根明季子(作曲家)、やなぎみわ、建畠哲(元・京都市立芸術

大学学長)、マウゴジャータ・ジェヴルスカ(演劇評論)、関口時正(東京外国語大学名誉教授)
司会: 加須屋明子(京都市立芸術大学美術学部准教授)
主催: 京都市立芸術大学
共催: PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015、ポーランド広報文化センター
協力: Culture.pl (第2部)

㉒ [シネマプログラム]
松江哲明×アレクサンダー・ザルテン トーク
4月12日(日) 19:40-20:40
会場: 京都府京都文化博物館 フィルムシアター
登壇: 松江哲明(映画監督)、アレクサンダー・ザルテン
定員: 174名(要鑑賞券)

㉓ [ツアー]
近代京都のフィールドワーク
4月14日(火) 13:00京都市美術館 集合、17:00五条坂付近 解散(予定)
会場: 京都市美術館、五条坂京焼登り窯(旧藤平、京都市東山区竹村町151-1)ほか
講師: 木立雅明(立命館大学文学部教授 考古学・文化遺産専攻)
定員: 30名(要事前申込) *移動のための交通費がかかる場合があります。

㉔ [トークイベント] アクセスプログラム
ラディカル・ダイアログ「現代美術と公案」古川周賢
4月15日(水) 14:30-16:30
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: 古川周賢(臨濟宗妙心寺派恵林寺住職)／聞き手: 椿昇(京都造形芸術大学教授、PABメンバー) 定員: 80名

㉕ [トークイベント] アクセスプログラム
ラディカル・ダイアログ「7回目のマリア」小川さやか
4月16日(木) 14:00-16:00
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: 小川さやか(文化人類学者、立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授)／聞き手: 椿昇(京都造形芸術大学教授、PABメンバー)
定員: 80名

㉖ [シネマプログラム]
梁英姫×アレクサンダー・ザルテン トーク
4月19日(日) 19:00-20:00
会場: 京都府京都文化博物館 フィルムシアター
登壇: 梁英姫(映画監督)、アレクサンダー・ザルテン
定員: 174名(要鑑賞券)

㉗ [レクチャー]
エマ・ラヴィーヌ(ボンビドー・センター・メス館長) レクチャー
4月21日(火) 18:00-19:30
会場: 京国国立近代美術館 1階ロビー(京都市左京区岡崎円勝寺町)
言語: 英語 (逐次通訳あり) 定員: 150名
共催: 京国国立近代美術館、京都市美術館
協力: アンスティチュ・フランス/フランス大使館

㉘ [セミナー]
「継承と伝達: 生成的未来知にむけて」
4月22日(水) 9:30-12:30 フィラ9条山(京都市山科区日ノ岡美谷町17-22)(要事前申込)
*15:00-18:00 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
4月23日(木) 14:00-16:00 PARASOPHIAルーム
参加者: ジョルジ・ラヴーダン(劇作家・演出家)、ミリン・グエン(工芸作家)、坂本公成+森裕子(振付・演出家、モノクロームサーカス)、フランソワ・アザンブール(環境デザイナー)、ネリー・ソーニエ(羽根工芸作家)、鷲田清一(京都市立芸術大学理事長・学長)、珠寶(華道家)、森口邦彦(染織家・人間国宝、PABメンバー)、椿昇(京都造形芸術大学教授、PABメンバー)、橋本裕介(ロームシアター京都/KYOTO EXPERIMENTプログラムディレクター)
言語: 日本語、フランス語 (逐次通訳あり) 主催: ヴィラ9条山
共催: PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015、京都市立芸術大学
申込(22日ヴィラ9条山のみ)・お問合せ: ヴィラ9条山
E-mail: event@villakujoyama.jp

㉙ [シンポジウム]
京大おもしろトーク: アートな京大を目指して
テーマ「垣根を越えてみまひよか」
4月24日(金) 18:00-20:00
会場: 京国大学 百周年時計台記念館2F 国際交流ホールI
登壇: 山極壽一(京国大学総長)、茂山千三郎(大蔵流狂言師)ほか
言語: 日本語、英語 (通訳つき)
主催: 京国大学
お問合せ: 京国大学情報環境機構土佐研究室
E-mail: request-cc@media.kyoto-u.ac.jp TEL: 075-753-9081

㉚ [座談会]
四ヶ月後、《一時的なスタディ: ワークショップ#1》への参加をめぐって
4月25日(土) 14:00-15:30
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: 《一時的なスタディ: ワークショップ#1》に参加した高校生(当時)たち、田中功起 定員: 80名

㉛ [トークイベント] アクセスプログラム
ラディカル・ダイアログ「人類進化の謎」遠藤秀紀
4月28日(火) 14:00-16:00
会場: PARASOPHIAルーム
登壇: 遠藤秀紀(東京大学総合研究博物館教授)／聞き手: 椿昇(京都造形芸術大学教授、PABメンバー) 定員: 80名

㉜ [パフォーマンス]
やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト
「[日輪の翼]「パーレスク」
4月29日(水・祝) 19:00-20:30(予定)
会場: 京都市美術館 前庭 *雨天時は会場を変更することがあります。
演出: やなぎみわ コスチュームデザイン: 中野真也
出演: 三上賀代(とりふな歌)、mecav KOTOBUKI・ERIKA RELAX(ポールダンサー)
音楽: Conguero Tres Hoofers(瀧美幸裕・SARO・西岡ヒロロー)
主催: やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト

㉝ [コンサート] 倉智敬子+高橋梧 Case of A/Being
「休日の憲法」
5月3日(日・祝) 15:00-16:30(予定)
会場: 京都市美術館 前庭 *雨天時は会場を変更することがあります。
出演: Shing02 ほか

㉞ [パフォーマンス]
やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト
「中上健次ナイト」
5月3日(日・祝) 18:00-21:00(予定)
会場: 京都市美術館 前庭 *雨天時は会場を変更することがあります。
出演: いとうせいこう、長谷川健一、船戸博史、細馬宏通、山田学ほか

㉟ [レクチャー]
リサ・アン・アワーバック「アーティストトーク」
5月8日(金) 17:00-18:30
会場: PARASOPHIAルーム
言語: 英語 (逐次通訳あり) 定員: 80名

過期のプログラム

㊱ [ワークショップ]
蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト
“大切なのは、飛べるということではない”——蔡國強
身の回りにある材料を使って、自由につくろう。つくった作品は京都市美術館の会場にて蔡(つあい)さんの作品とともに展示されます。
開催日時: 3月14日から4月26日までの土・日・祝日 10:00-16:00(随時)
会場: 京都市美術館 大陳列室
対象年齢: 5歳から10歳(小学校4年生)まで *保護者同伴、見学のみ可

シェルパツアー
PARASOPHIAサポートスタッフが企画するオリジナルツアーです。PARASOPHIAをいかに楽しむかをテーマに、ツアーを通してさまざまな角度からアクセスします。ツアーの詳細は、京都市美術館内のサポートスタッフカウンターやウェブサイト(www.paravol.jp)でお知らせします。
開催日程: 3月14日から5月10日までの土・日・祝日 14:00- (所要時間40-60分程度) *受付は1時間前から行います。
会場: 京都市美術館
●会場には、鑑賞のサポートを行うシェルパ(対話仲介者)がいます。あなたの感想や疑問を話してみてください。
●多人数でのツアーをご希望の場合は、別途サポートスタッフセンターまでお問合せください。
PARASOPHIAサポートスタッフセンター(京都芸術センター内)
TEL: 075-213-1000 FAX: 075-213-1004 E-mail: info@paravol.jp

*プログラムは、中止・変更になる可能性があります。
*「要事前申込」の記載がない場合は、原則事前申込不要(当日先着順)、参加は無料です。ただし、展示室入場のためにPARASOPHIAの鑑賞券が必要な場合があります。
*言語が記載されていないイベントは全て日本語で行います。
*主催者が記載されていないイベントは全て京都国際現代芸術祭組織委員会、一般社団法人京都経済同友会、京都府、京都市が主催します。
*「PAB」はPARASOPHIAプロフェッショナルアドバイザーボードを指します。

会期中間期にあわせて、**PARASOPHIA**とのコラボメニューが登場します。
ウェスティン都ホテル京都のバー「ムーンライト」では、食べるカクテル「PARA-COCKTAIL」、**DEAN & DELUCA KYOTO**では、参加アーティストにちなんだ各国の料理を詰め合わせたお重「DEAN & DELUCA ENSEMBLE BOXES in KYOTO」とお花見の季節に合わせて、外でも楽しめる「わっぱ弁当」をご用意いただきます。詳細は各店舗 WEB サイトをご確認ください。
DEAN & DELUCA
www.deandeluca.co.jp
ウェスティン都ホテル京都
www.miyakohotels.ne.jp/westinkyoto

[Parasophia Events]

*For updates and details on registration, please check the official website (www.parasophia.jp/en) or inquire at the venue.

PARASOPHIA COUNTDOWN

①-⑥ See website

① [Lecture]

Simon Fujiwara

March 7 (Sat.) 11:00 AM–12:00 PM

Venue: Parasophia Room / 80 seats available

Language: English (with simultaneous interpretation into Japanese)

⑦ [Workshop]

Cai Guo-Qiang “Kites with Fireworks”

March 7 (Sat.) 1:00–2:30 PM

Venue: Kyoto Botanical Garden (Shimogamo Hangi-cho, Sakyo-ku, Kyoto)

⑧ [Lecture] Keiko Kurachi & Satoru Takahashi: Case of A/Being

Shinsuke Shimojo “Illusion: Psychological

Reality of Cognition and Body”

March 7 (Sat.) 2:00–4:00 PM Venue: Parasophia Room / 80 seats available

Speakers: Shinsuke Shimojo (Professor, California Institute of Technology), Satoru Takahashi

⑨ [Talk Event] Exhibition Draft 2015: Related Event

Masumi Kawamura in Conversation with

Hong-Kai Wang

March 7 (Sat.) 4:00 PM–

Venue: Meeting Room 2, Kyoto Art Center / 40 seats available

Languages: Japanese and English (with consecutive interpretation into Japanese)

Presented by Kyoto Art Center

⑩ [Tour]

Guided Tours of the Suujin District by Hoefner/Sachs

March 7 (Sat.) 5:00–6:00 PM

Venue: Areas near the cross streets of Kawaramachi and Shiokoji Streets / up to 20 participants (registration required)

Language: English (with interpretation into Japanese)

Co-presented by Kyoto City University of Arts

⑪ Curatorial Studies 07

Mavo and Florian Pumhösl

Part 1: Round-Table Discussion

March 8 (Sun.) 1:00–2:30 PM

Venue: Lecture hall, The National Museum of Modern Art, Kyoto (Okazaki

Enshoji-cho, Sakyo-ku, Kyoto) / 80 seats available

Speakers: Florian Pumhösl and Akihiko Morishita

Languages: Japanese and English (with consecutive interpretation into Japanese)

Presented by The National Museum of Modern Art, Kyoto

⑫ [Symposium] Parasophia Conversations 03

On the Possibility of Exhibitions Outside of the Institution

A collaborative project by Parasophia & Goethe-Institut Villa Kamogawa

March 8 (Sun.) 3:00–5:00 PM

Lecture: Goethe-Institut Villa Kamogawa (19-3 Yoshida Kawahara-cho,

Sakyo-ku, Kyoto) / 100 seats available

Speakers: Andreas Beutin (Director, ZKM | Museum of Contemporary Art),

Roger M. Buergel (Director, Johann Jacobs Museum; PAB member),

Satoru Takahashi, Shinji Kohmoto

Moderator: Yuki Kamiya (Chief Curator, Hiroshima City Museum of

Contemporary Art; PAB member)

Languages: Japanese and German (with simultaneous interpretation

between both languages)

Co-presented by Goethe-Institut Villa Kamogawa

⑬ [Workshop] Parasophia Conversations 04

Hong-Kai Wang “Dancers of the Millions”

March 9 (Mon.) 10:00–1:00 PM

Venue: Parasophia Room / 15 seats available (reservation required)

Speakers: Hong-Kai Wang and others

Languages: Japanese and English (with consecutive interpretation into Japanese)

⑭ [Talk Event]

Miwa Yanagi's Stage Trailer Project

March 9 (Mon.) 3:00–4:30 PM

Venue: Parasophia Room / 80 seats available

Speakers: Shen Chao-Liang (photographer) and Miwa Yanagi

Presented by Miwa Yanagi's Stage Trailer Project

⑮ [Talk Event] Parasophia Conversations 05

Tatsuo Majima and Curators

A collaborative project by Parasophia & Japan Foundation

March 9 (Sat.) 6:00–7:30 PM

Venue: Meeting Room 2, Kyoto Art Center / 40 seats available

Speakers: Tatsuo Majima and others

Moderator: Mizuki Endo (Independent curator)

Languages: Japanese and English (with consecutive interpretation into

Japanese) Co-presented by Japan Foundation

⑯ [Lecture & Gallery Tour]

Artist Talk by Brandt Junceau

March 13 (Fri.) 2:00–3:30 PM

Venue: Kyoto Municipal Museum of Art

Language: English (with consecutive interpretation into Japanese)

⑰ [Talk Event] Exhibition Draft 2015: Related Event

Masumi Kawamura in Conversation with Miwa Yanagi

March 14 (Sat.) 4:00 PM–

Venue: Meeting Room 2, Kyoto Art Center / 40 seats available

Presented by Kyoto Art Center

⑱ [Cinema Program]

Talk by Emiko Kasahara & Kiyotaka Moriwaki

March 14 (Sat.) 7:40–8:40 PM Speakers: Emiko Kasahara and Kiyotaka

Moriwaki (Senior Curator, Kyoto Film Archive, The Museum of Kyoto;

PAB member)

Venue: Film Theatre, The Museum of Kyoto / 174 seats available (Parasophia ticket required)

⑲ [Performance]

Aki Sasamoto “The Last Call, Wrong Happy Hour”

March 19 (Thu.) – 22 (Sun.) 6:00–7:00 PM

Venue: Kamichojamachi Building, Horikawa Housing Complex / up to

30 audience members per performance (reservation required)

Performer: Aki Sasamoto

⑳ [Lecture]

Artist Talk by Aki Sasamoto

March 21 (Sat./holiday) 1:00–2:30 PM

Venue: Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA (238-1

Oshiaburakoji-cho, Nakagyo-ku, Kyoto) / 70 seats available

Co-presented by Kyoto City University of Arts

㉑ [Lecture]

Tatsuo Majima “A Kind of Contemporaneity/A Kind of Complicity”

March 29 (Sun.), April 4 (Sat.) & April 5 (Sun.) 1:00–1:15 PM

Venue: Parasophia Room / 80 seats available

㉒ [Cinema Program]

Talk by Han Yanli & Alexander Zahlten

April 5 (Sun.) 7:00–8:00 PM

Venue: Film Theatre, The Museum of Kyoto / 174 seats (Parasophia ticket required)

Speakers: Han Yanli (Associate Professor, Kwansai Gakuin University)

and Alexander Zahlten

㉓ [Gallery Talk]

Access Program [Systematic Botany] Mikinori Ogisu

April 10 (Fri.) 5:00–6:30 PM

Venue: Exhibition space, Kyoto Municipal Museum of Art (in front of the in-

stallation *Family Plot* by Ana Torfs) / up to 50 participants (valid Parasophia

ticket required)

Lecturer: Mikinori Ogisu (naturalist)

Facilitators: Noboru Tsubaki (artist; Professor, Kyoto University of Art

and Design; PAB member), Chinatsu Makiguchi (Associate Curator,

The National Museum of Modern Art, Kyoto; PAB member)

㉔ [Lecture]

Emiko Kasahara “Aesthetics within the System/The System

within Aesthetics: A Consideration from Modern Kyoto”

April 11 (Sat.) 4:00–5:30 PM Venue: Parasophia Room / 80 seats available

㉕ [Lecture] Keiko Kurachi & Satoru Takahashi: Case of A/Being

Chizuko Ueno “Taking Democracy into Our Own Hands”

April 12 (Sun.) Part 1: 1:00 PM–, Part 2: 2:45 PM–

Part 1: Lecture by Chizuko Ueno

Venue: Parasophia Room / 120 seats available

Part 2: Open Discussion “Chizuko Ueno & Audience Members”

Facilitators: Keiko Kurachi & Satoru Takahashi

Venue: Exhibition space, Kyoto Municipal Museum of Art (inside of

Ornament and Crime: Sense/Common) / up to 100 participants (valid

Parasophia ticket required)

Numbers distributed at the Information desk starting from 10:00 AM

㉖ [Outdoor Screening] Miwa Yanagi's Stage Trailer Project

100th Anniversary of Tadeusz Kantor's Birth: Commem-

orative Lecture, Symposium, and Outdoor Screening

April 12 (Sun.) Part 1: 3:00–4:30 PM, Part 2: 5:00–7:30 PM

Part 1: Lecture by Małgorzata Dzięwulska (theater writer)

Venue: Parasophia Room / 80 seats available

Part 2: Symposium & Outdoor Screening

Venue: Area in front of Kyoto Municipal Museum of Art

Speakers: Akiko Yamane (composer), Miwa Yanagi, Akira Tatehata

(former President, Kyoto City University of Arts), Małgorzata Dzięwulska

and Tokimasa Sekiguchi (Professor Emeritus, Tokyo University of Foreign Studies)

Moderator: Akiko Kasuya (Associate Professor, Kyoto City University of Arts)

Presented by Kyoto City University of Arts

Co-presented by Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015 and Instytut Polski w Tokio

With the cooperation of Culture.pl (Part 2 only)

㉗ [Cinema Program]

Talk by Tetsuaki Matsue & Alexander Zahlten

April 12 (Sun.) 7:40–8:40 PM

Venue: Film Theatre, The Museum of Kyoto / 174 seats available (Parasophia ticket required)

Speakers: Tetsuaki Matsue (film director) and Alexander Zahlten

㉘ [Tour]

Fieldwork on Modern Kyoto

April 14 (Tue.) / Meet at Kyoto Municipal Museum of Art at 1:00 PM;

tour ends in the Gojo-zaka area around 5:00 PM

Instructor: Masaaki Kidachi (Professor, Ritsumeikan University)

Venue: Kyoto Municipal Museum of Art, Fujihira Climbing Kiln (151-1

Takemura-cho, Higashiyama-ku, Kyoto), and other locations / up to 30

participants (reservation required)

㉙ [Talk Event] Access Program

Radikal Dialogue [Contemporary Art and Koan]

Shuken Furukawa

April 15 (Wed.) 2:30–4:30 PM

Venue: Parasophia Room / 80 seats available

Lecturer: Shuken Furukawa (zen master)

Facilitator: Noboru Tsubaki (artist; Professor, Kyoto University of Art

and Design; PAB member)

㊀ [Talk Event] Access Program

Radikal Dialogue [The 7th Malaria] Sayaka Ogawa

April 16 (Thu.) 2:00–4:00 PM

Venue: Parasophia Room / 80 seats available

Lecturer: Sayaka Ogawa (cultural anthropology; Associate Professor,

Ritsumeikan University)

Facilitator: Noboru Tsubaki (artist; Professor, Kyoto University of Art

and Design; PAB member)

㊁ [Cinema Program]

Talk by Yang Yong-hi & Alexander Zahlten

April 19 (Sun.) 7:00–8:00 PM

Venue: Film Theatre, The Museum of Kyoto / 174 seats (Parasophia ticket required)

Speakers: Yang Yong-hi (film director) and Alexander Zahlten

㊂ [Lecture]

Lecture by Emma Lavigne (Director, Centre Pompidou-Metz)

April 21 (Tue.) 6:00–7:30 PM

Venue: 1F Lobby, The National Museum of Modern Art, Kyoto (Okazaki

Enshoji-cho, Sakyo-ku, Kyoto) / 150 seats available

Language: English (with consecutive interpretation into Japanese)

Co-presented by The National Museum of Modern Art, Kyoto and Kyoto

Municipal Museum of Art

With the cooperation of Institut Français/Ambassade de France au Japon

㊃ **Heritage and Transmission:**

Towards for Generative Intelligence of the Future

April 22 (Wed.) 9:30 AM–12:30 PM at Villa Kujoyama (17-22 Hinooka

Ebisudani-cho, Yamashina-ku, Kyoto) *reservation required 2:00–6:00

PM at Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA

April 23 (Thu.) 3:00–4:00 PM in the Parasophia Room

Speakers: Georges Lavaudant (playwright and stage director), Mylinh

Nguyen (artisan), Kosei Sakamoto & Yuko Mori (Monochrome Circus),

François Azambour (interior designer), Nelly Saunier (plumassière),

Kiyokazu Washida (President, Kyoto City University of Arts), Shuhō

(flower arrangement), Kunihiko Moriguchi (*yuzen* kimono painting master;

Preserver of Important Intangible Cultural Properties; PAB member),

Noboru Tsubaki (artist; Professor, Kyoto University of Art and Design;

PAB member), Yusuke Hashimoto (Rohm Theatre Kyoto; Program

Director, Kyoto Experiment), and others

Languages: Japanese and French (with consecutive interpretation into Japanese)

Presented by Villa Kujoyama Co-presented by Parasophia: Kyoto In-

ternational Festival of Contemporary Culture 2015 and Kyoto City Uni-

versity of Arts

Registration (22nd at Villa Kujoyama only) and questions: Villa Kujoyama

E-mail: event@villakujoyama.jp

㊄ **Kyoto OMORO Talk for the Arts at**

Kyoto University “Crossing Genres”

April 24 (Fri.) 6:00 PM–8:00 PM

Venue: International Conference Hall I, Kyoto University

Speakers: Juichi Yamagishi (President, Kyoto University), Senzaburo

Shigeyama (kyogen performer, Okura-ryu), and others

Languages: Japanese and English (with interpretation into Japanese)

Presented by Kyoto University

Questions: Tosa Lab, Institute for Information Management and Com-

munication, Kyoto University

E-mail: request-cc@media.kyoto-u.ac.jp Phone: +81-(0)75-753-9081

㊅ [Roundtable Discussion]

Four Months Later: Reflecting on Provisional Studies:

Workshop #1

April 25 (Sat.) 2:00–3:30 PM

Venue: Parasophia Room / 80 seats available

Speakers: The (former) high school students who participated in

Provisional Studies: Workshop #1 and Koki Tanaka

㊆ [Talk Event] Access Program

Radikal Dialogue [The Mystery of Human Evolution]

Hideki Endo

April 28 (Tue.) 2:00–4:00 PM

Venue: Parasophia Room / 80 seats available

Lecturer: Hideki Endo (Professor, Comparative Morphology and Dead

Body Science, University Museum, University of Kyoto)

Facilitator: Noboru Tsubaki (artist; Professor, Kyoto University of Art

and Design; PAB member)

㊇ [Performance]

Miwa Yanagi's Stage Trailer Project

“Burlesque of The Wing of the Sun”

April 29 (Wed./holiday) 7:00–8:30 PM (tentative)

Venue: Area in front of Kyoto Municipal Museum of Art

* Performance may be moved indoors in case of rain.

Produce: Miwa Yanagi

Costume design: Shinya Kushino

Performers: Kayo Mikami (Torifune Butoh Sha), mecav KOTOBUKI,

ERIKA RELAX (pole dancer)

Music: Conguero Tres Hoofers (Yukihiro Atsumi, SARO, Hiderow Nishioka)

Presented by Miwa Yanagi's Stage Trailer Project

㊈ [Performance] Keiko Kurachi & Satoru Takahashi: Case of A/Being

Holiday Constitution

May 3 (Sun./holiday) 3:00–4:30 PM (tentative) Venue: Area in front of

Kyoto Municipal Museum of Art Performers: Shing02 and others

㊉ [Performance]

Miwa Yanagi's Stage Trailer Project

“Ken

上映期間：2015年3月10日（火）–5月10日（日）
上映会場：京都府京都文化博物館フィルムシアター

入場料：本芸術祭の入場チケットの提示で本プログラムを何度でも鑑賞いただけます。入場の際にチケットをご提示ください。
定員：174席（各回入替制。開場は上映開始の30分前。連続上映の場合は上映開始の10分前に開場）
協力：アテネ・フランセ文化センター、Celestial Filmed Entertainment Limited、東京国立近代美術館フィルムセンター
*上映スケジュールは変更することがあります。最新の情報は公式ウェブサイト（www.parasophia.jp）をご確認ください。

1. アレクサンダー・ザルテン「アジアを照らさないミラーボール。日本映画のアジア」

「日本映画における東アジア」に焦点を当て、1960年代から近年までの日本映画を中心に11作品を上映。2–3作品を一緒に鑑賞してその表現、物語、背景などを比較して楽しみください。
上映期間：2015年4月5日（日）–19日（日）

A-1. 『アジア秘密警察』 [日本版]（監督：松尾昭典、1966、97分、35mm）
4月5日（日）15:00、4月11日（日）15:00
A-2. 『アジア秘密警察』 [香港版]（監督：松尾昭典、1967、97分、35mm [今回はDVD上映]）
4月5日（日）17:10、4月11日（土）17:10
＊ [日本版] では二谷英明、[香港版] ではジミー・ウォングという、主役が異なる2つのバージョンを同日上映

B-1. 『ホノルル・東京・香港』（監督：千葉泰樹、1963、102分、35mm）
4月7日（火）18:30、4月12日（日）15:00
B-2. 『あんにょん由美香』（監督：松江哲明、2009、119分、35mm）
4月12日（日）17:30、4月17日（金）18:30

C-1. 『サウダーヂ』（監督：富田克也、2011、167分、35mm）
4月9日（木）18:00、4月18日（土）14:00
C-2. 『アジアはひとつ』 (NDU、1973、96分、16mm)
4月10日（金）18:30、4月18日（日）18:00

D-1. 『中国の鳥人』（監督：三池崇史、1998、118分、35mm）
4月14日（火）14:00、4月15日（水）18:30
D-2. 『地球で最後のふたり』（監督：ベン・エグ・ラッタナルアーン、2003、117分、35mm）
4月14日（火）18:30

2. 笠原恵実子「trigonometry」

参加作家の笠原恵実子が、PARASOPHIAのための新作にあわせて選んだ、戦中の日本および満州国が製作した国策映画、ソヴィエト連邦で製作された戦後初のカラー長編映画を上映します。
上映期間：2015年3月10日（火）–15日（日）

『**陸軍**』（監督：木下恵介、1944、87分、35mm）
3月12日（火）13:30、3月14日（土）16:10
『**白蘭の歌**』（監督：渡邊邦男、1939、102分、35mm）
3月10日（火）18:30

『**ハワイ マレー沖海戦**』（監督：山本嘉次郎、1942、117分、35mm）
3月11日（水）13:30、3月15日（日）15:30

『**迎春花**』（監督：佐々木康、1942、74分、35mm [今回はDVD上映]）
3月11日（水）18:30

『**シベリア物語**』（監督：イヴァン・フィリエフ、1947、ロシア、100分、35mm）
3月12日（木）13:30、3月15日（日）18:00

3. 参加作家特集：アラン・セクーラ

アラン・セクーラ&ノエル・バーチ『The Forgotten Space』（2010、112分）
5月

4. 参加作家特集：石橋義正

石橋義正『オー！マイキー特別編』（2002、60分）
5月

Screening dates: Tuesday, March 10–Sunday, May 10, 2015
Venue: Film Theatre, The Museum of Kyoto

Tickets: Free for *Parasophia* ticket-holders. Show your *Parasophia* ticket to see any screening.
Capacity: 174 per screening
Doors open 30 min. before screenings begin. On days with more than one film scheduled, doors open 10 min. before the next film begins.
Presented with the cooperation of Athénée Français Cultural Center, Celestia Filmed Entertainment Limited, and the National Film Center
* Please note that the screening schedule is subject to change. For the latest information, please see our website: www.parasophia.jp/en

1. Alexander Zahlten “Mirrorball on Asia”

This series of screenings of 11 films focuses on Japanese cinema in East Asia and features mainly Japanese films from the 1960s to the 2010s. Audiences are encouraged to see several films in order to compare their artistic expression, narratives, and backgrounds.
Screening dates: Sunday, April 5–Sunday, April 19, 2015

A-1. *Asiapol Secret Service* [Japan release version]
(Directed by Akinori Matsuo, 1966, 97 min., 35 mm)
Sunday, April 5, 3:00 PM / Saturday, April 11, 3:00 PM
A-2. *Asiapol Secret Service* [Hong Kong release version]
(Directed by Akinori Matsuo, 1967, 97 min., 35 mm [DVD screening])
Sunday, April 5, 5:10 PM / Saturday, April 11, 5:10 PM
* Two versions of the film will be screened on the same day: the Japanese release version, featuring Hideaki Nitani in the lead, and the Hong Kong release version, with Jimmy Wang-Yu.

B-1. *Honolulu, Tokyo, Hong Kong* (Directed by Yasuki Chiba, 1963, 102 min., 35 mm)
Tuesday, April 7, 6:30 PM / Sunday, April 12, 3:00 PM
B-2. *Annyeong Yumika* (Directed by Tetsuaki Matsue, 2009, 119 min., 35 mm)
Sunday, April 12, 5:30 PM / Friday, April 17, 6:30 PM

C-1. *Saudade* (Directed by Katsuya Tomita, 2011, 167 min., 35 mm)
Thursday, April 9, 6:00 PM / Saturday, April 18, 2:00 PM
C-2. *Asia is One* (NDU, 1973, 96 min., 16 mm)
Friday, April 10, 6:30 PM / Saturday, April 18, 6:00 PM

2. Emiko Kasahara “trigonometry”

This series of screenings of feature-length color films was chosen by artist Emiko Kasahara to complement her new work at *Parasophia*. It includes both Japanese and Manchurian wartime propaganda films and Soviet films made in the early postwar period.
Screening dates: Tuesday, March 10–Sunday, March 15, 2015

Army (Directed by Keisuke Kinoshita, 1944, 87 min., 35 mm)
Tuesday, March 10, 1:30 PM / Saturday, March 14, 4:10 PM

Song of the White Orchid (Directed by Kunio Watanabe, 1939, 102 min., 35 mm)
Tuesday, March 10, 6:30 PM

The War at Sea from Hawaii to Malay (Directed by Kajiro Yamamoto, 1942, 117 min., 35 mm)
Wednesday, March 11, 1:30 PM / Sunday, March 15, 3:30 PM

Winter Jasmine (Directed by Yasushi Sasaki, 1942, 74 min., 35 mm [DVD screening])
Wednesday, March 11, 6:30 PM

The Ballad of Siberia (Directed by Ivan Pyrev, 1947, Russia, 100 min., 35 mm)
Thursday, March 12, 1:30 PM / Sunday, March 15, 6:00 PM

3. Participating Artists Showcase: Allan Sekula

Allan Sekula & Noël Burch, *The Forgotten Space* (2010, 112 min.)
May

4. Participating Artists Showcase: Yoshimasa Ishibashi

Yoshimasa Ishibashi, *The Fuccons: Special Edition* (2002, 60 min.)
May

D-1. *The Bird People in China* (Directed by Takashi Miike, 1998, 118 min., 35 mm)
Tuesday, April 14, 2:00 PM / Wednesday, April 15, 6:30 PM
D-2. *Last Life in the Universe* (Directed by Pen-Ek Ratanaruan, 2003, 117 min., 35 mm)
Tuesday, April 14, 6:30 PM

E-1. *The Far East Apartment* (Directed by Tetsuya Mariko, 2003, 32 min., 8 mm [DVD screening])
Thursday, April 16, 6:00 PM / Sunday, April 19, 1:30 PM
E-2. *The Rambler under the Southern Cross* (Directed by Buichi Saito, 1961, 79 min., 35 mm)
Thursday, April 16, 7:00 PM / Sunday, April 19, 2:30 PM
E-3. *Dear Pyongyang* (Directed by Yang Yong-hi, 2005, 107 min., 35 mm)
Wednesday, April 8, 6:30 PM / Sunday, April 19, 5:00 PM

Talk 1: Han Yanli (Associate Professor, Kwansai Gakuin University) & Alexander Zahlten
Sunday, April 5, 7:00–8:00 PM

Talk 2: Tetsuaki Matsue & Alexander Zahlten
Sunday, April 12, 7:40–8:40 PM

Talk 3: Yang Yong-hi & Alexander Zahlten
Sunday, April 19, 7:00–8:00 PM

Sayon's Bell (Directed by Hiroshi Shimizu, 1943, 74 min., 35 mm)
Thursday, March 12, 6:30 PM

The Stone Flower (Directed by Aleksandr Ptushko, 1946, Russia, 80 min., 35 mm)
Friday, March 13, 1:30 PM / Saturday, March 14, 6:10 PM

China Night (Directed by Osamu Fushimi, 1940, 126 min., 35 mm)
Friday, March 13, 6:30 PM / Saturday, March 14, 1:30 PM

My Nightingale (Directed by Yasujiro Shimazu, 1944, 99 min., 35 mm)
Sunday, March 15, 1:30 PM

Talk:
Emiko Kasahara & Kiyotaka Moriwaki (Senior Curator, Kyoto Film Archive, The Museum of Kyoto; PAB member)
Saturday, March 14, 7:40–8:40 PM

連携企画

PARASOPHIAはさまざまな組織と連携しています。詳細は各HPでご確認ください。

【展覧会】

フジフィルム・フォトコレクション

「私の1枚」日本の写真史を飾った巨匠**101人**

3月5日（木）～5月17日（日）10:00～18:00

会場：細見美術館
www.emuseum.or.jp

横山裕一（これをネオ壁面と呼ぶ）集合する名士とけもの

壁面（映像上映） 3月6日（金）～5月31日（日）18:00～21:00

展示 3月7日（土）～5月31日（日）10:00～18:00

会場：京都国際マンガミュージアム
www.kyotomm.jp

榎本耕一 個展「超能力日本」

3月6日（金）～5月11日（月）24時間鑑賞可能

会場：HAPS オフィス1F

主催：東山アーティスト・プレイメント・サービス実行委員会（HAPS）
www.haps-kyoto.com

観 optics KANHIKARI ART EXPO 2015 ～日本の美とこころ～

高台寺：3月6日（金）～5月6日（水）9:00～22:00

御寺泉涌寺、東本願寺・浄土院（釈迦堂）：

4月27日（月）～5月6日（水）9:00～16:30

kanhikari.com

「KYOTO」駅ナカアートプロジェクト（地下鉄駅構内に9大学の作品展示）

3月7日（土）～5月31日（日）

会場：国際会館、松ヶ崎、北大路、五条、くいな橋、柳辻、東山、京都市役所前、二条城前、太秦天神川 各駅構内
www.city.kyoto.lg.jp/kotsu

「おのり」都「京とパリが創る5つの香りアート」日仏学生交流『山本直樹WS』

3月7日（土）～5月10日（日）

会場：堀川出水団地第3棟

未来と記憶のプロジェクト

5月1日（金）～5月10日（日）12:00～18:00

会場：堀川出水団地第3棟318号

主催：京都嵯峨芸術大学 味と匂い研究会
www.perfumeartproject.com

現代京都藝苑2015

「悲とアニマ―モノ・学・感覚価値研究会」展

会場：北野天満宮

3月7日（土）～3月14日（土）9:00～17:00

（3月12日（木）のみ12:00～17:00）

「素材と知覚 ―『もの派』の根源を求めて」展

会場：虚白院、遊狐草舎

3月7日（土）～3月22日（日）10:00～17:00

「連続の縫い ― conti/nuil/é」展

会場：The Terminal KYOTO

3月7日（土）～3月22日（日）11:00～18:00

「記憶の焼結 ― conti/nuil/é」展

会場：五条坂京焼登り窯（旧藤平）

3月7日（土）～4月12日（日）12:00～18:00

主催：現代京都藝苑実行委員会

www.kyoto-contemporary-art-network.net

ULTRA×ANTEROOM exhibition 2015

3月7日（土）～5月10日（日）12:00～19:00

会場：ホテル アンテルーム 京都

www.hotel-anteroom.com

白川野外美術展2015

3月8日（日）～3月22日（日）9:00～17:00

岡崎～三条～知恩院を流れる白川の川の中に作品展示

主催：京都彫刻家協会

真下武久 para-motion

3月30日（月）～5月9日（土）12:00～18:00

会場：成安造形大学【キャンパスが美術館】

www.seian.ac.jp/gallery

天オアートミュージアム展2015

4月2日（木）～4月14日（火）11:00～18:00

会場：堀川御池ギャラリー

*シンポジウム：4月12日（予定）

会場：堀川音楽高校音楽ホール

主催：特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構

www.tensai-art.com

三瀬夏之介「日本の絵～執拗低音～」展

4月7日（火）～26日（日）9:00～17:00

会場：京都市美術館別館

主催：京都市美術館

www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma

超京都artkyoto2015

4月24日（金）16:30～19:30

4月25日（土）10:00～19:30

4月26日（日）10:00～17:00

会場：京都府京都文化博物館5階全室、ちおん舎

www.chokyoto.com

桑原櫻子×近藤高弘「水生華」

5月9日（土）～5月10日（日）11:00～17:00

会場：富春軒（桑原専慶流家元）

www.kuwaharaseikei.com

琳派400年記念祭

「第49回京の冬の旅 非公開文化財特別公開」

「琳派400年記念展 現代作家200人による日本画・工芸展「京に生

きる琳派の美」

「琳派400年記念プロジェクトマッピング」ほか

www.rimpa400.jp

〈地図アプリでアートをサポートを紹介〉

パラソフィアART MAP

3月16日（月）～5月6日（水）11:30～19:30

会場：京都精華大学kara-s

www.artmap.digicre.jp

〈スタンプラリー〉

第20回京都ミュージアムロード「とっておきの京の文化巡り」

1月28日（水）～3月29日（日）

京都市内の博物館・美術館90施設が参加

www.kyohakuren.jp/news/2014/12/20.html

ART GRID KYOTO～交錯する文化～

PARASOPHIA会期中、京都を盛り上げる数々の個性的な企画が登

場。元・立誠小学校にビジターセンターを設置し、Webサイト、広報

誌、マップで、さまざまなイベント情報をダイレクトにお伝えします。レ

クチャーやツアーも開催。

主催：アートエグジビジョン・京都実行委員会

artgridkyoto.jp/jp

【同時開催イベント】

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2015|KG+|Sound Exhibition

2015 ～音の展覧会～|いつまでも世界は…|第143回 都をどり

「花都琳派染模様」|京都観世会例会|先斗町 思い出ヒアリング

パネル展|第2回京都ふるとろ市|京都の暑い夏 第20回京都都

国際ダンスワークショップフェスティバル|劇場的春、京都|第0回全

国学生演劇祭|KYOTO OFF 2015|Kyoto Art Map|京都銭湯芸

術祭二〇一五ほか



継 往 開 来

京都嵐山の歴史・文化を継承し、新たな未来を創造する。

森トラスト＋ラグジュアリーコレクション

世界中の旅行者を魅了する

スターウッドの最高級カテゴリーブランドホテル

「翠嵐 ラグジュアリーコレクションホテル 京都」

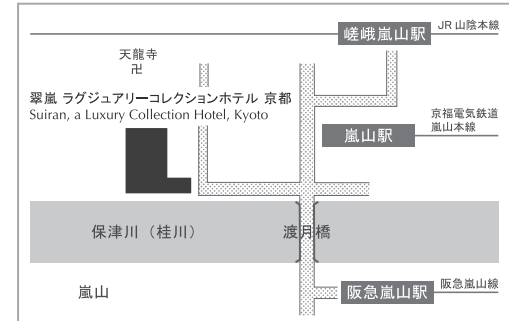
2015 年春誕生。

予約受付電話番号：075-872-1717

<http://www.suirankyoto.com>

都市を託される責任。

森トラスト



Other events

Please visit the websites below for more information about each event.

EXHIBITION:

Fuji Film PHOTO COLLECTION: My one "101 people masters decorated with photo history of Japan"

Date: March 5–May 17 Open: 10:00–18:00
Venue: Hosomi Museum
www.emuseum.or.jp

Yuichi Yokoyama: This is NEO WALL "Gathering Celebrities and Beasts"

Projection Mapping Date: March 6–May 31 Open: 18:00–21:00
Exhibition Date: March 7–May 31 Open: 10:00–18:00
Venue: Kyoto International Manga Museum
www.kyotomm.jp

Koichi Enomoto: The 6 Way to the Psychic JPN

Date: March 6–May 11 Open: for 24 hours
Venue: HAPS office 1F
Presented by Higashiyama Artists Placement Service
www.haps-kyoto.com

KANHIKARI ART EXPO 2015: Japanese beauty and mind

Kodaiji Date: March 6–May 6 Open: 9:00–22:00
Onterasennyuji, Higashihonganji Date: April 27–May 6
Open: 9:00–16:30
kanhikari.com

Kyoto ekinaka Art Project: The exhibition of 9 University in subway campus

Date: March 7–May 31
Venue: Station yard in Kyoto city subway
(Kokusaikaikan, Matsugasaki, Kitaoji, Gojo, Kuinabasi, Nagitsuji,
Higashiyama, Kyotosiyakusymae, Nijojoae, Uzumasa-
tenjingawa)
www.city.kyoto.lg.jp/kotsu

Perfume Art Project IV @MEISEI: parfum du parfum

Date: March 7–May 10
Venue: Horikawa Housing Complex 3

Future and memory project

Date: May 1–10 Open: 12:00–18:00
Venue: Horikawa Housing Complex 3-318
Presented by Kyoto Saga University of Arts
www.perfumeartproject.com

Kyoto Contemporary Art Network Exhibition 2015 conti/nuite

Date: March 7–April 12 Open: 12:00–18:00
Venue: The Fujihira Climbing Kiln
www.kyoto-contemporary-art-network.net

ULTRA × ANTEROOM exhibition 2015

Date: March 7–May 10 Open: 12:00–19:00
Venue: HOTEL ANTEROOM KYOTO
www.hotel-anteroom.com

para-motion: Takehisa Mashimo

Date: March 30–May 9 Open: 12:00–18:00
Venue: SEIAN UNIVERSITY OF ART DESIGN
[SEIAN ART CENTER]
www.seian.ac.jp/gallery

Art Brut' The Tensai Art Museum 2015 Exhibition

Exhibition Date: April 12–14 Open: 11:00–18:00
Venue: Gallery of horikawaoike
Symposium Date: April 12 [TBC]
Venue: Horikawa high school music hall
Presented by The TENSAN Art Museum Kyoto
www.tensai-art.com

Natsunosuke Mise: Painting of Japan "basso ostinato"

Date: April 7–26 Open: 9:00–17:00
Venue: Annex, Kyoto Municipal Museum of Art
Presented by Kyoto Municipal Museum of Art
www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma

Chokyoto: artkyoto 2015

Date (Opening hours):
April 24 (16:30–19:30), April 25 (10:00–19:30),
April 26 (10:00–17:00)
Venues: Annex, The Museum of Kyoto 5F, Chionsha
www.chokyoto.com

Sakurako kuwahara × Takahiro kondo:

Suiseika
Date: May 9–10 Open: 11:00–17:00
Venue: Fushunken
www.kuwaharaseikei.com

Celebrating 400 Years of the Rimpa

Kyo no Fuyu no Tabi (Winter Travels in Kyoto)
The Great Painters RIMPA from the Hosomi Collection
Rimpa School 400th Anniversary Projection Mapping, etc.
www.rimpa400.jp

DEVELOPING THE APPLICATION:

PARASOPHIA ART MAP

Date: March 16 Open: 11:30–19:30
Venue: Kyoto Seika University kara-s
Presented by KYOTO SEIKA UNIVERSITY
www.artmap.digicre.jp

STAMP RALLY:

Kyoto Museum Road: Special Kyoto Cultural tour

Date: January 28–March 29 (90 museums participate)
www.kyohakuren.jp/news/2014/12/20.html

ART GRID KYOTO~Intersecting Cultures~

ART GRID KYOTO is the information of art and culture of Kyoto to inside and outside the country in addition, to connect the people who are living in this field. For more information, visit the ART GRID KYOTO visitor center & website. Presented by Executive Committee of Art Exhibition Kyoto
www.artgridkyoto.jp/jp

僕は、夢をみる。

ひとりのサッカー選手として、
23歳の男として、そして親として、
夢みている世界がある。

そこには、言葉の壁なんてない。
みんなが自分の国の言葉で、
世界中の人とジョークを言い合える。
家族とは離れていてもつながっていて
いつも安心してくらしている。
休日には、サイコーの音楽と一緒に
クリーンで快適なクルマで
気の向くままに走ったり。

それは、ただの空想なんかじゃない。
僕たちの未来はいつだって、
夢をみることからはじまるのだから。

パナソニックは、
2020年という変革の時へ向け、
そんな夢の一つひとつを
たくさんのパートナーとともに
実現しようとしています。
家、クルマ、そして街じゅうへ
オドロキのある未来を届けるために。
私たちの新しい一歩にご期待ください。



パナソニック
グローバルキャラクター
ネイマールJr. 選手
サッカーブラジル代表
FC Barcelona所属

この世界をワンダーに。

Wonders!
by Panasonic

Panasonic

panasonic.co.jp

Kyoto Art Map 2015

Art Space KAN

●吉田 晃良 / TERUYOSHI Yoshida 4月21日(火)～5月6日(水・祝) 4月27日(月)休廊
日本の気配・触視の次元 枯山水の庭に豊かな水の気配を感じ、季節のはざまの風や空気の香りに季節の気配を見る。冬の風景が描かれた襖絵に囲まれながら早春の庭を鑑賞する。我々は絵画や彫刻に接する時、何かの気配を見、知ることがある。絵画に四季の気配を感じ、彫刻に壮大な庭園や借景を想う。日本の襖絵や掛け軸を見る時、見ることを超えた触れる眼差して鑑賞する観者の視線が我々にあることに気づく。



ART SPACE NIJI

●森本紀久子展 / MORIMOTO KIKUKO
4月7日～19日(月・休)
●臼杵春芳 漆プロジェクト / USUKI HARUYOSI
4月21日(火)～26日
●やなぎみわ / Yanagi Miwa
4月28日(火)～5月17日(月・休)



Kyoto Art zone Kaguraoka

●イタリア現代作家版画展 / Italian Contemporary Print Exhibition
3月27日(金)～4月12日(日)(水・木休み)
●“fern- butterfly effect” 橋 宣郁子 / TACHIBANA Seiko
4月17日(金)～5月3日(日)(水・木休み)
●篠原 奎次 / SHINOHARA Keiji
5月8日(金)～5月24日(日)(水・木休み)



Antenna Media

●「ブラレシオ」 4月20日(月)～26日(日)
愛くるしいキャラクターと無機質な幾何学模様とを、奇妙なバランスで描き繋ぐ西ノ田と、オタクが偏愛する装飾を凝縮した美少女を、あえてレイヤー別に分解し、キャンバスやプラスチックに出力するイセ川ヤスタカ。二人はそれぞれの方法で合成と分割を試みる。キュレーター黒崎想氏の手により、これらの要素をブラレシオ(合成比)という造語で名指し、まったく新しい空間体験を試みる。



imura art gallery

●佐藤雅晴 / Masaharu SATO 「1×1=1」
04.18 (sat.) – 05.23 (sat.) Closed : Sundays, Mondays, National Holidays
ひとつのものをふたつにしてみたり、ふたつのものをひとつにしてみる。そして、写真という複写された対象をトレースし、再び描くという行為を用いて複写する。ひとつの被写体を画面に複数化することで、現実には存在しない世界、独自の制作方法によってのみ表現することのできる写真と絵画の境界を描いている。



eN arts

●05.06 (fri.) - 05.31 (sun.) open on fri., sat. & sun. 12:00-18:00
[showcase #4 - つくりもの Constructs -] 中島大輔 | Daisuke Nakajima 山崎雄策 | Yusaku Nakajima
キャンノン写真新世紀の審査員も務める現代美術評論家 清水穠氏キュレーションの写真展 [showcase]。今年で 4 回目となる本展のテーマは「つくりもの」。自然派と技巧派、2つの個性が織りなす「つくりもの」の世界をぜひご覧下さい。



GALLERY ARTISLONG

●KYOTOGRAPHIE 国際写真フェスティバル KG+
安田雅和展 YASUDA MASAKAZU カーボンプリント 4月14日(火)～4月26日(日)
●荒瀬加奈女展 ARASE KANAME 和紙の間に間に 4月28日(火)～5月10日(日)
キッズゲルニカの絵画や広島の写真をベースに天具帖という薄い和紙を重ねたコラージュ作品。平和な未来を願って、。
※12:00～19:00 (最終日～17:00) closed on Mondays



From the museum to the gallery. From the gallery to the museum.
美術館からギャラリーへ。ギャラリーから美術館へ。

GALLERYGALLERY

●ミニアチュール展—THE KYOTO— 3月31日(火) - 4月19日(日)
31 March (tus.) – 19 April (sun.) Miniature works – THE KYOTO – (by mix media)
●三橋 道個展 ミックスメディアによる空間構成 4月25日(土) - 5月10日(日)
25 April (sat.) - 10 May (sun.) Jun MITSUHASHI solo exhibition (installation by mix media)
12:00-19:00 毎木曜と4/20-24休 closed: thursdays and 4/20-24

GALLERYR3JJJA

〒600-8018 京都市下京区四条河原町下ル 寿ビル 5F
www.fiberart-jp.com

GALLERY KEI-FU

●「The Silent Drama」ツツミアスカ / TSUTSUMI Asuka
4月7日(火)～19日(日)(月・休)
私の作品は、見れば見るほどに、木版画にも写真にも絵画にも見えません。時には、映像のようだ、とも言われます。そこには、不思議な質感を持った画像が、静かに現れて行きます。一何を見て 何を感じ 何に感動したのか—この言葉と共に、作品をつくり、発表をしています。
12:00-19:00 / 最終日 18:00 まで



galerie16

●「大崎のぶゆき展 / Osaki Nobuyuki—Display of surface.」…～4月11日(土)
●tracing1970s「植松奎二展—見えない力— / Keiji Uematsu - Invisible Force」
4月14日(火)～25日(土)
●「津田睦美展 / Mutsumi Tsuda—Dialogues.」 4月28日(火)～5月9日(土)
*12:00～19:00 (sunday and last day ～18:00) / closed on Mondays



Gallery SUZUKI

●中小路萌美 / NAKAKOJI Moemi 4月7日(火)～12日(日)
●辻並啓子 / TSUJINAMI Keiko 4月14日(火)～19日(日)
●板倉小二郎 / ITAKURA Kojiro 4月21日(火)～26日(日)
●斉藤真人・奥井美貴 / SAITOU Masato・OKUI Miki 4月28日(火)～5月3日(日)
●奥井美貴・岸川登志幸 / OKUI Miki・KISHIKAWA Toshiyuki 5月5日(火)～10日(日)



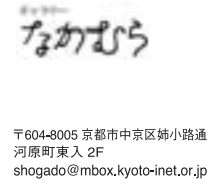
GALLERY TOMO

●秋山 淳 / JUN AKIYAMA 個展「きれいな温度」4月7日(火)～19日(日)
●「パラソル」/ PARASOL 4月28日(火)～5月10日(日)
主演 会田誠 徳本質世子 監督 ヨージ・コンドー Presents by YODOYA
●北川 樹里 / JURI KITAGAWA 個展 “きのあるところ” 5月12日(火)～17日(日)
※月曜休



Gallery NAKAMURA

●宮永甲太郎展 4月7日(火)～5月3日(日)(月曜休廊)
満たされた大きな壺と満たされない小さな器からささやかに隠された何かに気付くとき想像することがはじまります。 私は人間に想像力があるかぎり、自由なのだと考えています。 自由であるための習作として、今回の展示を考えました。是非会場に足を運び、想像する事を楽しんでいただければ幸いです。



GALLERY MARONIE

●山本雄教展 / Yamamoto Yukyo
4月7日～19日(月・休)
●安見友太 / Yasumi Yuta
4月14日～26日(月・休)
●マッチ展 / Match exhibition
4月21日～5月3日(月・休)



gallery morning kyoto

●山部泰司展 / YAMABE Yasushi 4月7日(火)～19日(日)
「ワーキングアクア 2015」 “Working aqua 2015”
●中川雅文展 / NAKAGAWA Masabumi 4月21日(火)～5月3日(日)
●美崎慶一展 / MISAKI Keiichi 5月5日(火)～17日(日)
※12:00から19:00 (月曜日休み、日曜日17:00まで)



〒605-0034 京都市東山区三条通
白川橋東入四丁目中之町 207番地
gallerymorningkyoto.com

KUNST ARZT

●「ディズニー美術 / Disney Art」 入江早耶 / IRIE Saya, 岡本光博 / OKAMOTO Mitsuhiro,
ビルビ・タカラ / Pilvi Takala, 高須健市 / TAKASU Kenichi, 福田美蘭 / FUKUDA Miran,
text by 作田知樹 / SAKUTA Tomoki
4月28日(火)～5月10日(日)
12:00 から19:00 (月曜日休み、最終日 17:00 まで)



〒605-0033 京都市東山区夷町
155-7 2F
www.kunstarzt.com

COHJU contemporary art

●坪田昌一 振動する領域 / The Vibrant Field 4月4日(土)～26日(日) 火・水休廊
私たちの周りには、たえず色がある。それは物質的なものだけではなく、現象的なものあるいは
夢や無意識の中にも存在し、意識・無意識に関わらず影響を及ぼしている。色は振動し、音
となり時となり、重なり、呼吸や脈拍と連動して増幅してゆく。我々の中に眠っているものを
露にする事で、認知している今を拡張し、深く広く世界を感じることは出来ないだろうか・・・

COHJU contemporary art

〒604-0981京都市中京区寺町丸太町
西入毘沙門町 557 江寿ビル 1 階
www.cohju.co.jp

DOHJIDAI GALLERY of ART

ギャラリー：「collecting time 2015」4月28日(火)～5月10日(日)
※会期中無休 12 時～19 時開廊 (最終日はギャラリーは17時迄、コラージュは18時迄)
同時代ギャラリーとジュネーブの Espace Cheminée Nord が行うアーティストインレジデンス。
(Artists) Naomi Del Vecchio, Léonard Félix, Charlotte Fontaine, Kristina Irobalieva,
Adrien Rumeau, Anja Seiler
ギャラリーショップコラージュ：宮田雪乃 / MIYATA Yukino 企画「Taste of Water」

同時代ギャラリー
DOHJIDAI GALLERY of ART

〒604-8082 京都府京都市中京区
三条通御幸町東入弁慶石町 56
1928 ビル 1F
www.dohjidai.com/

MAEDA HIROMI ART GALLERY

未定

MAEDA
HIROMI
ART GALLERY

〒604-0911京都市中京区河原町通
二条上ル清水町352 佐藤ビル 2F
www.maedahiroshi.com

MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w

●牧野和馬写真展「境界線」
4月18日(土)～5月10日(日) 11～19 時 / 5月10 日以外の日曜・月曜休み
18 April – 10 May Kazuma Makino photo exhibition “ the border “
closed on Sun. & Mon. except 10 May

MATSUO MEGUMI+
VOICE GALLERY pfs/w

〒600-8061京都市下京区富小路通
高辻上る筋屋町 147-1
www.voicegallery.org

MORI YU GALLERY

●アレクサンドル・モベール「a singular community」4月17日(金) - 5月31日(日)
12:00-19:00 (月・火・祝日 休廊)
*4月19日(日) アーティストトーク 17:00- 18:30 / オープニングレセプション 18:30- 21:00
2015.4.17 (fri) - 5.31 (sun) Alexandre Maubert 「a singular community」
12:00-19:00 (closed on Mon, Tue and National holiday)
*4.19 (sun) artist talk 17:00 - 18:30 / opening reception 18:30-21:00

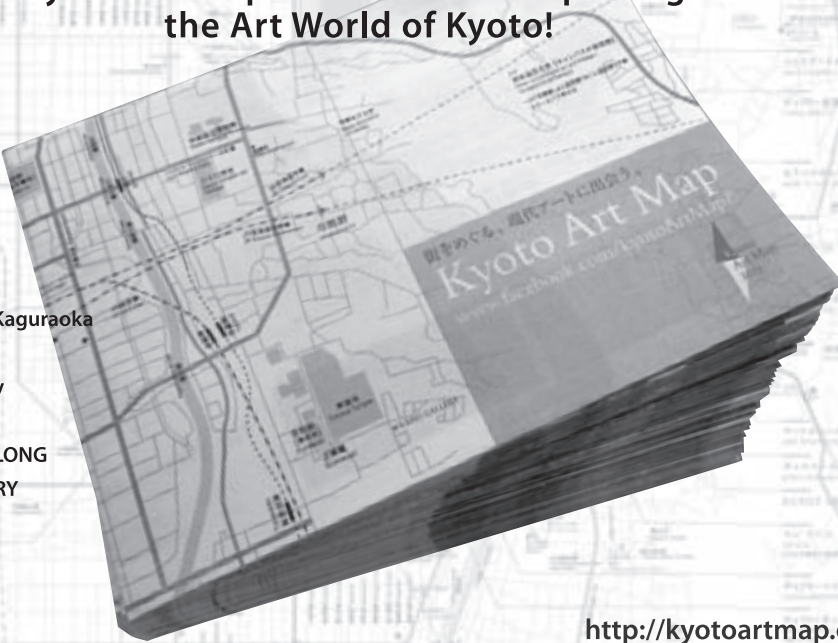
MORI YU GALLERY

〒606-8357京都市左京区聖護院
蓮華蔵町 4-19
www.moriyu-gallery.com

美術館からギャラリーへ。ギャラリーから美術館へ。
京都の現代アートを歩こう。

Kyoto Art Map

From the Museums to the Galleries.
From the Galleries to the Museums.
Kyoto Art Map 2015 is now available.
Kyoto Art Map is THE tool for exploring
the Art World of Kyoto!



Art Space KAN
ARTSPACE NIJI
Kyoto Art zone Kaguraoka
Antenna Media
imura art gallery
eN arts
GALLERY ARTISLONG
GALLERYGALLERY
GALLERY KEI-FU
galerie16
Gallery SUZUKI
GALLERY TOMO
Gallery NAKAMURA
GALLERY MARONIE
gallery morning kyoto
KUNST ARZT
COHJU contemporary art
DOHJIDAI GALLERY of ART
MAEDAHIROMI ART GALLERY
MATSUO MEGUMI +VOICE GALLERY pfs/w
MORI YU GALLERY

※「Kyoto Art Map 2015」は、掲載ギャラリー・他で無料配布しています。

<http://kyotoartmap.org>
<https://www.facebook.com/KyotoArtMap>



PARASOPHIA:京都国際現代芸術祭と並行して21ギャラリーが展覧会を開催中。

[協賛]



[寄付]

イワモトエンジニアリング株式会社、株式会社ウエダ本社、株式会社響映、株式会社共栄薬研、学校法人京都産業大学、株式会社京都センチュリーホテル、株式会社キング、有限会社ケイ・アソシエイツ、株式会社三洋商事、学校法人大和学園、

[協力]

京都国立近代美術館、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、成安造形大学、アランヴェールホテル京都、公益財団法人 石川文化振興財団、Imagineering実行委員会、ウェスティン都ホテル京都、株式会社大垣書店、京都東急ホテル、京都みなみ会館、株式会社クロスカンパニー、ジャパンマテリアル株式会社、

[助成]



[後援]

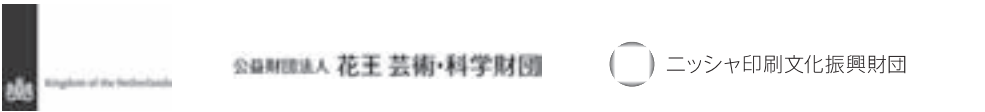


[認定]



土山印刷株式会社、西村証券株式会社、日新電機株式会社、株式会社福寿園、ホテルアンテルーム京都、立木貞昭、八木茂

大丸京都店、高島屋 京都店、株式会社ディーアンドデューカジャパン、ハイアット リージェンシー 京都、BAL、ヤサカ自動車株式会社



公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人京都地域創造基金助成事業に採択



[メディアパートナー]



リサ・アン・アワーバック	Lisa Anne Auerbach	28,57
ナイリー・バグラミアン	Nairy Baghramian	38
蔡 國強(ツァイ・グオチャン)	Cai Guo-Qiang	13
ヨースト・コナイン	Joost Conijn	31
スタン・ダグラス	Stan Douglas	20
ハルーン・ファロッキ	Harun Farocki	43
サイモン・フジワラ	Simon Fujiwara	21
ドミニク・ゴンザレス=フォルステル	Dominique Gonzalez-Foerster	29,55
ヘフナー / ザックス	Hoefner/Sachs	45,64
ヘトヴィヒ・フーベン	Hedwig Houben	23
石橋義正	Yoshimasa Ishibashi	37
ブランド・ジュンソー	Brandt Junceau	22,61
笠原恵実子	Emiko Kasahara	33
ウィリアム・ケントリッジ	William Kentridge	15
ラグナル・キヤルタンソン	Ragnar Kjartansson	42
倉智敬子+高橋 悟	Keiko Kurachi & Satoru Takahashi	35
ルイズ・ローラー	Louise Lawler	41,53
アン・リスレゴ	Ann Lislegaard	19
眞島竜男	Tatsuo Majima	36
アフメド・マータル	Ahmed Mater	34
アーノウト・ミック	Aernout Mik	58
森村泰昌	Yasumasa Morimura	54
スーザン・フィリップス	Susan Philipsz	47,52
フロリアン・プムヘル	Florian Pumhösl	16
ピピロティ・リスト	Pipilotti Rist	60
アリン・ルンジャン	Arin Rungjang	27
笹本 晃	Aki Sasamoto	62
アラン・セクーラ	Allan Sekula	44
グシュタヴォ・シュベリジョン	Gustavo Speridião	26
高嶺 格	Tadasu Takamine	25
田中功起	Koki Tanaka	40
アナ・トーフ	Ana Torfs	30
ローズマリー・トロツケル	Rosemarie Trockel	39
ジャン=リュック・ヴィルムート	Jean-Luc Vilmouth	14
ヤン・ヴォー	Danh Vo	24
王 虹凱(ワン・ホンカイ)	Hong-Kai Wang	32
徐 坦(シュー・タン)	Xu Tan	17
やなぎみわ	Miwa Yanagi	46
アレクサンダー・ザルテン	Alexander Zehlten	56

吉岡 洋 | 『パラ人』とは何かということですね、
 「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」の「半公式」フリーペーパーということになっています。「パラソフィア」の雑誌 (zine) だから「パラジン」、カタカナだと正体不明なので「パラ人」にしました。ますます正体不明ですけどね (笑)。これは、パラソフィアを宣伝するための媒体ではありません。むしろパラソフィアから養分をもらいながら勝手に生きている「パラサイト (寄生体)」なのだと、説明しています。でもそのことによって結果的には、パラソフィアを世に知らしめることにもなる。そういう意味で「半公式」なのです。

編集の主体は京都近郊の学生ボランティアで、「パラ人たち」と呼ばれています。編集長がいないと格好がつかないので、先生ボランティアとして吉岡が「パラ集長」をつとめてきました。中身はこの芸術祭の具体的内容とはほとんど関係がありません。とはいえ「宿主」のパラソフィアは気になるので、「パラソフィアってそもそも何？」というところから議論を始めていま

す。議論というより「おしゃべり」ですね。おしゃべりのためのおしゃべりをえんえんと続ける、というコンセプトです。何か有意義なことやタメになることを言わねばならない、という不自由さから逃れたいのです。

ほぼ季刊で、本芸術祭の開催前1年間に4号を刊行しました。判型がタブロイド→B4→A4→B5と、毎月小さくなってきました。開催期間中に刊行される第005号は、このガイドブックと同じA5版です。毎月判型が変わるなんてほとんど反則ですが (笑)、これもパラ人たちの発案です。

パラ人 | PARAZINE

第005号は京都大学総長の山極寿一さんをゲストに迎えた特別号ですが、これが終刊とは考えていません。表紙の号数が3桁表示になっていることから分かるように『パラ人』は100号を目指しています。ただパラソフィアの閉幕とともに、しばらく休眠に入ります。また環境が整えば、活動を再開することでしょう。

パラ人 (no. 001-004) 2014-5
 PARAZINE (no. 001-004) 2014-5



* 『パラ人』001-004号は、PARASOPHIA主要会場にあります。005号は本ガイドブックの限定付録として、会期中に刊行されます。いずれも部数が限られているので、手に入らない場合は、PARASOPHIAホームページからPDF版をダウンロードしてください。

www.parasophia.jp/publications/#parazine

